

目 次 Contents

人口動態統計とは Outline of vital statistics	4
比率の解説 Explanation of rates	5
人口 Population	
我が国の人口ピラミッドー平成22年10月1日現在ー	6
年齢3区分別人口割合の年次推移ー昭和22～平成22年ー	6
都道府県別にみた年齢3区分別人口割合及び老年人口指数ー平成22年ー	7
人口動態の年次推移 Trends in major indices for the vital events	
1日平均件数の年次推移	8
出生の動き Natality	
出生数及び合計特殊出生率の年次推移ー明治32～平成22年ー	9
母の年齢階級別出生率の年次推移ー昭和22～平成22年ー	9
出生順位別にみた出生数及び合計特殊出生率の年次推移ー昭和45～平成22年ー	10
出生順位別にみた父母の平均年齢の年次推移ー昭和50～平成22年ー	10
都道府県別にみた合計特殊出生率の年次比較ー平成12・22年ー	11
都道府県別にみた第1子出生時の母の平均年齢の年次比較ー平成12・22年ー	11
結婚生活に入ってから第1子出生までの期間別にみた出生数割合及び平均同居期間の年次推移 ー昭和55～平成22年ー	12
結婚生活に入ってから第1子出生までの期間（1年未満）別にみた母の年齢階級別出生数ー平成22年ー	12
性別にみた出生時平均体重及び2,500g未満出生数割合の年次推移ー昭和50～平成22年ー	13
妊娠期間別出生数割合の年次推移ー昭和55～平成22年ー	13
合計特殊出生率の年次推移ー諸外国との比較 1947～2010年	14
主な国及び地域の合計特殊出生率	14
死亡の動き General mortality	
死亡数及び死亡率の年次推移ー明治32～平成22年ー	15
性別にみた都道府県別死亡率及び65歳以上人口割合ー平成22年ー	16
主な死因別にみた死亡率の年次推移ー昭和22～平成22年ー	17
3大死因別にみた性別年齢調整死亡率の年次推移ー昭和22～平成22年ー	17
部位別にみたがんの死亡率の年次推移, 男ー昭和25～平成22年ー	18
部位別にみたがんの死亡率の年次推移, 女ー昭和25～平成22年ー	19
性・年齢階級別にみた主な死因の死亡数ー平成22年ー	20
熱中症による死亡数の年次推移ー平成2～22年ー	21
熱中症による月別死亡数の年次推移ー平成19～22年ー	21
死亡率の年次推移ー諸外国との比較 1947～2010年	22
年齢調整死亡率の諸外国との比較 2008年	22
性別にみた主な死因別死亡率の諸外国との比較	23
乳児死亡の動き Infant mortality	
生存期間別にみた乳児死亡率の年次推移ー昭和25～平成22年ー	24
死因別乳児死亡数割合ー平成22年ー	24
乳児死亡率の年次推移ー諸外国との比較 1947～2010年	25
生存期間別乳児死亡率の諸外国との比較	25
自然増減の動き Natural change	
自然増減数及び自然増減率の年次推移ー明治32～平成22年ー	26
都道府県別にみた自然増減数及び自然増減率ー平成22年ー	27
性別にみた出生数及び死亡数の年次推移ー明治32～平成22年ー	27

死産の動き Foetal mortality

自然－人工別にみた死産率の年次推移－昭和25～平成22年－	28
妊娠期間（4週区分）別にみた性別自然死産数－平成22年－	28

周産期死亡の動き Perinatal mortality

周産期死亡数及び周産期死亡率の年次推移－昭和54～平成22年－	29
周産期死亡率の諸外国との比較	29

婚姻の動き Marriages

婚姻件数及び婚姻率の年次推移－昭和22～平成22年－	30
夫妻とも再婚又はどちらか一方が再婚の婚姻件数の年次推移－昭和27～平成22年－	30
夫・妻の年齢階級別にみた婚姻件数及び平均婚姻年齢の年次推移－昭和22～平成22年－	31
結婚生活に入ったときの年齢階級別にみた初婚率・再婚率（人口千対）の年次比較－平成2・12・22年－	32
夫妻の一方が外国人の国籍別婚姻件数の年次推移－昭和40～平成22年－	32
夫妻の一方が外国人の国籍別割合－平成22年－	32
婚姻率の年次推移－諸外国との比較 1947～2010年	33
<参考>出生に占める嫡出でない子の出生割合の国際比較	33

離婚の動き Divorces

同居期間別にみた離婚件数の年次推移－昭和22～平成22年－	34
<再掲>同居期間20年以上の離婚件数－昭和50～平成22年－	34
親権を行う者別にみた離婚件数及び親が離婚をした未成年の子の数の年次推移 －昭和25～平成22年－	35
夫・妻の年齢階級別にみた有配偶離婚率（有配偶人口千対）の年次比較－平成12・22年－	35
離婚率の年次推移－諸外国との比較 1947～2010年	36

平成22年度「出生に関する統計（人口動態統計特殊報告）」から

Live Births (Specified Report of Vital statistics) 2010

出生コーホート別にみた第1子年齢別累積出生率－昭和30・35・40・45・50・55年生まれ－	37
母の年齢階級別にみた結婚期間が妊娠期間より短い出生の嫡出第1子出生に占める割合 －平成7～21年－	37

寿命 Life expectancy at birth

各国の平均寿命の年次推移 1947～2010年	38
-------------------------	----

統計表 Statistical tables

第1表 人口動態総覧，年次別（明治32年以降）	40
第2表 人口動態総覧，都道府県別（平成22年）	44
第3表 主な死因の死亡数・死亡率（人口10万対），都道府県別（平成22年）	46
第4表 主な死因の死亡数・死亡率（人口10万対），性・年齢階級別（平成22年）	48
第5表 性・年齢階級別にみた死因順位（平成22年）	50
第6表 都道府県別にみた死因順位（平成22年）	53
付録 諸率の算出に用いた人口	54

死因分類の変更とその影響	55
--------------	----

年齢調整死亡率について	55
-------------	----

基準人口－昭和60年モデル人口－	55
------------------	----

人口動態統計とは Outline of vital statistics

我が国では、出生・死亡・婚姻・離婚及び死産の5種類の「人口動態事象」について、人口動態統計を作成している。

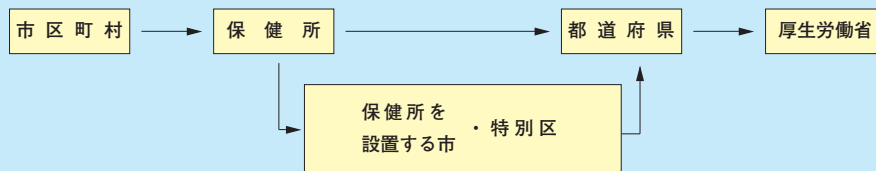
出生・死亡・婚姻及び離婚については「戸籍法」により、死産については、「死産の届出に関する規程」によって、それぞれ市区町村長に届け出られる。市区町村長は、これらの届書及び出生証明書・死亡診断書・死産証書等の関係書類に基づいて「人口動態調査票」を作成する。調査票は、地域保健活動の基礎資料として利用されるため、保健所長を経由して都道府県知事に提出され、さらに厚生労働大臣に提出される。厚生労働省では、これらの調査票を集計して人口動態統計を作成している。

我が国の人口動態に関する調査は、明治5年に始まる戸籍表（内務省戸籍局）と明治7年に東京、京都、大阪について行われた死亡届の発展形態としての衛生統計諸表（内務省衛生局）との2つの系統によって行われていたが、明治19年の内務省報告例の制定により一本化され、年報の表式統計として明治31年まで実施されている。明治31年に「戸籍法」が制定され、登録制度が法体系的にも整備されたのを機会に、同32年からは人口動態調査票は1件につき1枚の個別票が作成され、中央集計がされるという近代的な人口動態統計制度として行われるようになった。

その後、昭和22年6月に「統計法」に基づき「指定統計第5号」として指定され、その事務の所管は同年9月1日に総理庁から厚生省に移管された。さらに、平成21年4月からは新統計法（平成19年法律第53号）に基づく基幹統計調査となった。

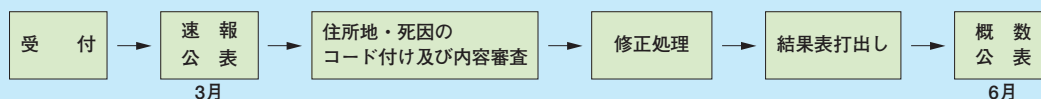
人口動態統計作成過程の概要は次のとおりである。

調査の経路

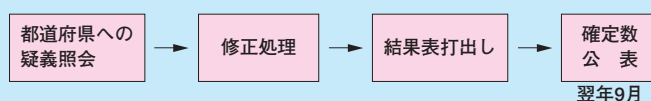


厚生労働省での集計と公表

- 月報処理（例、調査月1月分）



- 年報処理（1年分）※月報年計（概数）は翌年6月に公表



● 結果の公表

- 月報

人口動態統計速報 人口動態統計月報（概数）

- 年報

人口動態統計月報年計（概数）
人口動態統計上巻、中巻、下巻
我が国の人口動態

- 特殊報告

都道府県別年齢調整死亡率
人口動態保健所・市区町村別統計

- 人口動態職業・産業別統計

- ホームページに掲載

厚生労働省 <http://www.mhlw.go.jp/>

「政府統計の総合窓口（e-Stat）」 <http://www.e-stat.go.jp/>

比率の解説 Explanation of rates

$$\text{○出生率・死亡率・婚姻率・離婚率} = \frac{\text{年間の件数}}{\text{人口}} \times 1,000$$

$$\text{○死産率・自然死産率・人工死産率} = \frac{\text{死産（自然・人工）数}}{\text{出産（出生＋死産）数}} \times 1,000$$

死産とは妊娠満12週以後の死児の出産をいう。

$$\text{○妊娠満22週以後の死産率} = \frac{\text{妊娠満22週以後の死産数}}{\text{出産（出生＋妊娠満22週以後の死産）数}} \times 1,000$$

$$\text{○乳児死亡率・新生児死亡率・早期新生児死亡率} = \frac{\text{乳児・新生児・早期新生児死亡数}}{\text{出生数}} \times 1,000$$

乳児死亡とは生後1年未満の死亡、新生児死亡とは生後4週（28日）未満の死亡、早期新生児死亡とは生後1週（7日）未満の死亡をいう。

$$\text{○周産期死亡率} = \frac{\text{妊娠満22週以後の死産数＋早期新生児死亡数}}{\text{出産（出生＋妊娠満22週以後の死産）数}} \times 1,000$$

$$\text{○老年人口指数} = \frac{\text{老年人口（65歳以上）}}{\text{生産年齢人口（15～64歳）}} \times 100$$

老年人口指数とは老年人口の生産年齢人口に対する比率である。

$$\text{○自然増減率} = \frac{\text{自然増減数（出生数－死亡数）}}{\text{人口}} \times 1,000$$

$$\text{○合計特殊出生率} = \left(\frac{\text{母の年齢別出生数}}{\text{年齢別女性人口}} \right) \text{ 15歳から49歳までの合計}$$

（都道府県別は5歳階級で算出し、5倍したものを合計している。）

15歳から49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもので、1人の女性が仮にその年次の年齢別出生率で一生の間に生むとしたときの子ども数に相当する。

$$\text{○死因別死亡率} = \frac{\text{死因別死亡数}}{\text{人口}} \times 100,000$$

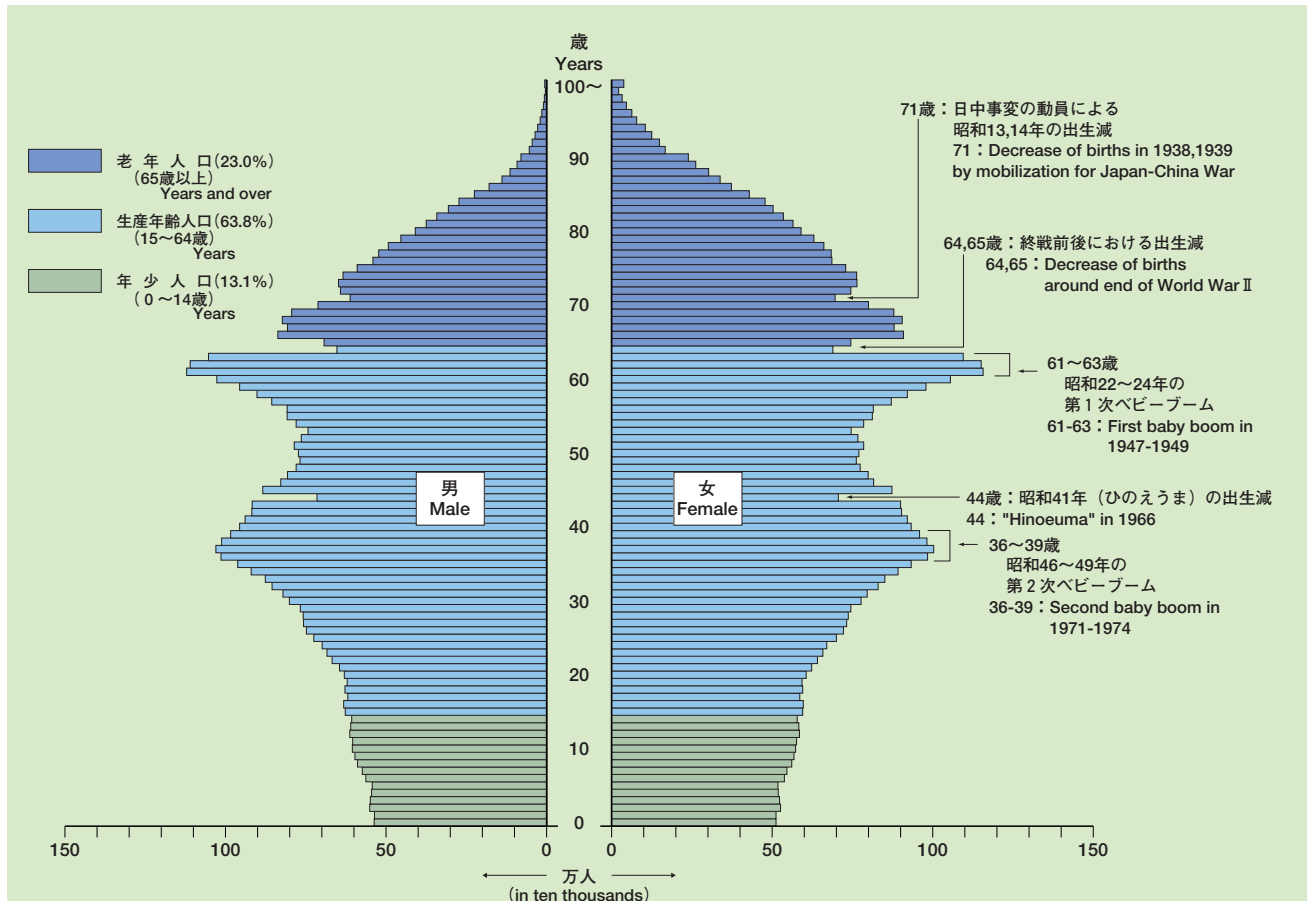
$$\text{○年齢調整死亡率} = \frac{\left\{ \left(\frac{\text{観察集団の各年齢階級の死亡率}}{\text{基準となる人口集団の各年齢階級の人口}} \right) \times \left(\text{基準となる人口集団の各年齢階級の総和} \right) \right\}}{\text{基準となる人口集団の総和（昭和60年モデル人口）}}$$

年齢構成が著しく異なる人口集団の間での死亡率や、特定の年齢層に偏在する死因別死亡率などを、その年齢構成の差を取り除いて比較する場合に用いる（55頁参照）。なお、計算式中の「観察集団の各年齢階級の死亡率」は、1,000倍（死因の場合は100,000倍）されたものである。

人 口 Population

平成22年の人口は 1 億2806万人 老年人口は23.0%

我が国の人口ピラミッドー平成22年10月1日現在ー
Population pyramid as of Oct.1,2010

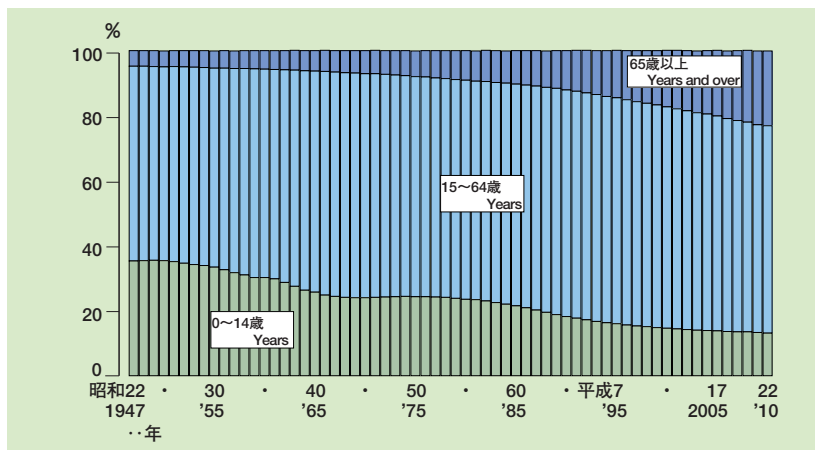


資料：総務省統計局 人口推計「平成22年国勢調査による基準人口」(総人口)

総務省統計局の「平成22年国勢調査による基準人口」によれば、平成22年10月1日の我が国の総人口(日本に常住している外国人を含む。)は1億2806万人である。

人口の年齢構造をピラミッドに表すと、各年代の社会情勢の影響を受けた出生と死亡の変動が明らかに刻まれている。戦後の昭和22年から24年生まれの第1次ベビーブーム期と46年から49年生まれの第2次ベビーブーム期の2つのふくらみが特徴的であり、その後は出生数の減少でピラミッドのすそは年々狭まっている。

年齢3区分別人口割合の年次推移ー昭和22~平成22年ー
Trends in percent distribution of population by 3 age groups,1947—2010

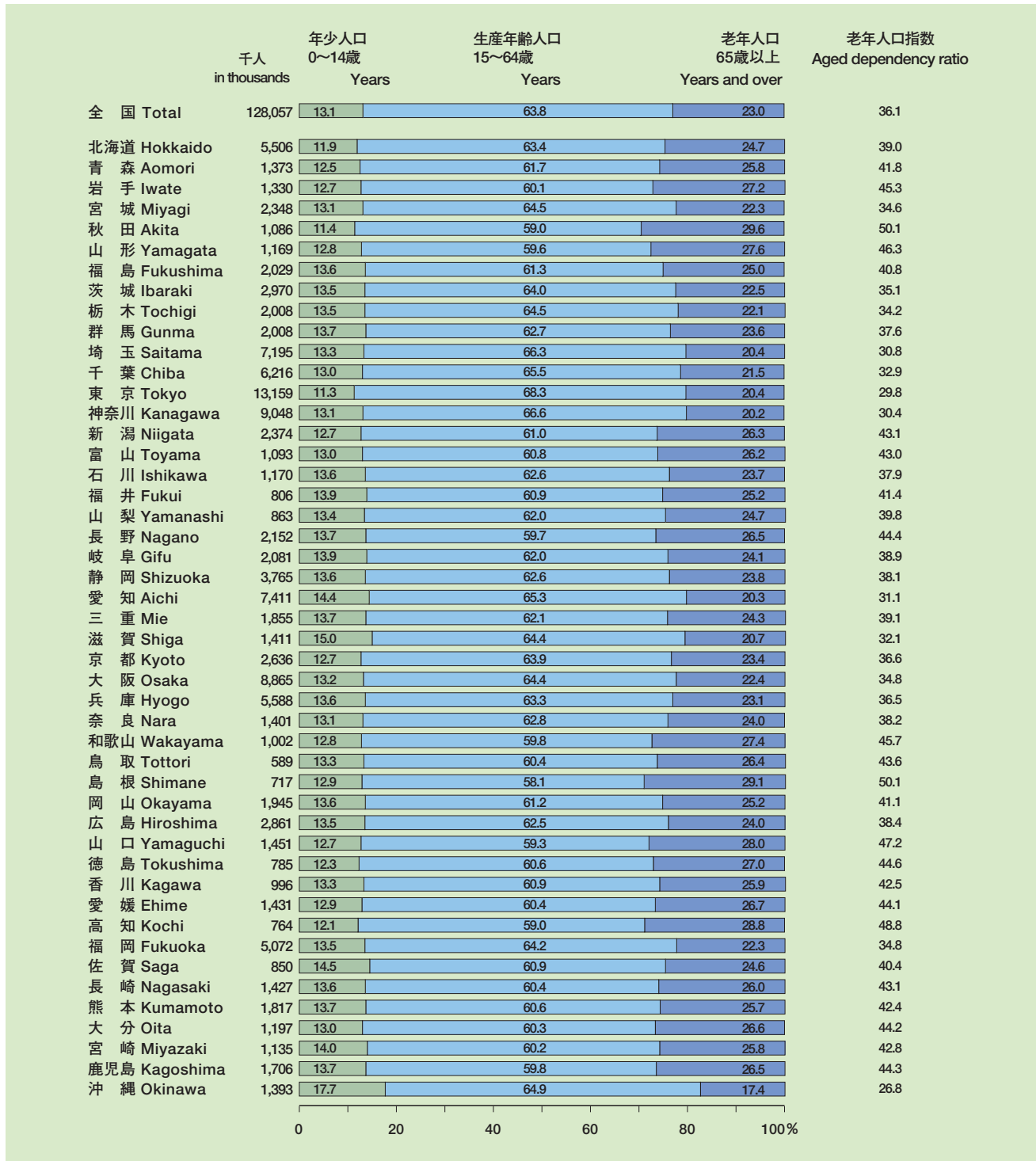


総人口の年齢3区分別人口割合の年次推移をみると、第2次ベビーブーム期以降の出生数の減少傾向と死亡状況の改善による高齢層の増加から、0~14歳の年少人口割合は減少し、65歳以上の老年人口割合は増加しており、平成9年以降は老年人口が年少人口を上回っている。平成22年は年少人口13.1%、老年人口23.0%となっている。また、15~64歳の生産年齢人口割合は平成4年をピークに減少している。

老年人口割合は大都市を有する都道府県で低い

都道府県別にみた年齢3区分別人口割合及び老年人口指数—平成22年—

Percent distribution of population by 3 age groups and aged dependency ratio, by prefecture, 2010



資料：総務省統計局 人口推計「平成22年国勢調査による基準人口」（総人口）







平成22年の年齢3区分別人口割合を都道府県別にみると、老年人口割合が最も低いのは沖縄17.4%、次いで神奈川20.2%、愛知20.3%、埼玉・東京20.4%、となっており、おおむね大都市を有する都道府県とその周辺で低くなっている。一方、老年人口割合が最も高いのは秋田29.6%、次いで島根29.1%、高知28.8%、山口28.0%、山形27.6%となっている。

また、人口高齢化の指標の一つである老年人口指数をみても、老年人口割合とほぼ同様のことがいえる。

人口動態の年次推移







Trends in major indices for the vital events

平成22年(2010)

出生 Live births  1,071,304人 29秒に1人 1/29 s	死亡 Deaths  1,197,012人 26秒に1人 1/26 s	(再掲) 乳児死亡 (Regrouped) Infant deaths  2,450人 3時間34分32秒に1人 1/3 h 34m 32 s	死産 Foetal deaths  26,560胎 19分47秒に1胎 1/19m 47 s	婚姻 Marriages  700,214組 45秒に1組 1/45 s	離婚 Divorces  251,378組 2分5秒に1組 1/2m 5 s
---	--	--	---	---	---

1日平均件数の年次推移

Trends in average number of cases per day

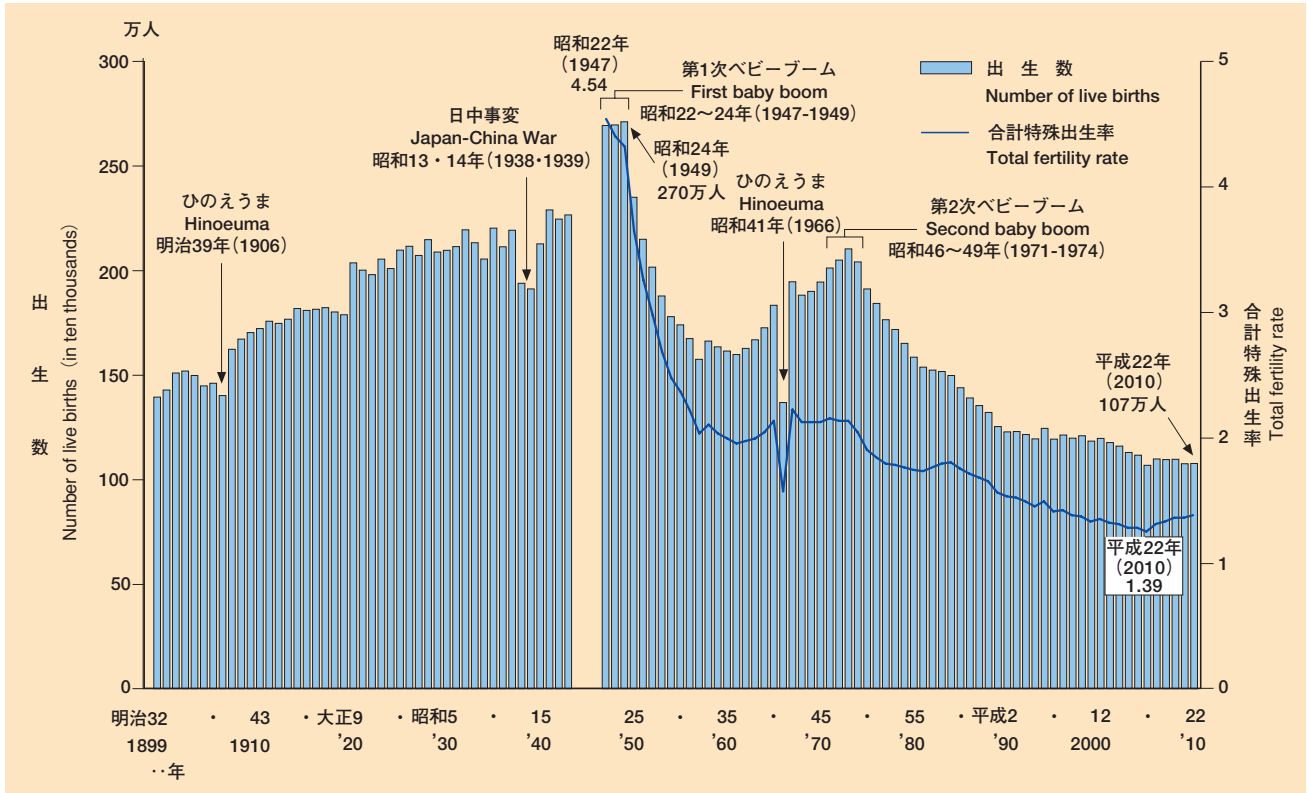
年次 Year		出生 Live births 	死亡 Deaths 	(再掲) 乳児死亡 (Regrouped) Infant deaths 	死産 Foetal deaths 	婚姻 Marriages 	離婚 Divorces 
2010	平成22年	2,935	3,279	7	73	1,918	689
2009	21年	2,932	3,128	7	74	1,939	694
2008	20年	2,981	3,121	8	77	1,984	686
2005	17年	2,911	2,969	8	87	1,957	718
2000	12年	3,253	2,627	10	105	2,181	722
1995	7年	3,252	2,526	14	108	2,170	545
1990	2年	3,347	2,247	15	148	1,978	432
1985	昭和60年	3,922	2,061	22	189	2,016	457
1980	55年	4,308	1,975	32	212	2,117	387
1975	50年	5,209	1,924	52	279	2,580	326
1970	45年	5,299	1,953	70	370	2,820	263
1965	40年	4,996	1,919	92	443	2,616	211
1960	35年	4,388	1,931	135	490	2,366	190
1955	30年	4,742	1,900	188	502	1,959	206
1950	25年	6,404	2,479	385	594	1,959	229
1947	22年	7,339	3,118	563	339	2,559	218

出生の動き Natality

出生数・合計特殊出生率ともに前年を上回る

出生数及び合計特殊出生率の年次推移—明治32～平成22年—

Trends in live births and total fertility rates, 1899—2010

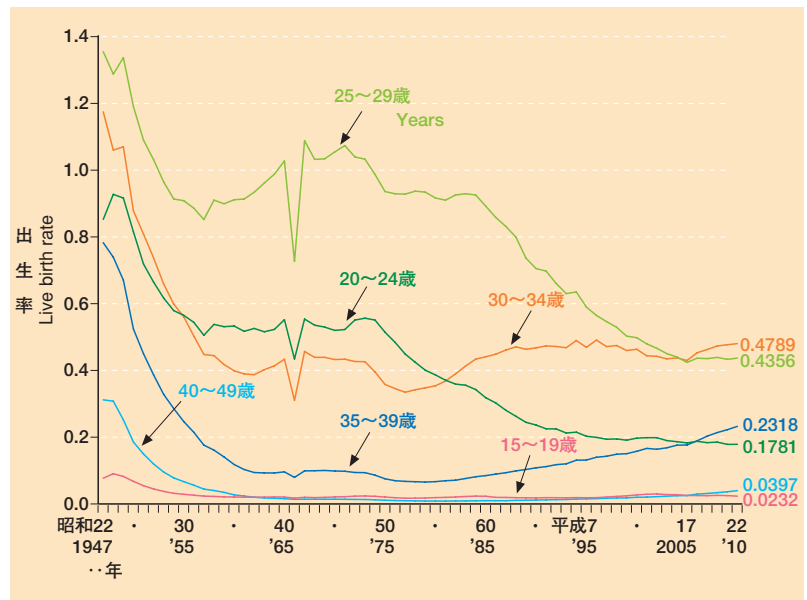


出生数の年次推移をみると、第2次世界大戦前は戦争のあったときを除いて増加していたが、戦後は、昭和22年から24年の第1次ベビーブーム期と46年から49年の第2次ベビーブーム期に200万人を超えたのを除いて、減少傾向にあった。平成元年以降は120万人前後で推移していたが、13年からは5年連続で減少した。18年以降は増減を繰り返しており、22年は107万1304人で、前年より1269人増加した。

合計特殊出生率は1.39で前年の1.37を上回った。合計特殊出生率の年次推移をみると、第1次ベビーブーム期には4を超えていたが、昭和20年代後半に急激に低下し31年には2.22となり、初めて人口置き換え水準* (同年2.24) を下回った。その後、昭和46年までは「ひのえうま」前後の特殊な動きを除けば緩やかな上昇傾向にあり、第2次ベビーブーム期の47、48年には2.14となった。その後は低下に転じ、昭和50年に2を下回ってからは、50年代後半を除いて低下傾向が続いていたが、平成18年からは3年連続で上昇した。21年は前年と同率となったが、22年は上昇した。

母の年齢階級別出生率の年次推移—昭和22～平成22年—

Trends in live birth rates by age of mother, 1947—2010



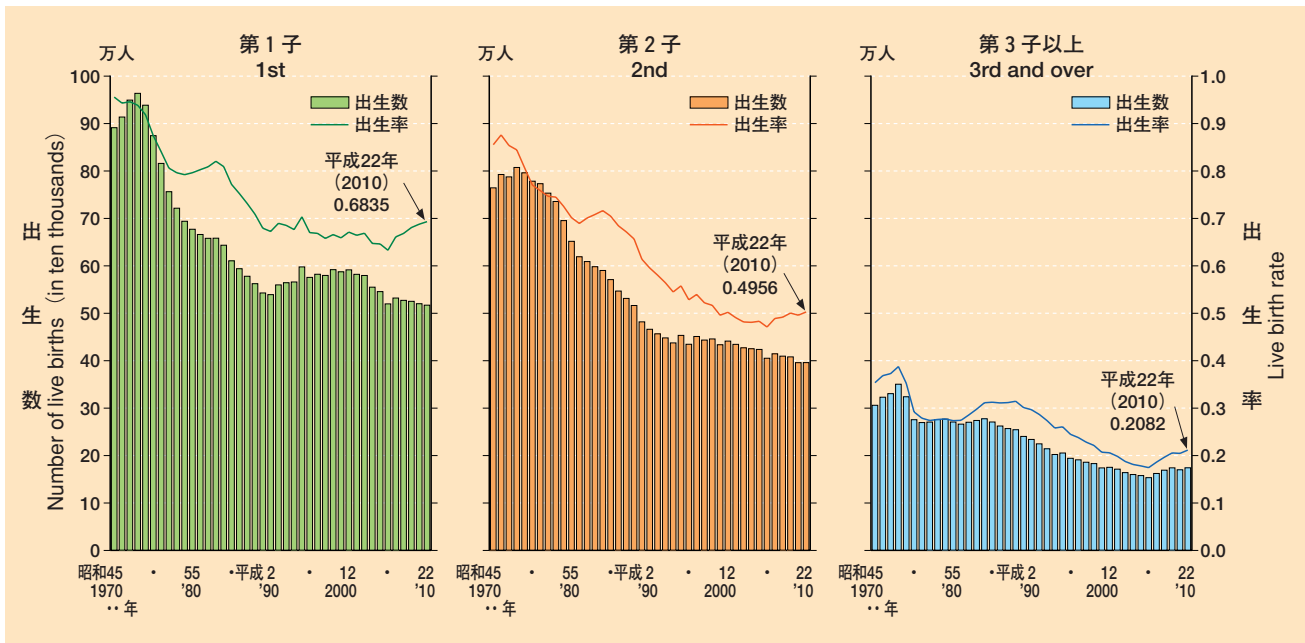
注：母の各年齢別出生率を足し上げたもので、各階級の合計が合計特殊出生率である。

母の年齢階級別出生率の年次推移をみると、昭和50年代以降は20歳代の出生率が大きく低下し、近年は30歳代の出生率が上昇傾向となっている。

*人口置き換え水準とは、人口が将来にわたって増えも減りもしないで、親の世代と同数で置き換わるための大きさを表す指標である。人口置き換え水準に見合う合計特殊出生率は、女性の死亡率等によって変動するので一概にはいえないが、日本における平成22年の値は2.07である。なお、人口置き換え水準は、国立社会保障・人口問題研究所で算出している。

出生数は第1子で減少、合計特殊出生率はすべての順位で上昇

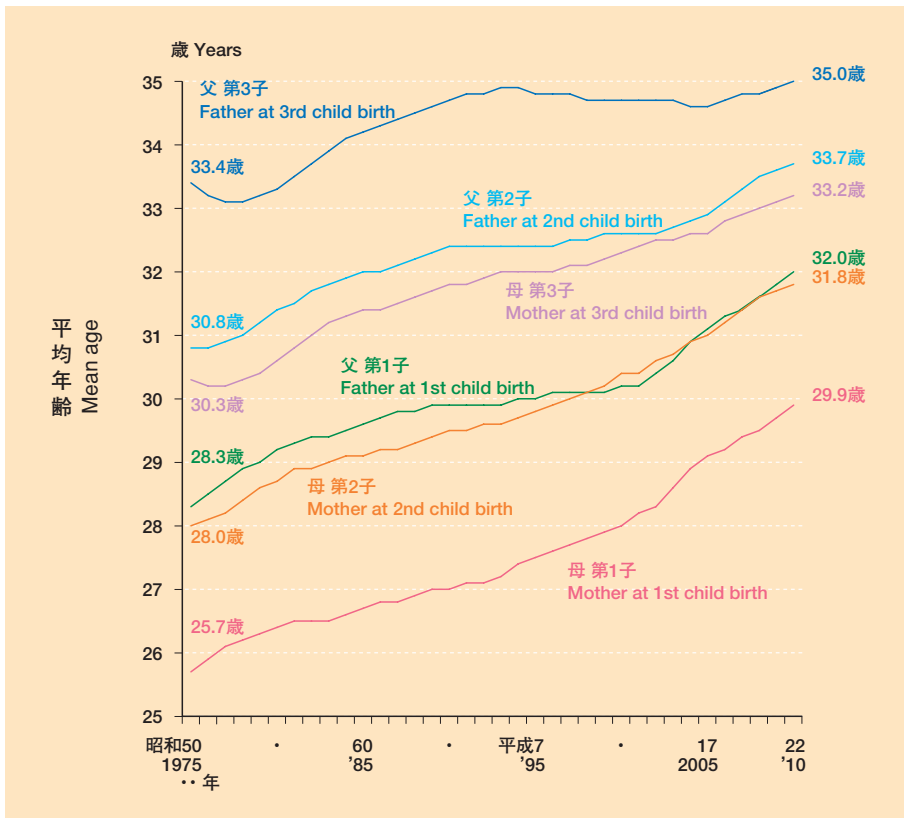
出生順位別にみた出生数及び合計特殊出生率（内訳）の年次推移—昭和45～平成22年—
Trends in live births and total fertility rates by birth order, 1970-2010



注：1）出生順位とは、同じ母親がこれまでに生んだ出生子の総数について数えた順序である。
2）出生順位別の出生率の数値は出生順位ごとに15歳から49歳の母の各歳別出生率を合計したものであり、第1子から第3子以上の出生率を合計したものが、合計特殊出生率である。

父母の平均年齢は上昇

出生順位別にみた父母の平均年齢の年次推移—昭和50～平成22年—
Trends in mean age of father and mother by live birth order 1975-2010



出生順位別に出生数及び合計特殊出生率（内訳）の年次推移をみると、出生数はすべての出生順位で第2次ベビーブーム期（昭和46～49年）に多くなっており、その後は第1子の平成3～12年を除いて減少傾向となっていたが、18年にはすべての出生順位で増加した。その後は第3子以上のみ増加を続けていたが、21年はすべての出生順位で減少した。22年は第1子は減少したが第2子、第3子以上は増加した。

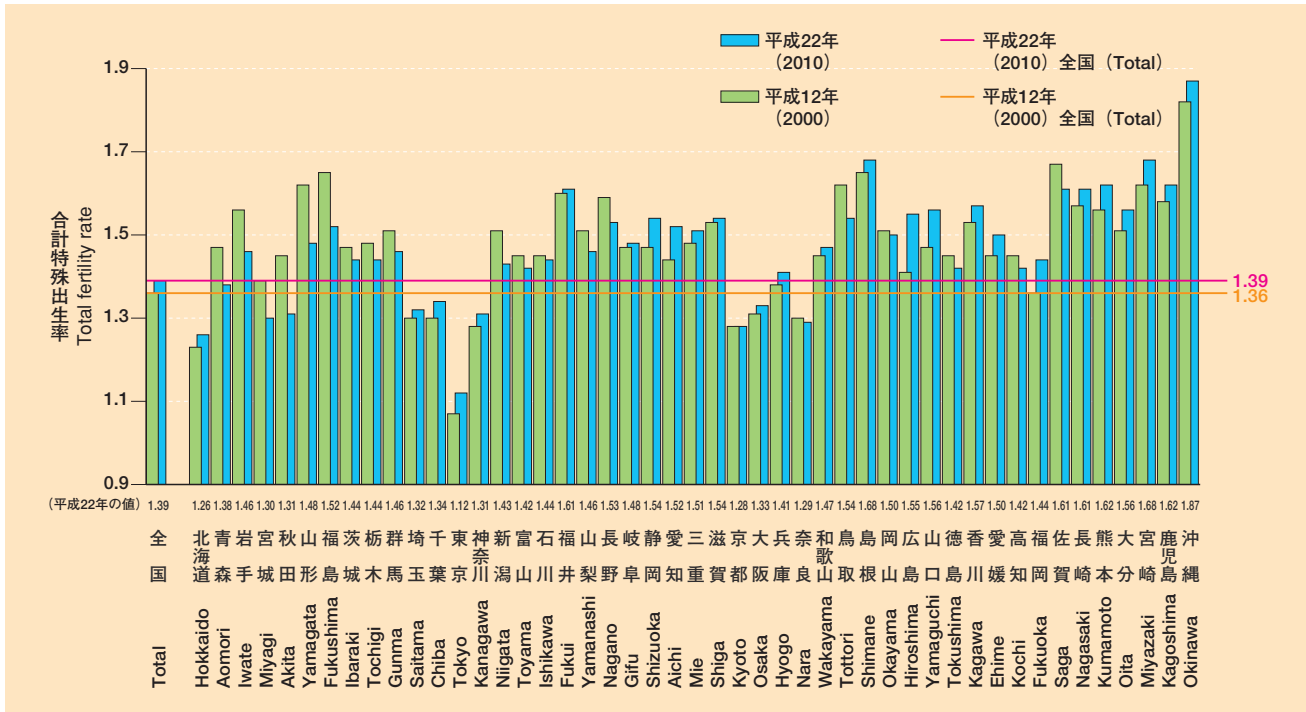
合計特殊出生率(内訳)は第2次ベビーブーム期以降、昭和50年代後半を除いてすべての出生順位で低下傾向となっていたが、平成18年からは3年連続で上昇した。21年は第1子は上昇、第2子、第3子以上は低下となったが22年は再びすべての出生順位で上昇した。

出生順位別に母の平均年齢をみると、平成22年では第1子29.9歳、第2子31.8歳、第3子33.2歳となっており、昭和50年に比べ、それぞれ4.2歳、3.8歳、2.9歳上昇している。

父の平均年齢は、平成に入ってから一旦横ばいとなったが、近年は再び上昇しており、平成22年は第1子32.0歳、第2子33.7歳、第3子35.0歳となっている。

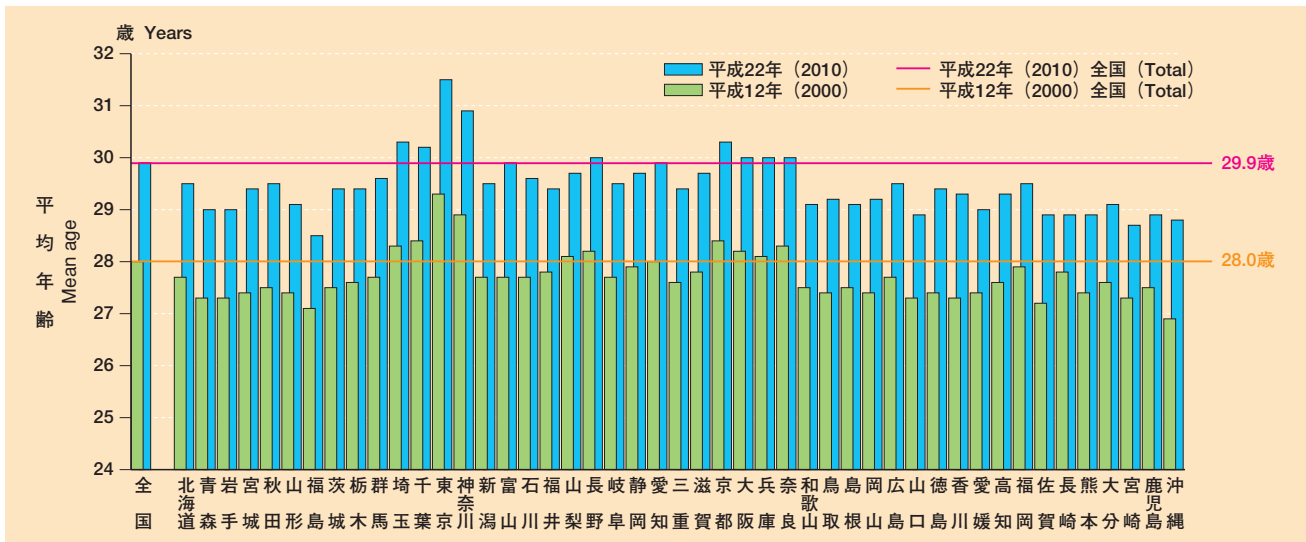
合計特殊出生率は26都道府県で上昇し、20県で低下

都道府県別にみた合計特殊出生率の年次比較—平成12・22年—
Comparison of total fertility rates by prefecture,2000・2010



母の平均年齢は大都市を有する都道府県で高い

都道府県別にみた第1子出生時の母の平均年齢の年次比較—平成12・22年—
Comparison of mean age of mother at first child by prefecture, 2000・2010



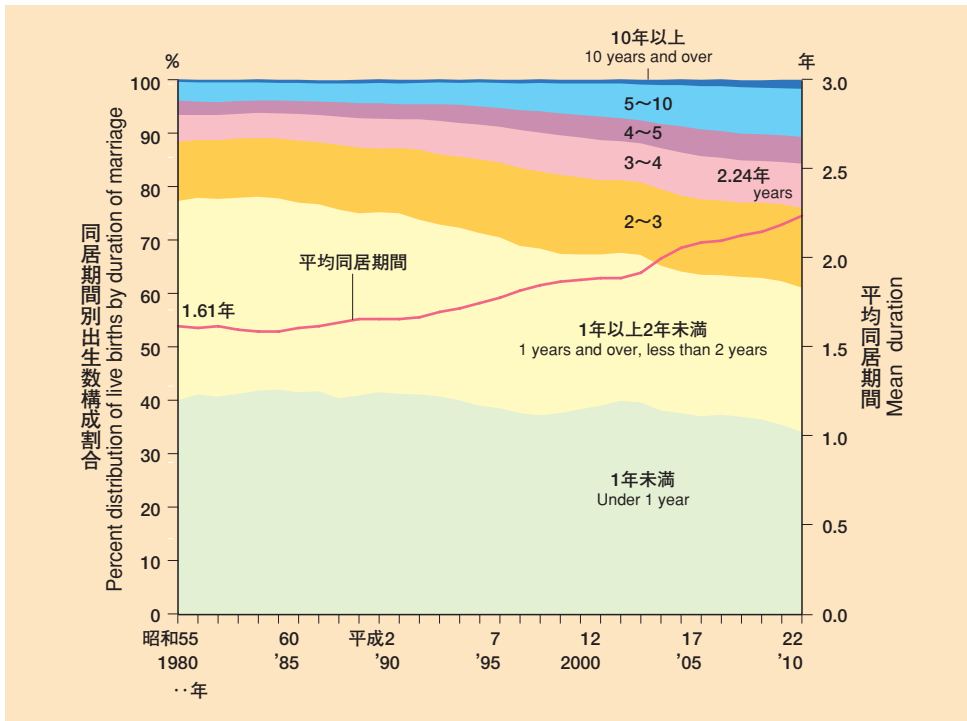
平成22年の合計特殊出生率を都道府県別にみると、最も高いのは沖縄1.87、次いで島根・宮崎1.68、熊本・鹿児島1.62となっている。一方、最も低いのは東京1.12、次いで北海道1.26、京都1.28、奈良1.29、宮城1.30となっており、おおむね大都市を有する都道府県とその周辺で低い傾向がみられる。

都道府県別に平成22年と12年の合計特殊出生率を比較すると、最も上がり幅が大きかったのは広島で0.14、次いで山口0.09、愛知・福岡の0.08となっている。一方、最も下がり幅が大きかったのは秋田・山形で△0.14、次いで福島の△0.13となっている。

都道府県別に第1子出生時の母の平均年齢をみると、東京、神奈川、埼玉、京都、千葉などの大都市を有する都道府県とその周辺で高くなっている。平成12年と比較すると、すべての都道府県で1.1～2.2歳上昇している。

出生までの同居期間は長くなっている

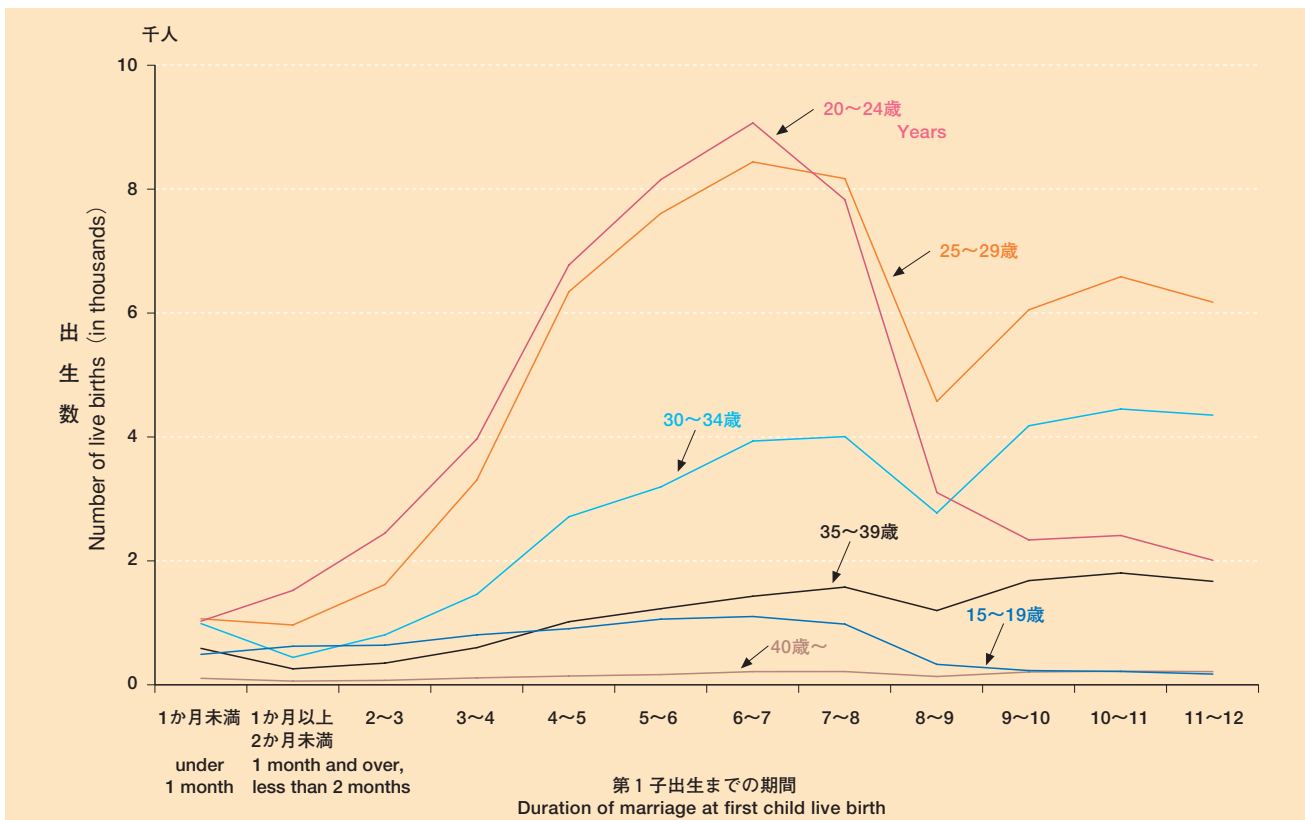
結婚生活に入ってから第1子出生までの期間別にみた出生数割合及び平均同居期間の年次推移—昭和55～平成22年—
Trends in percent distribution of duration and mean duration of marriage at first child live birth, 1980-2010



父母が結婚生活に入ってから第1子出生までの平均同居期間をみると、平成22年では2.24年となっており、昭和55年に比べ0.63年延びている。期間別の内訳を年次推移でみると、1年以上2年未満の割合が大きく低下し、4年以上の割合が大きく上昇している。

また、1年未満で第1子を出生した期間を母の年齢階級別にみると、29歳以下では6か月以上7か月未満に出生数が最も多く、30歳以上では10か月以上11か月未満が最も多くなっている。

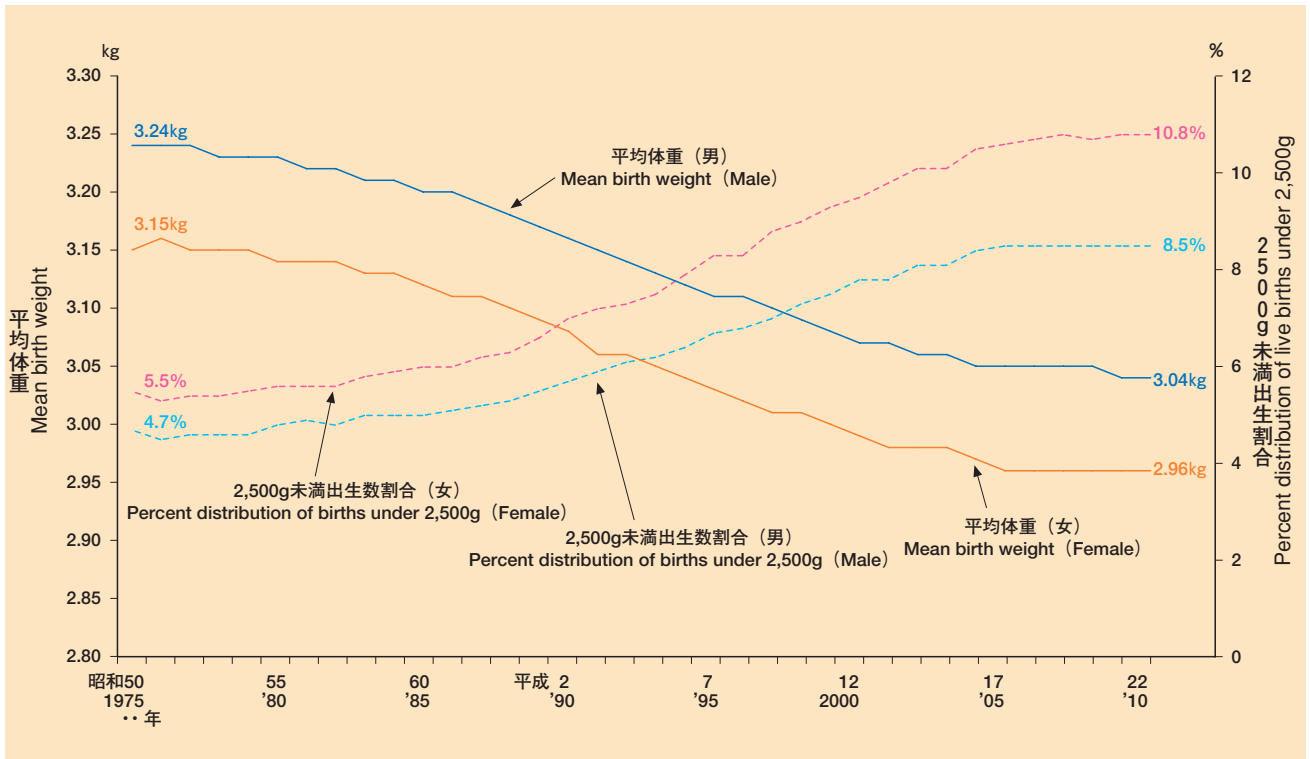
結婚生活に入ってから第1子出生までの期間（1年未満）別にみた母の年齢階級別出生数—平成22年—
First child live births distributed according to duration of marriage, by age of mother, born in less than 1 year from marriage, 2010



平均体重は男女とも減少傾向

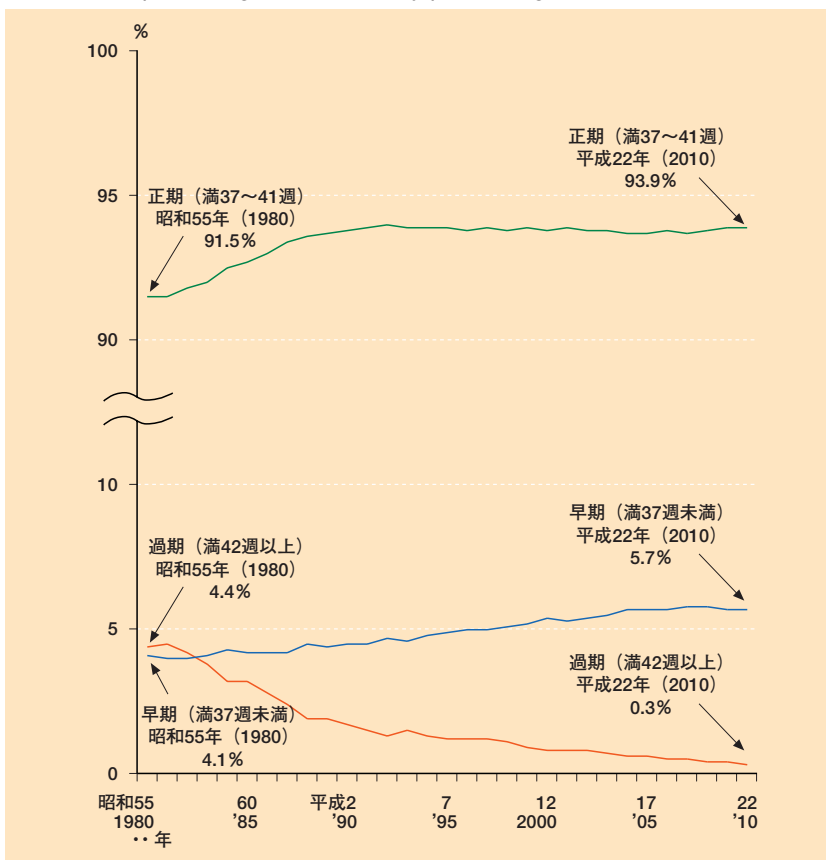
性別にみた出生時平均体重及び2,500g未満出生数割合の年次推移—昭和50～平成22年—

Trends in mean birth weight and percentage of live birth under 2,500g by sex ,1975—2010



妊娠期間別出生数割合の年次推移—昭和55～平成22年—

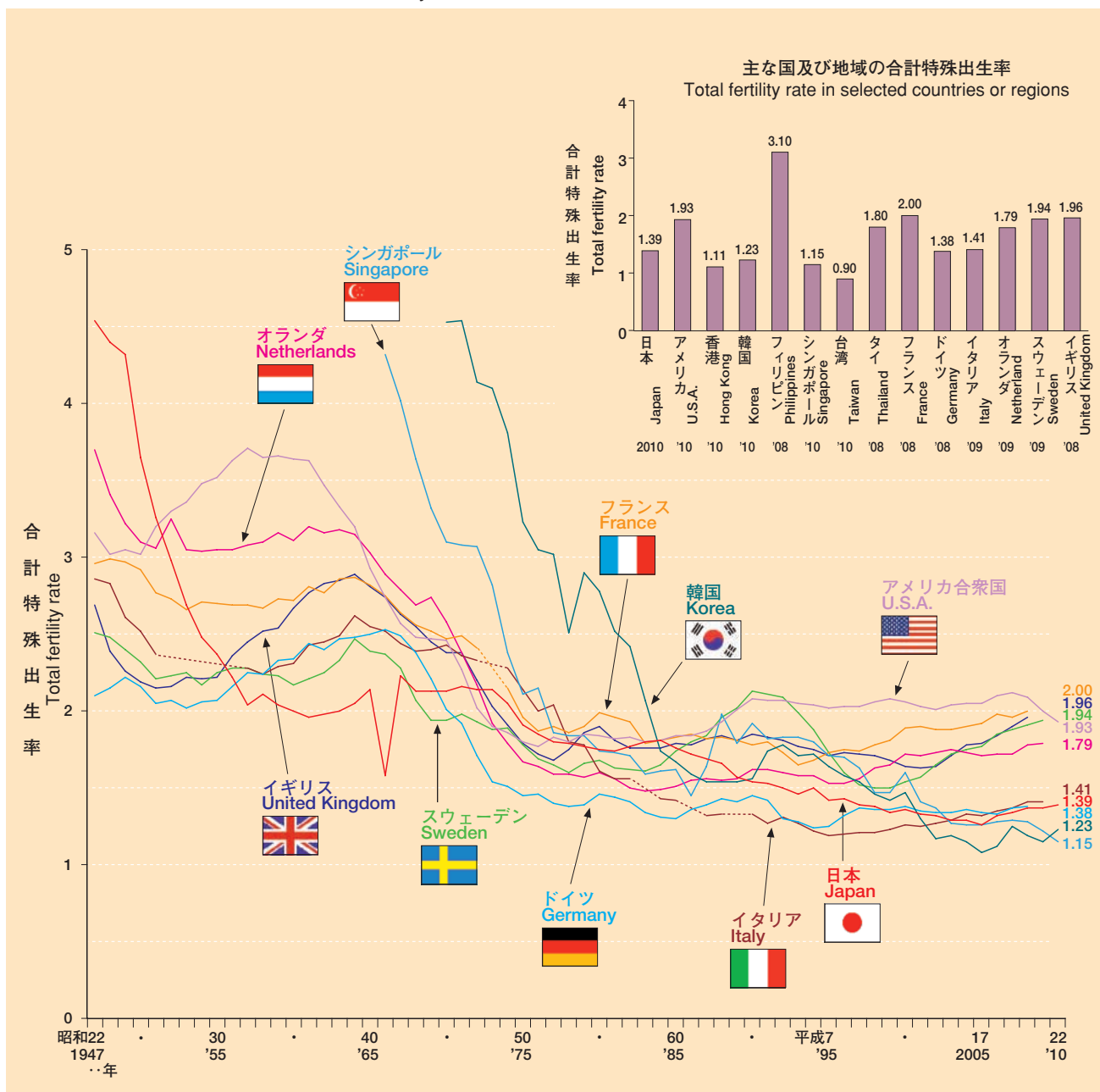
Trends in percentage of live birth by period of gestation,1980—2010



出生時平均体重の年次推移をみると、男女ともに減少しており、この35年間で約200g減少した。また、全出生数に対する2500g未満出生数割合をみると、男女とも上昇傾向であったが、近年は横ばいとなり、平成22年は前年と同じ男8.5%、女10.8%となっている。

妊娠期間別出生数割合をみると、早期(満37週未満)は緩やかな上昇傾向にあり、正常(満37～41週)は昭和60年代前半頃まで上昇していたが、近年は横ばいである。過期(満42週以上)は、昭和55年に6万9873人で全出生数の4.4%を占めていたが、年々低下し、平成22年は3582人で0.3%となった。

合計特殊出生率の年次推移—諸外国との比較 1947～2010年
Total fertility rates in selected countries, 1947—2010



注：点線は数値なし。
 ドイツは1990年までは旧西ドイツの数値である。
 イギリスは1985年まではイングランド・ウェールズの数値である。
 フランスは海外領土を含む。
 以下は暫定値である。
 アメリカ合衆国2010年

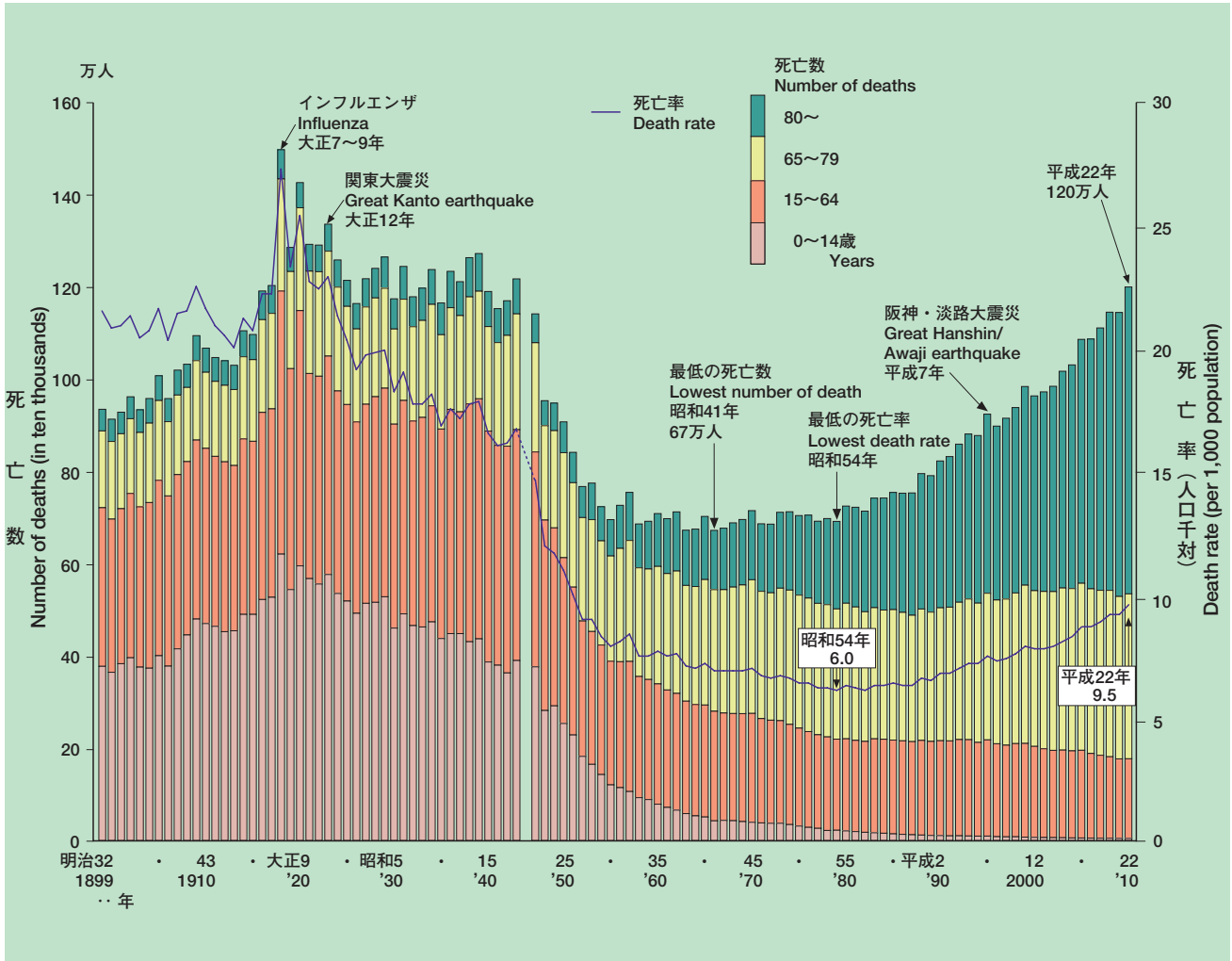
資料：UN「Demographic Yearbook」
 Council of Europe「Recent demographic developments in Europe」
 Eurostat Vital Statistics
 U.S.Department of Health and Human Services「National Vital Statistics Report」
 WHO「World Health Statistics 2010」
 香港統計局資料 韓国統計庁資料
 シンガポール統計局資料 台湾内政部資料
 国立社会保障・人口問題研究所「研究資料287号」

我が国と諸外国との合計特殊出生率を比較したものである。
 我が国は1947年は4.54と高率であったが、以後急激に低下し、1957年には2.04と諸外国に比べ低くなった。1960年代後半から各国が低下傾向のなか、我が国は第2次ベビーブーム期に横ばいとなったが、1980年代前半を除き再び低下傾向となった。その後、欧米では1990年代後半から上昇傾向となっている国が多いなか、我が国は2006年以降緩やかな上昇傾向となっている。

死亡の動き General mortality

死亡数は前年を上回る

死亡数及び死亡率の年次推移—明治32～平成22年—
Trends in deaths and death rates, 1899—2010



注：点線は数値なし。

平成22年の死亡数は119万7012人で前年より5万5147人増加し、死亡率（人口千対）は、9.5と上昇した。

死亡数と死亡率の年次推移をみると、明治から大正にかけて、死亡数は90万～120万人、死亡率は20台で推移してきた。昭和に入って初めて死亡率は20を割り、昭和16年に死亡数は115万人、死亡率は16.0まで低下した。第2次世界大戦後の22年に死亡数は114万人、死亡率は14.6であったが、医学や医療の進歩及び公衆衛生の向上などにより死亡の状況は急激に改善され、41年には死亡数が最も少ない67万人、54年には死亡率が最も低い6.0となった。

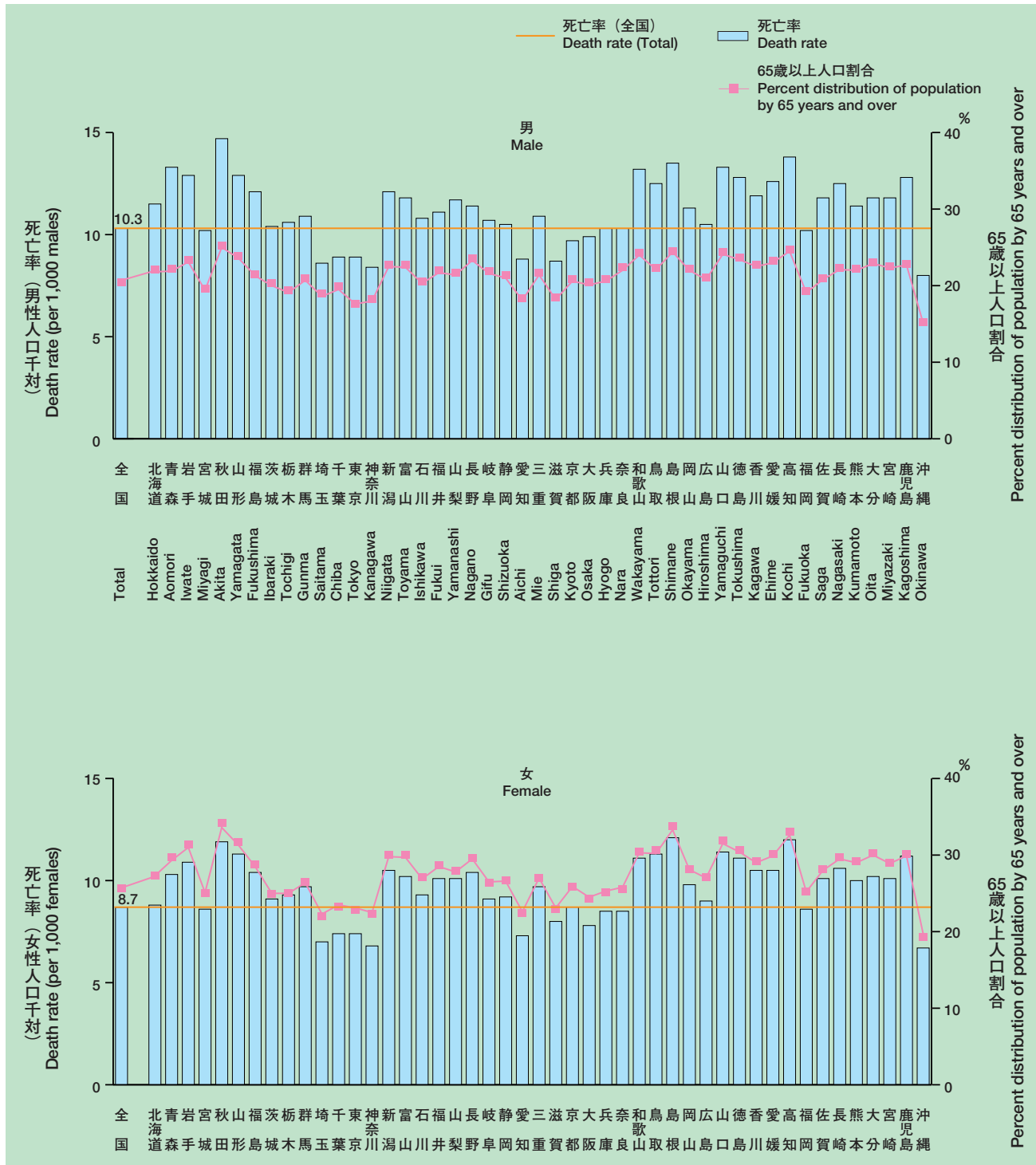
その後、人口の高齢化を反映して緩やかな増加傾向に転じ、平成15年に死亡数は100万人を超え、死亡率も上昇傾向にある。

また、年齢階層でみると、14歳以下の死亡数は、明治から昭和初期にかけて多かったが、戦後、急激に減少している。近年では人口の高齢化を反映して65歳以上の死亡数が増加し、特に80歳以上の死亡数の増加は顕著で、全死亡数に占める割合は上昇しており、平成22年では55.4%となっている。

都道府県別にみた死亡率と65歳以上人口割合は、ほぼ同様の傾向

性別にみた都道府県別死亡率及び65歳以上人口割合 ー平成22年ー

Death rates and percent distribution of population by 65 years and over by prefecture and sex, 2010

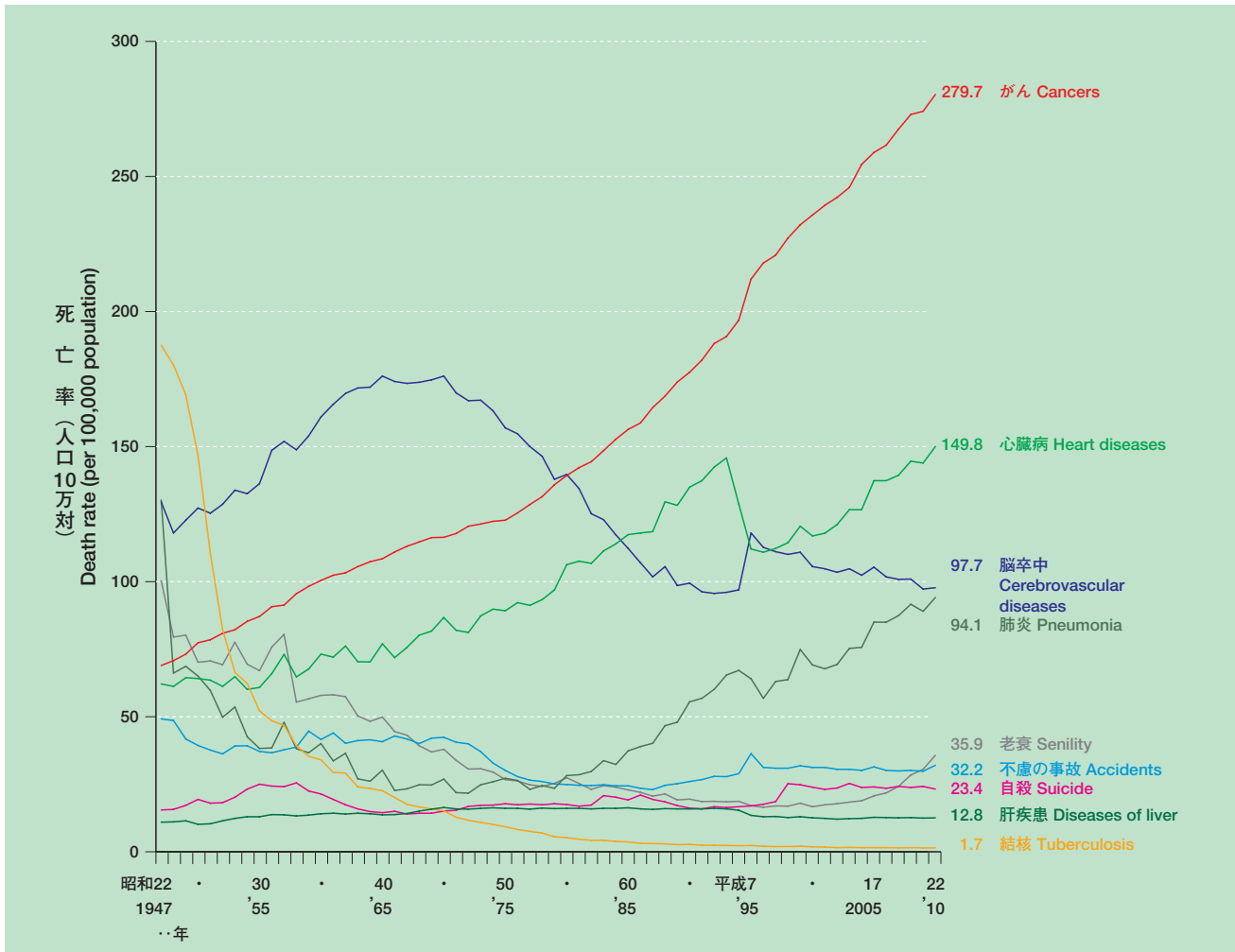


注：65歳以上人口割合とは、総人口に占める65歳以上の人口の割合である。
 資料：65歳以上人口割合については、総務省統計局「人口推計『平成22年国勢調査による基準人口』(総人口)」

平成22年の性別死亡率(人口千対)は男10.3、女8.7である。これを都道府県別にみると、死亡率が最も低いのは男では沖縄が8.0、次いで神奈川県8.4、女でも沖縄が6.7、次いで神奈川県6.8である。また、最も高いのは男では秋田14.7、次いで高知で13.8、島根13.5、女では島根で12.1、高知12.0、次いで秋田11.9となっている。都道府県別にみた死亡率と65歳以上人口割合は、ほぼ同様の傾向である。

がんの死亡率は、上昇を続けている

主な死因別にみた死亡率の年次推移—昭和22～平成22年—
Trends in death rates for leading causes of death, 1947—2010



平成22年の主な死因別の死亡率（人口10万対）をみると、がん279.7、心臓病149.8、脳卒中97.7、肺炎94.1、老衰35.9などとなっている。年次推移をみると、がんは一貫して上昇を続け、昭和56年以降死因順位の第1位となっている。

心臓病は昭和60年に第2位となり、その後も上昇していたが、平成6、7年には急激に低下した。9年からは再び上昇傾向となっている。

脳卒中は昭和45年から低下、平成3年以降は横ばいで推移し、7年に急激に上昇したものの、その後は低下傾向となっている。

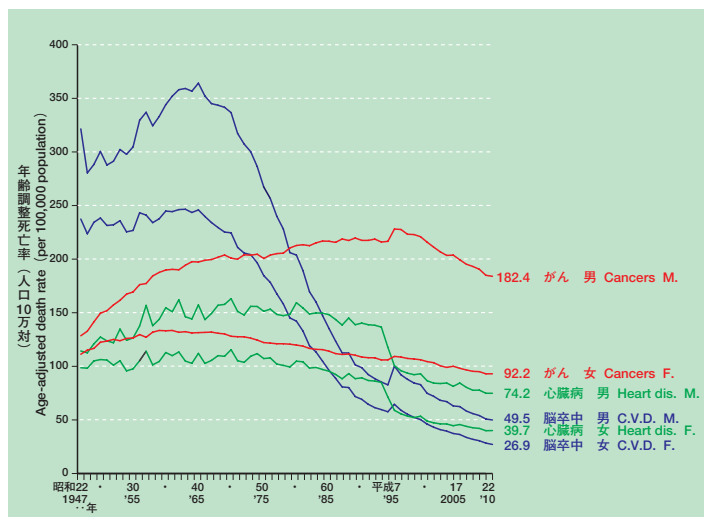
死亡の状況はその集団における人口の年齢構成に影響されるので、その年齢構成の差を取り除いて比較するための年齢調整死亡率で3大死因の年次推移をみると、近年は総じて低下傾向にある。

* 本書の場合の「がん」、「心臓病」、「脳卒中」は国際疾病傷害死因分類における「悪性新生物」、「心疾患（高血圧性を除く）」、「脳血管疾患」にあたる。

**平成6、7年の心臓病の減少は、新しい死亡診断書（死体検案書）（平成7年1月施行）における「死亡の死因欄には、疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください。」という注意書きの、事前周知の影響によるものと考えられる。

3大死因別にみた性別年齢調整死亡率の年次推移—昭和22～平成22年—

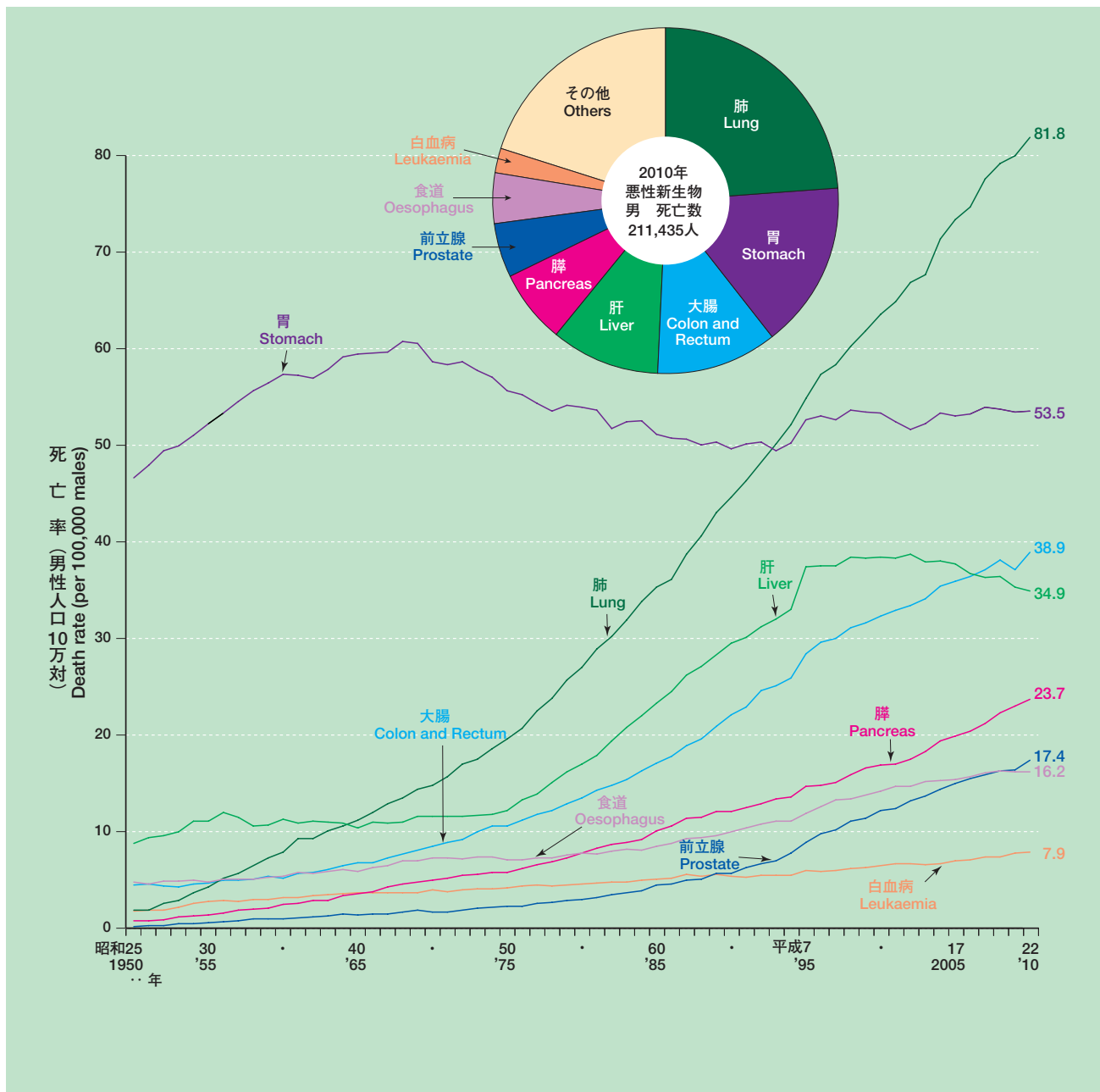
Trends in age-adjusted death rates for 3 leading causes by sex, 1947—2010



注：1) C.V.D.←Cerebrovascular diseases
2) 年齢調整死亡率については5頁、55頁を参照。

男は肺がんが第1位

部位別にみたがんの死亡率の年次推移，男—昭和25～平成22年—
Trends in death rates for cancer by site, Male, 1950—2010

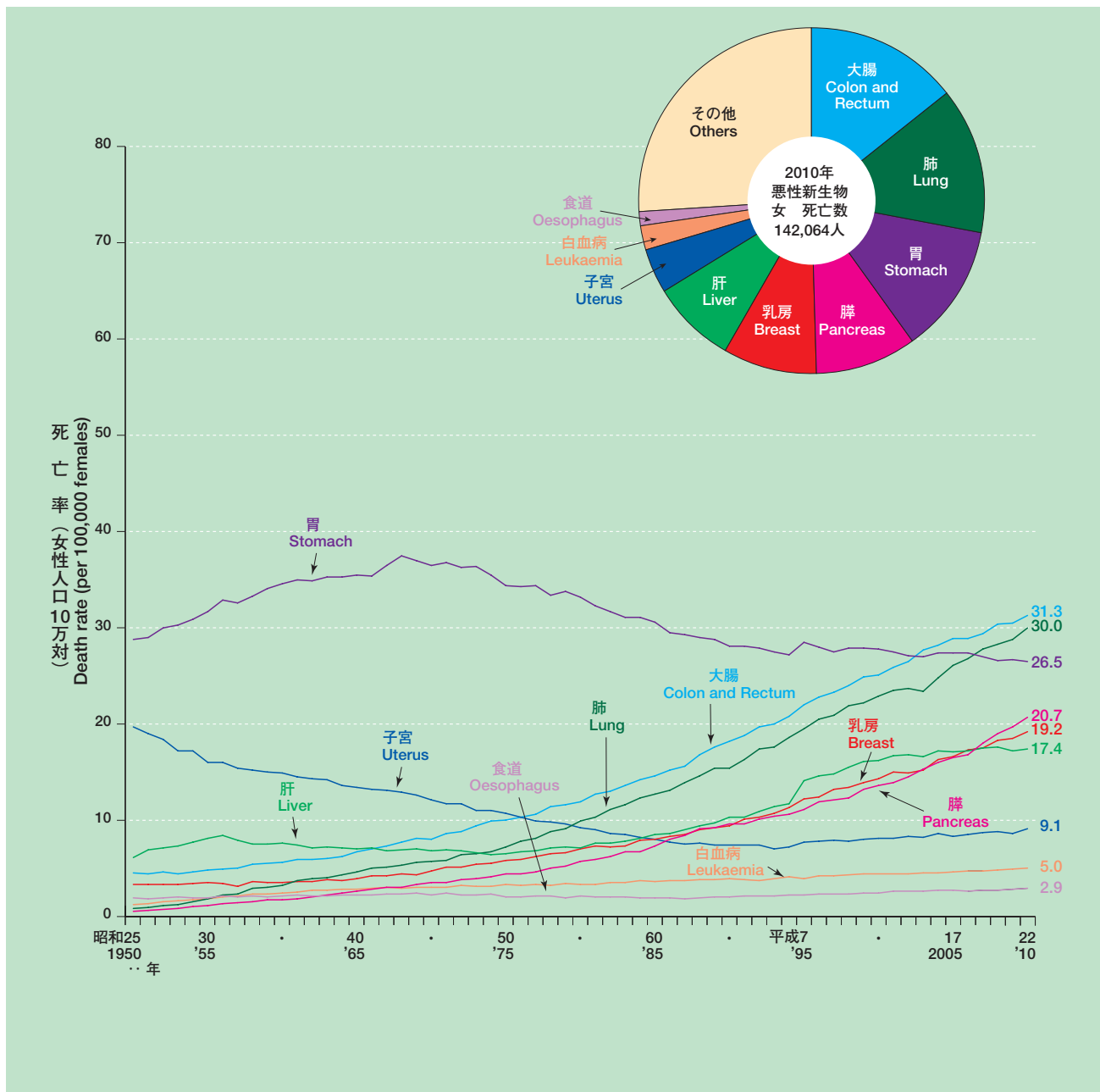


注：1) 大腸←結腸と直腸 S 状結腸移行部及び直腸 Colon and Rectum←Colon and rectosigmoid junction and rectum
2) 肝←肝及び肝内胆管（昭和32年まで胆のう及び肝外胆管を含む。） Liver←Liver and intrahepatic bile ducts
3) 肺←気管、気管支及び肺 Lung←Trachea, bronchus and lung

平成22年における男のがんの死亡数は21万1435人、死亡率（男性人口10万対）は343.4である。
 部位別に死亡率の年次推移をみると、肺がんは一貫して上昇を続けており、5年には胃がんを抜いて第1位となり、引き続き上昇している。
 4年まで第1位であった胃がんは昭和43年をピークに低下傾向が続いていたが、平成6年から上昇傾向となり、近年は横ばいとなっている。
 大腸がんは上昇を続け、19年に肝がんを抜き、上昇傾向にある。その他の部位では、上昇傾向であった肝がんは、近年は横ばいから低下傾向で推移しているが、膵がん、食道がん、前立腺がんは上昇傾向にある。

女は大腸がんが第1位

部位別にみたがんの死亡率の年次推移，女—昭和25～平成22年—
Trends in death rates for cancer by site, Female, 1950—2010



注：平成6年以前の「子宮」は胎盤を含む。

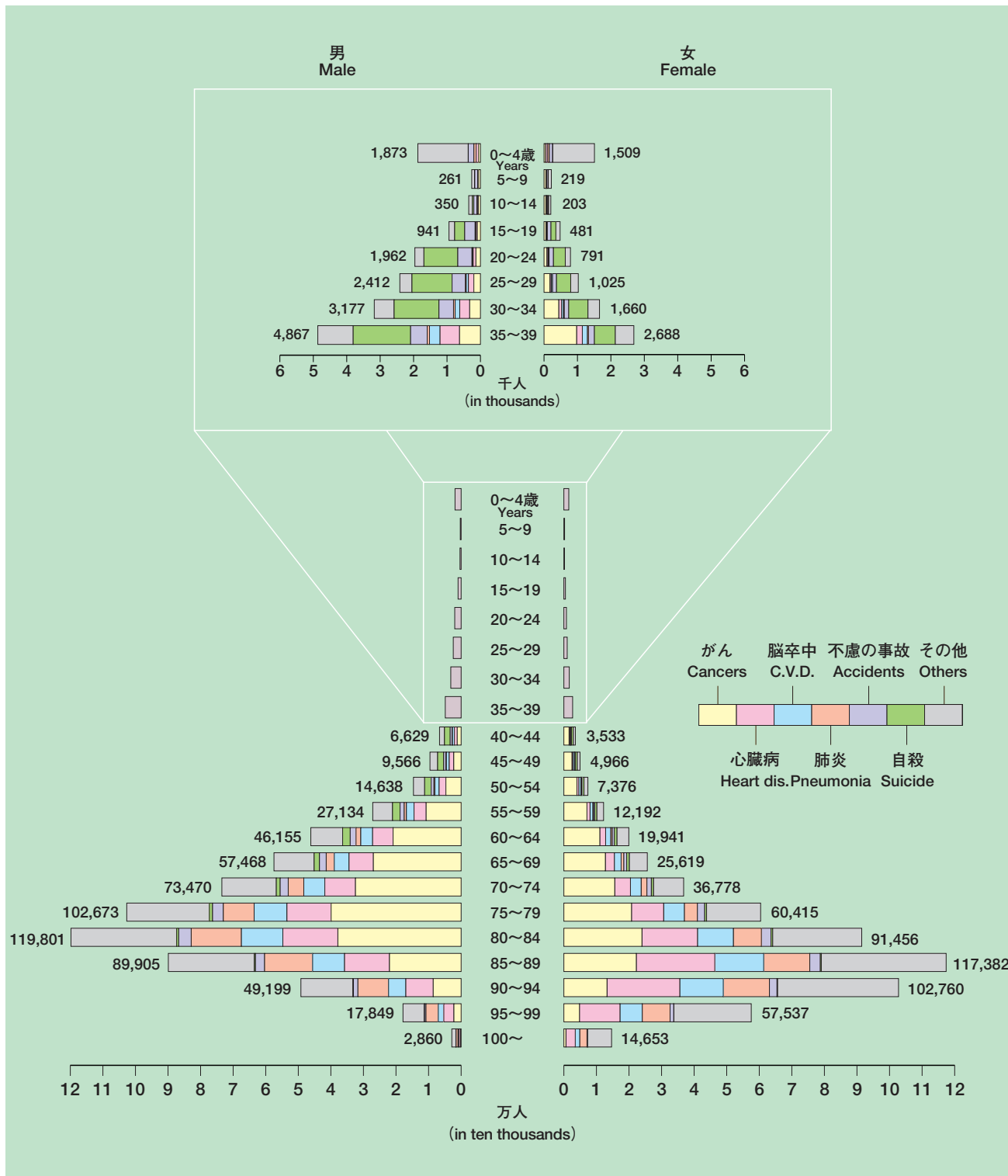
平成22年の女のがんの死亡数は14万2064人、死亡率（女性人口10万対）は219.2である。

部位別に死亡率の年次推移をみると、一貫して上昇を続けていた大腸がんは、平成15年に胃がんを抜き、以降第1位となった。19年には、同様に上昇を続けていた肺がんも胃がんを抜いた。

膵がん、乳がんは上昇し続けており、また、肝がん及び子宮がんも近年緩やかな上昇傾向にある。

青年層では不慮の事故と自殺が多く、中高年層ではがんが多い

性・年齢階級別にみた主な死因の死亡数—平成22年—
Deaths from leading causes by sex and age groups, 2010

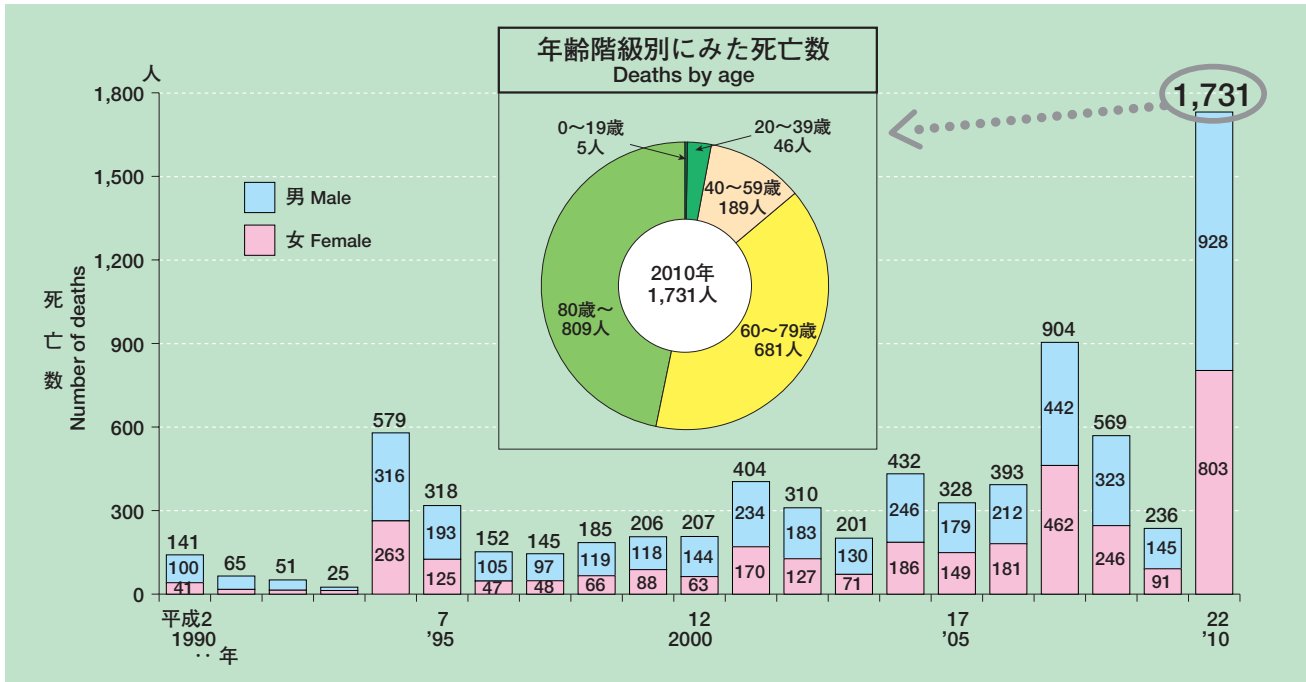


注：C.V.D. ← Cerebrovascular diseases

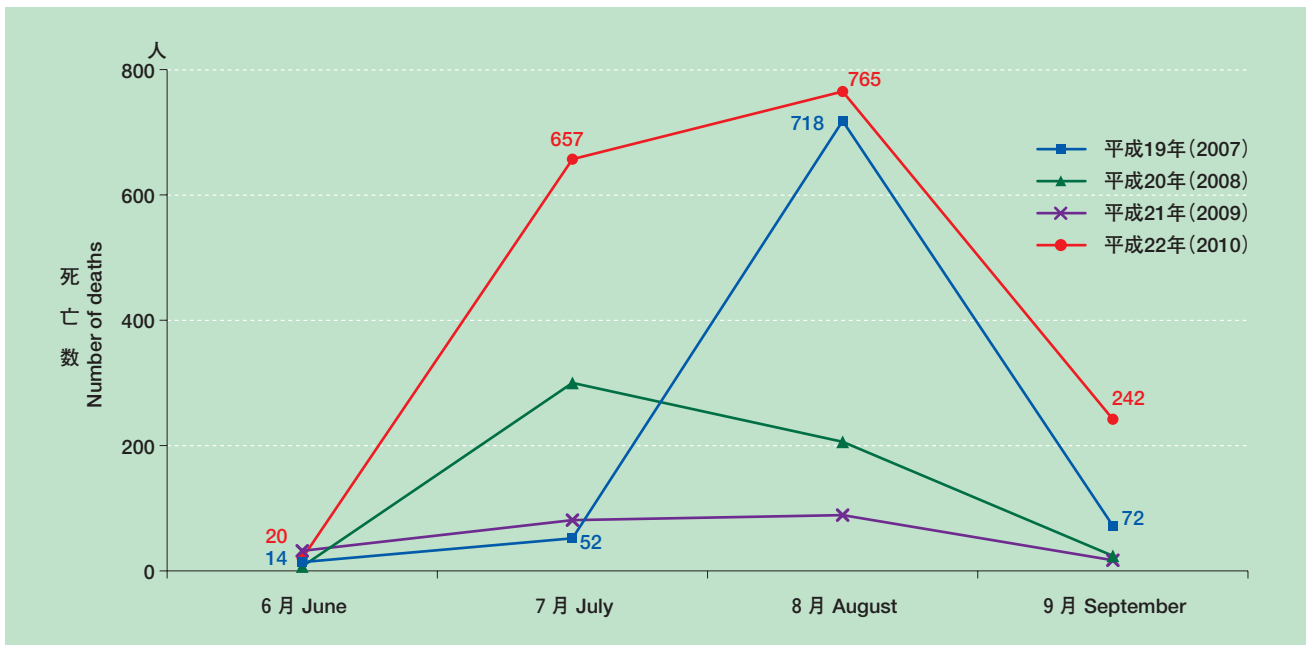
平成22年の性・年齢階級別の死亡数を主な死因別にみると、男女とも10歳代、20歳代では、不慮の事故及び自殺が多くなっている。50歳代、60歳代、70歳代では、がんが多くなり、80歳代以降は年齢が上がるにしたがって心臓病、脳卒中、肺炎が多くなっている。

熱中症による死亡数は過去最高

熱中症による死亡数の年次推移—平成2～22年—
Trends in deaths for exposure to excessive natural heat, 1990—2010



月別にみた熱中症による死亡数の年次推移—平成19～22年—
Trends in deaths for exposure to excessive natural heat by month, 2007—2010



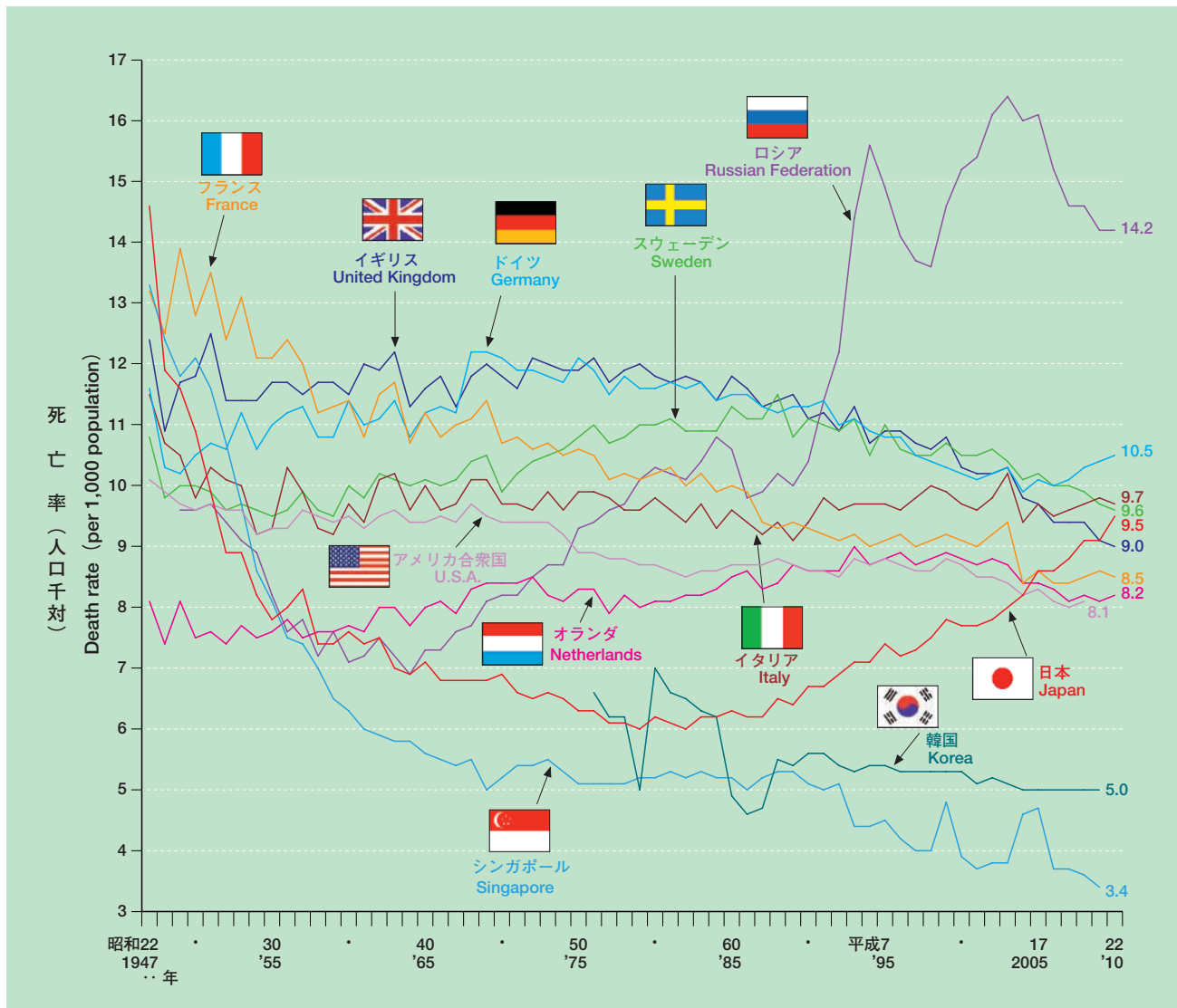
出典：人口動態統計の特別集計結果による

平成22年の熱中症による死亡数は、男928人、女803人で合計1,731人となり、19年の904人を抜いて統計として把握できる昭和39年以降過去最高となった。年齢階級別にみると、80歳以上が809人、次いで60～79歳が681人となっていて、60歳以上の死亡数が全体の86%を占めている。

平成19年以降の熱中症による死亡数を死亡月別にみると、22年は6月～9月の死亡数がいずれも多くなっている。また、2番目に死亡数の多かった19年と比較すると、7月の死亡数が12倍以上、9月も3倍以上多くなっている。

我が国の死亡率は、諸外国を上回る急速な高齢化を反映して上昇

死亡率の年次推移—諸外国との比較 1947～2010年
Death rates in selected countries, 1947—2010

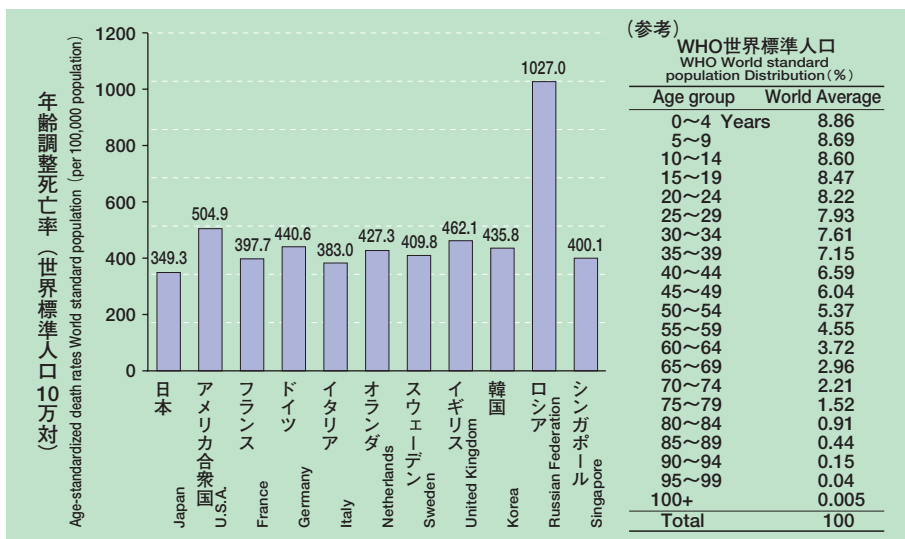


注：ドイツの1990年までは旧西ドイツの数値である。
ロシアの1990年までは旧ソビエト連邦の数値である。
資料：UN「Demographic Yearbook」

年齢調整死亡率の諸外国との比較 2008年
Age-standardized death rates selected countries, 2008

我が国の死亡率（人口千対）の年次推移を諸外国と比較すると、1947年の死亡率は諸外国と比べて高かったが、医学の進歩、公衆衛生の向上などによって急速に改善され、1965年以降は欧米諸国より低くなっていた。しかし、近年、我が国は諸外国を上回る急速な人口の高齢化を反映して上昇している。

世界標準人口で、諸外国の年齢構成の差を取り除いて比較するための年齢調整死亡率（世界標準人口10万対）でみると、我が国は低率国である。

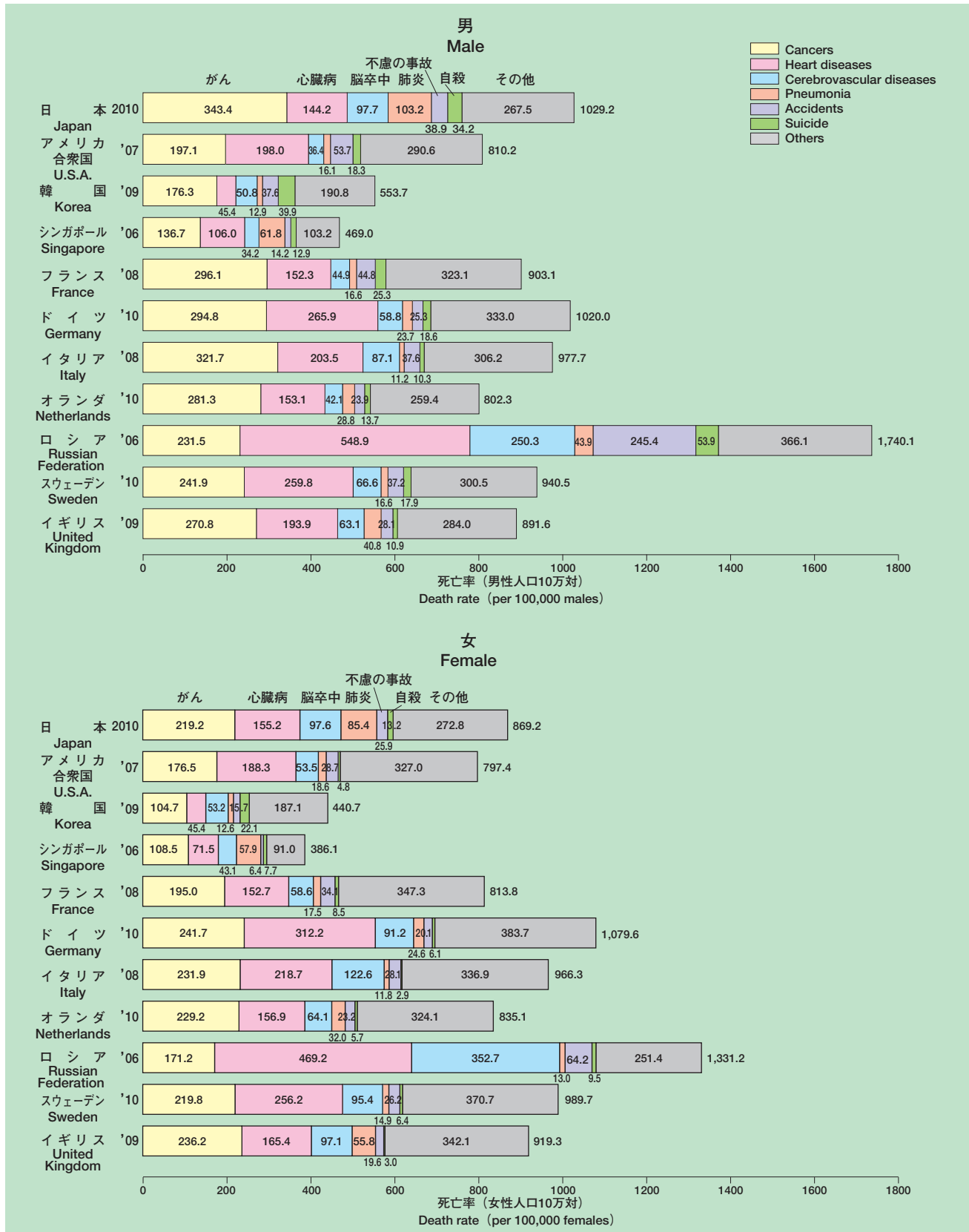


注：標準人口はWHOが作成した世界標準人口による。
資料：WHO「Global burden of disease : 2008」

我が国は男女とも肺炎が、諸外国と比べて高い

性別にみた主な死因別死亡率の諸外国との比較

Death rates for leading causes of death by sex in selected countries



注：1) 心臓病及び不慮の事故は、我が国で使用している死因分類の範囲と一致しない。
 2) 死因分類についてはICD-10による分類である。ただし、シンガポールはICD-9による分類である。
 資料：WHO “Health statistics and health information systems [Mortality Database]”

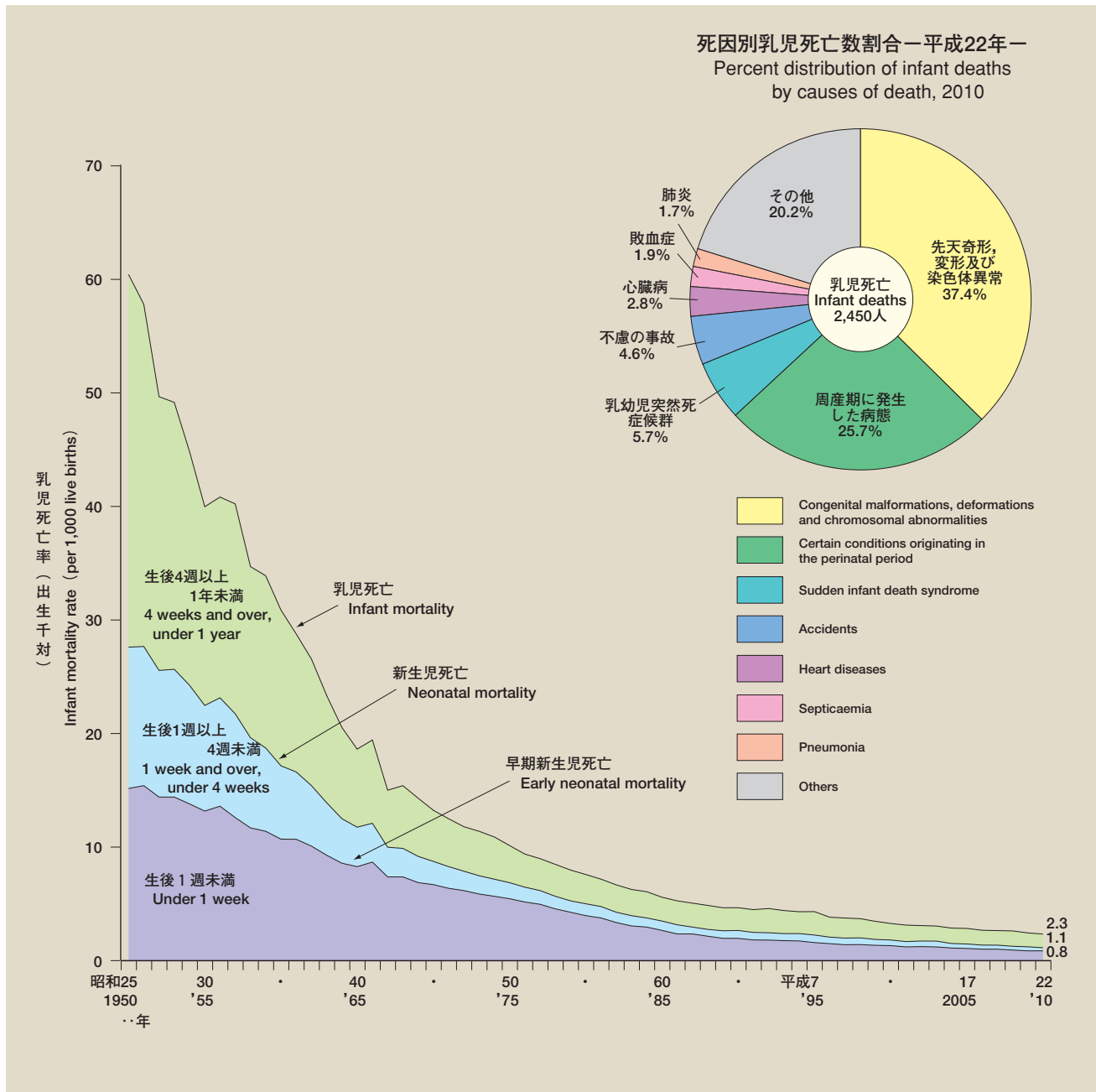
我が国の性別の死亡率（人口10万対）を諸外国と比較すると、男女とも肺炎が、諸外国と比べて高くなっている。

乳児死亡の動き Infant mortality

乳児死亡率は低下傾向

生存期間別にみた乳児死亡率の年次推移—昭和25～平成22年—

Trends in infant mortality rates by age, 1950—2010



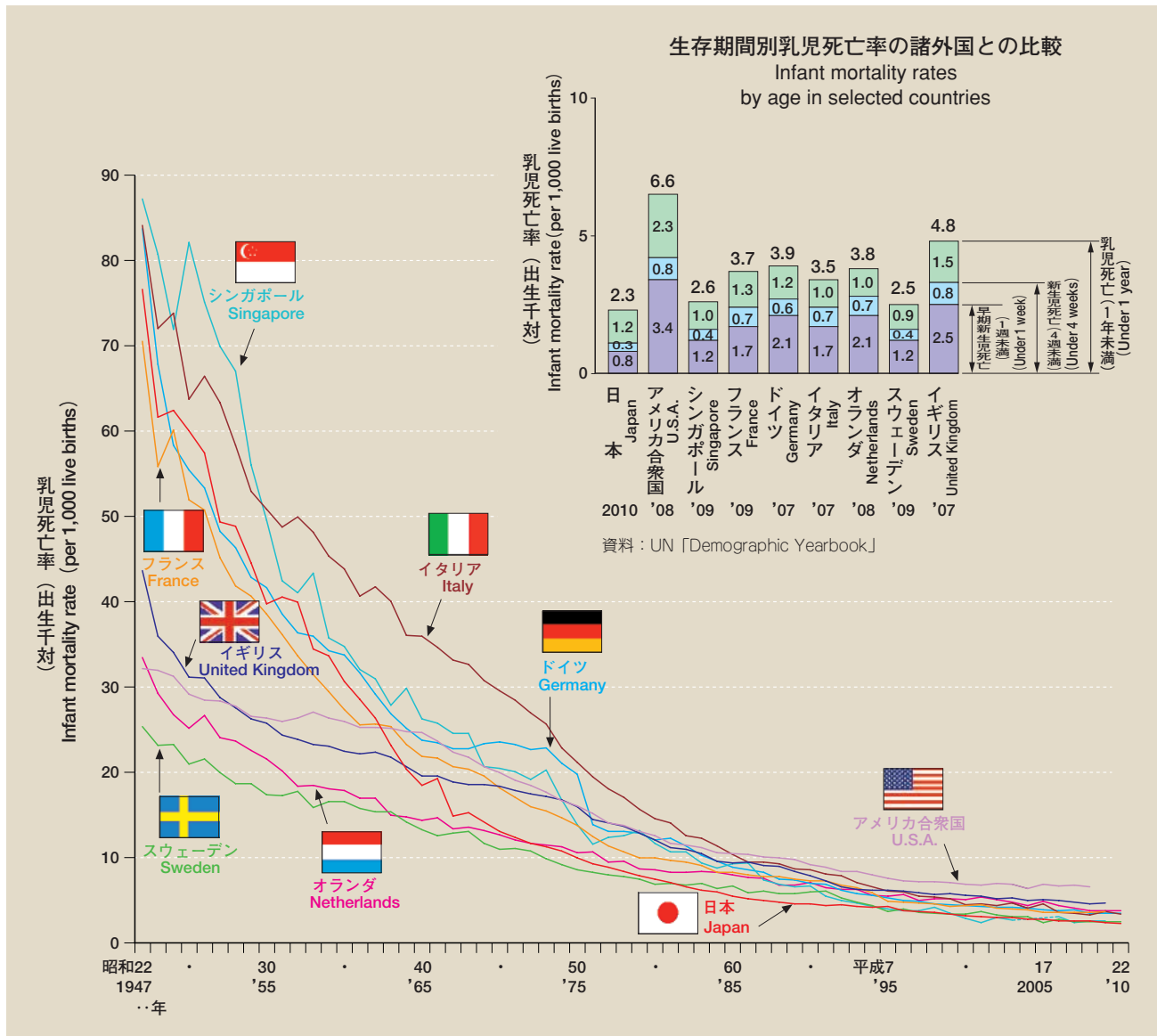
乳児死亡とは、生後1年未満の死亡であり、このうち4週（28日）未満の死亡を新生児死亡、1週（7日）未満の死亡を早期新生児死亡という。

平成22年の乳児死亡数は2,450人、乳児死亡率（出生千対）は2.3となっている。

生存期間別に乳児死亡率の年次推移をみると、昭和40年代半ばまでは生後1週以上4週未満及び4週以上1年未満の死亡は急速に低下したが、近年は緩やかな低下傾向となっている。

平成22年の死因別乳児死亡数割合は、「先天奇形、変形及び染色体異常」が最も多く37.4%で、次いで「周産期に発生した病態」が25.7%となっている。

乳児死亡率の年次推移—諸外国との比較 1947～2010年
 Infant mortality rates in selected countries, 1947—2010



注：ドイツの1990年までは旧西ドイツの数値である。

資料：WHO「World Health Statistics Annual」
 UN「Demographic Yearbook」

【乳児死亡率 最新年の数値】 Infant mortality rates

日本	アメリカ	シンガポール	フランス	ドイツ	イタリア	オランダ	スウェーデン	イギリス
Japan	U.S.A.	Singapore	France	Germany	Italy	Netherlands	Sweden	United Kingdom
2010	2008	2009	2009	2010	2010	2010	2010	2009
2.3	6.6	2.6	3.7	3.5	3.4	3.8	2.5	4.7

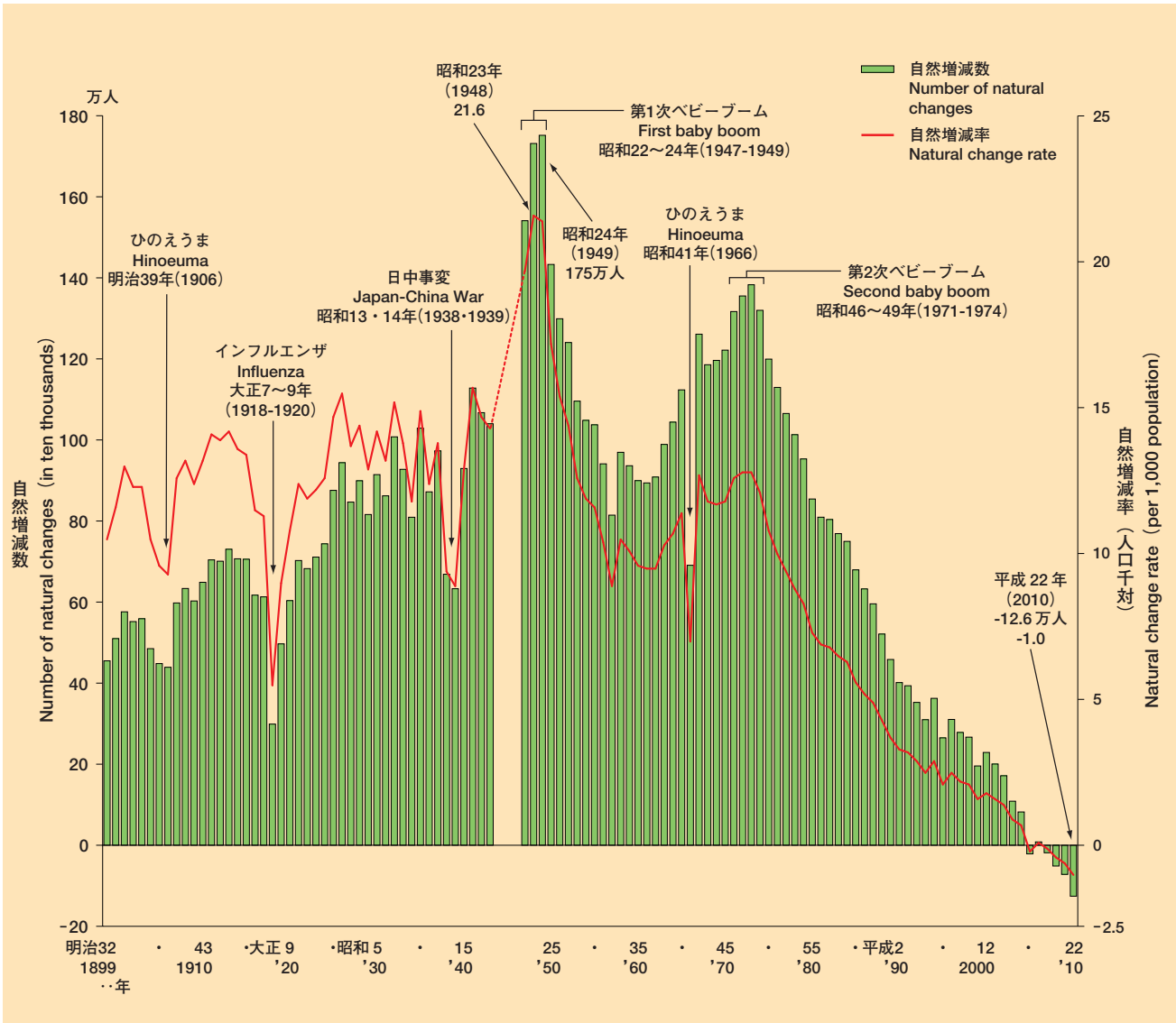
我が国の乳児死亡率（出生千対）の年次推移を諸外国と比較したものである。
 1947年から1960年代初めまでの乳児死亡率は諸外国と比べて高かったが、その後は低下し、現在は世界でも有数の低率国である。

自然増減の動き Natural change

自然増減数・自然増減率はともに前年を下回る

自然増減数及び自然増減率の年次推移—明治32～平成22年—

Trends in natural changes and natural change rates, 1899—2010



平成22年の自然増減数（出生数から死亡数を減じたもの）は△12万5708人で、前年の△7万1830人より5万3878人減少し、自然増減率（人口千対）は△1.0で前年の△0.6を下回った。

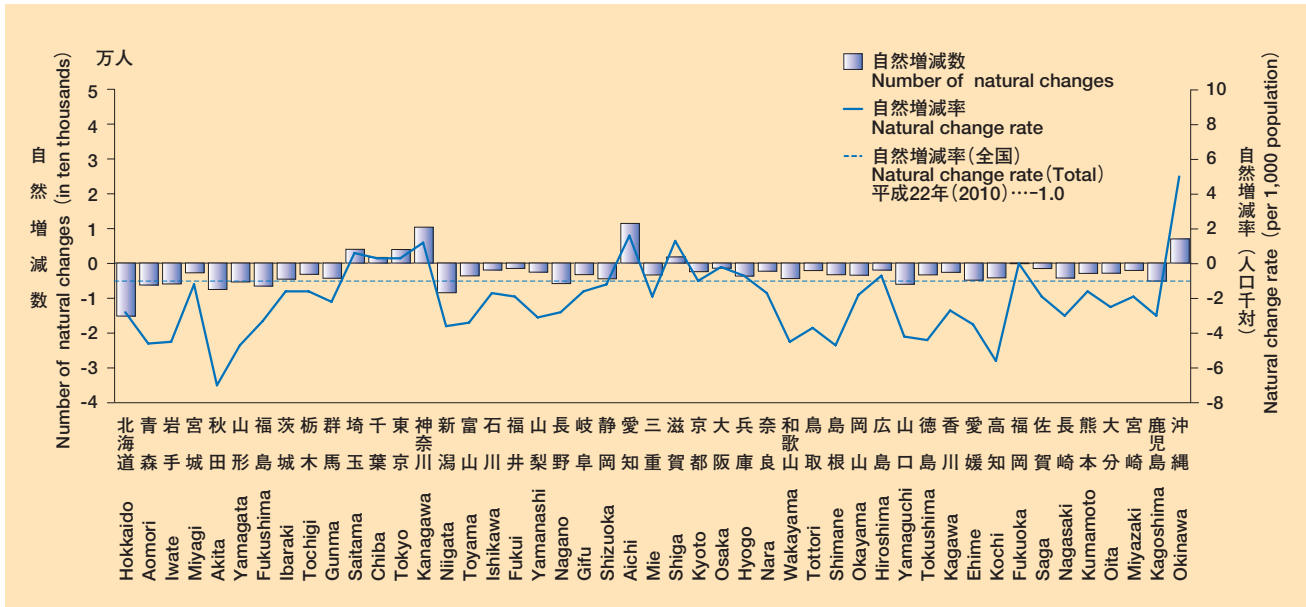
自然増減数の年次推移をみると、第2次世界大戦前は増加傾向であったが、戦後は第1次ベビーブーム期の昭和24年の175万人をピークに減少した。その後、昭和37年に再び増加に転じ、46年から49年の第2次ベビーブーム期には130万人を超えていたが、50年以降は、出生数の減少により自然増減数も減少し、平成元年に50万人を割った。

平成2年からは出生数は横ばいであったが、人口の高齢化による死亡数の増加により減少し、11年には20万人を割った。12年には増加したものの、13年以降は出生数の減少と死亡数の増加の双方により減少し、16年には10万人を割り、17年には統計の得られていない昭和19年から21年を除き、現在の形式で統計をとり始めた明治32年以降初めて出生数が死亡数を下回りマイナスとなった。平成18年はプラスとなったものの、19年からは再びマイナスとなっている。

出生数が死亡数を上回った県は7都県

都道府県別にみた自然増減数及び自然増減率—平成22年—

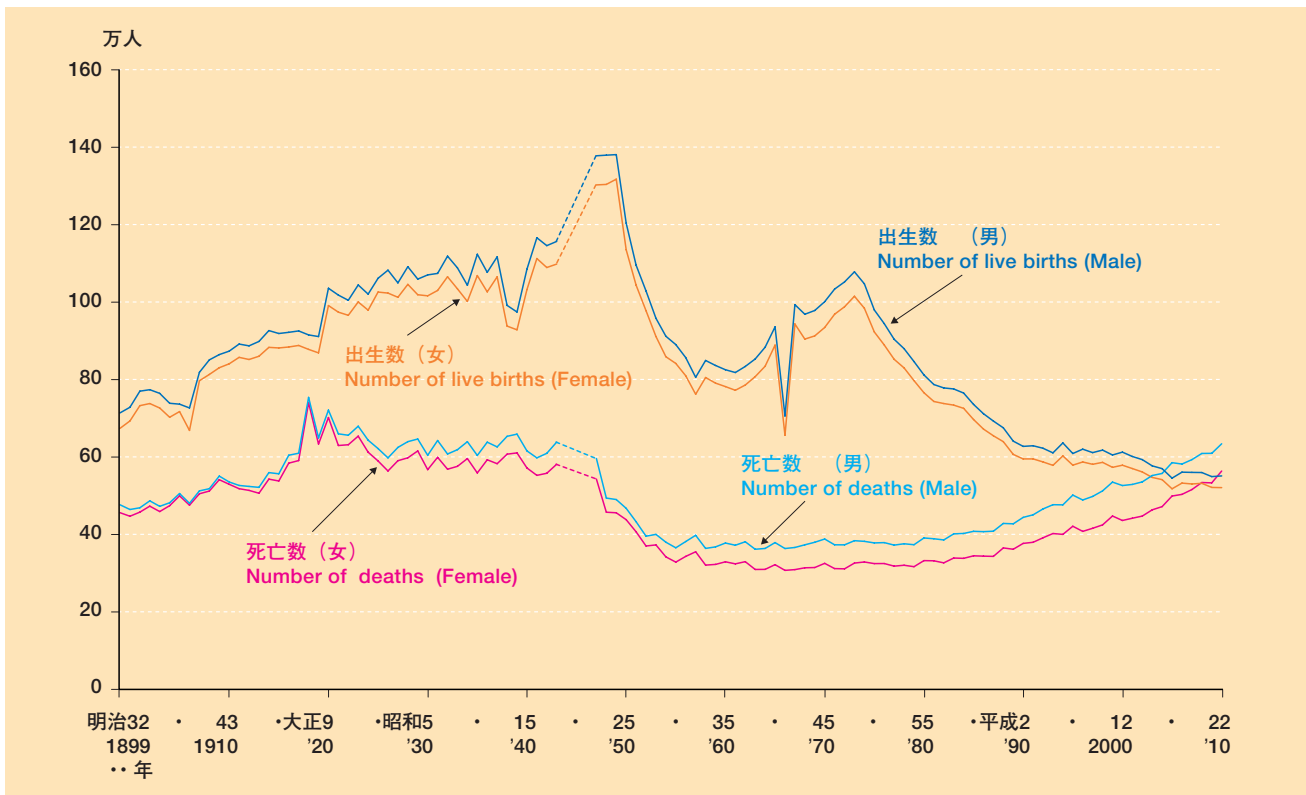
Natural changes and natural change rates by prefecture, 2010



自然増減数は男は平成17年、女は20年以降減少

性別にみた出生数及び死亡数の年次推移—明治32～平成22年—

Trends in live births and deaths by sex, 1899-2010



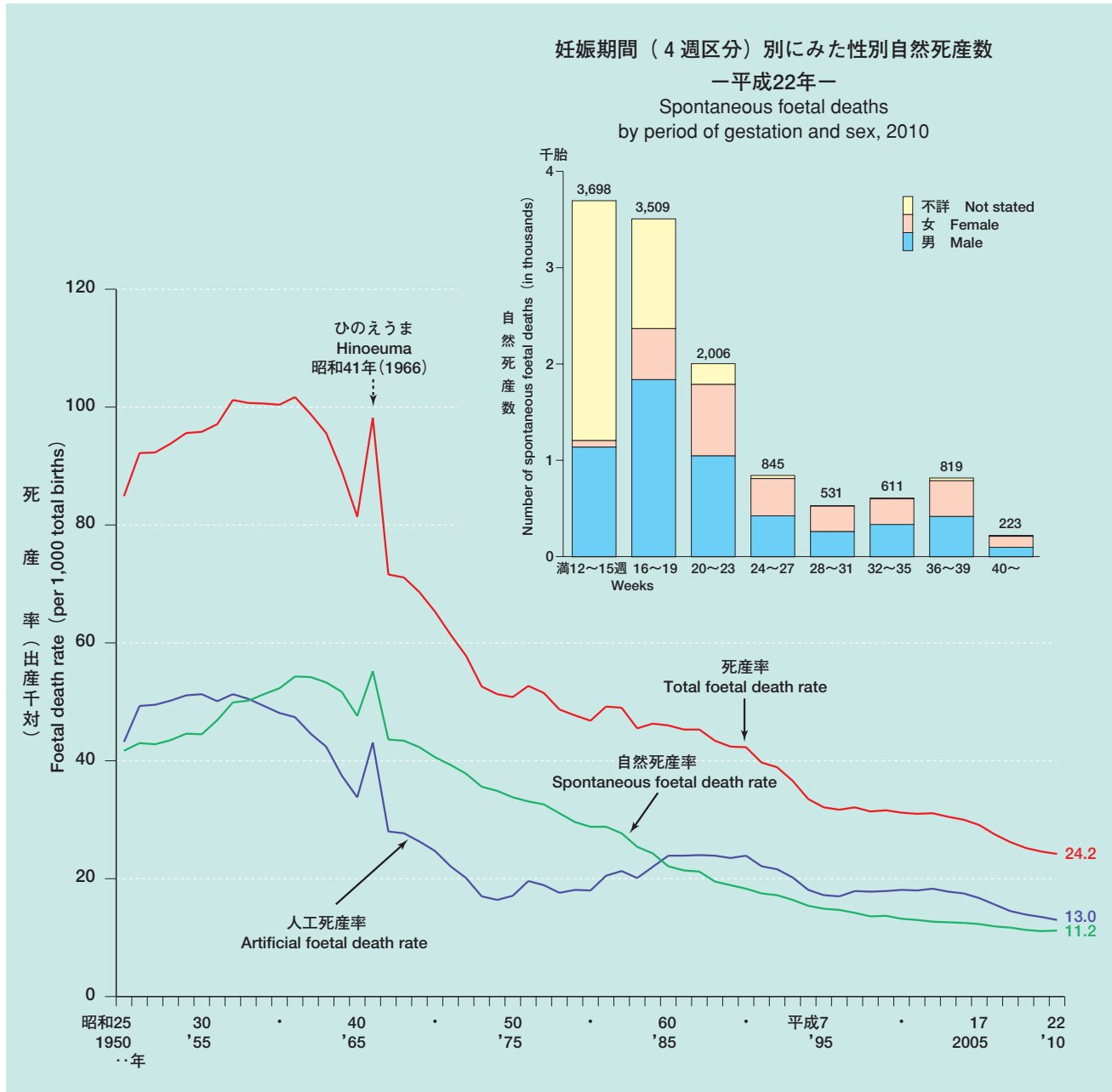
自然増減数を都道府県別にみると、出生数が死亡数を上回った県は7都県となっている。自然増減率（人口千対）をみると、最も高い県は沖縄県で、5.0となっており、最も低い県は秋田県で Δ 7.0となっている。

出生数と死亡数の年次推移を性別にみると、統計の得られていない昭和19年から21年を除き、現在の形式で統計をとり始めた明治32年以降、男は平成17年に初めて出生数が死亡数を下回ってから自然増減数の減少が続いており、同様に女は20年以降減少となっている。

死産の動き Foetal mortality

死産率は低下傾向

自然・人工別にみた死産率の年次推移—昭和25～平成22年—
Trends in foetal death rates by type of extraction, 1950—2010



死産とは、妊娠満12週以後の死児の出産をいい、死産率は出産（出生数と死産数の合計）千対の率である。

平成22年の死産数は2万6560胎、死産率は24.2となっている。

死産率の年次推移をみると、全死産は昭和25年から上昇傾向となり、36年にピークの101.7となった。その後は41年の「ひのえうま」の影響を除き低下傾向となり、平成7年からは横ばいで推移していたが、15年以降低下している。

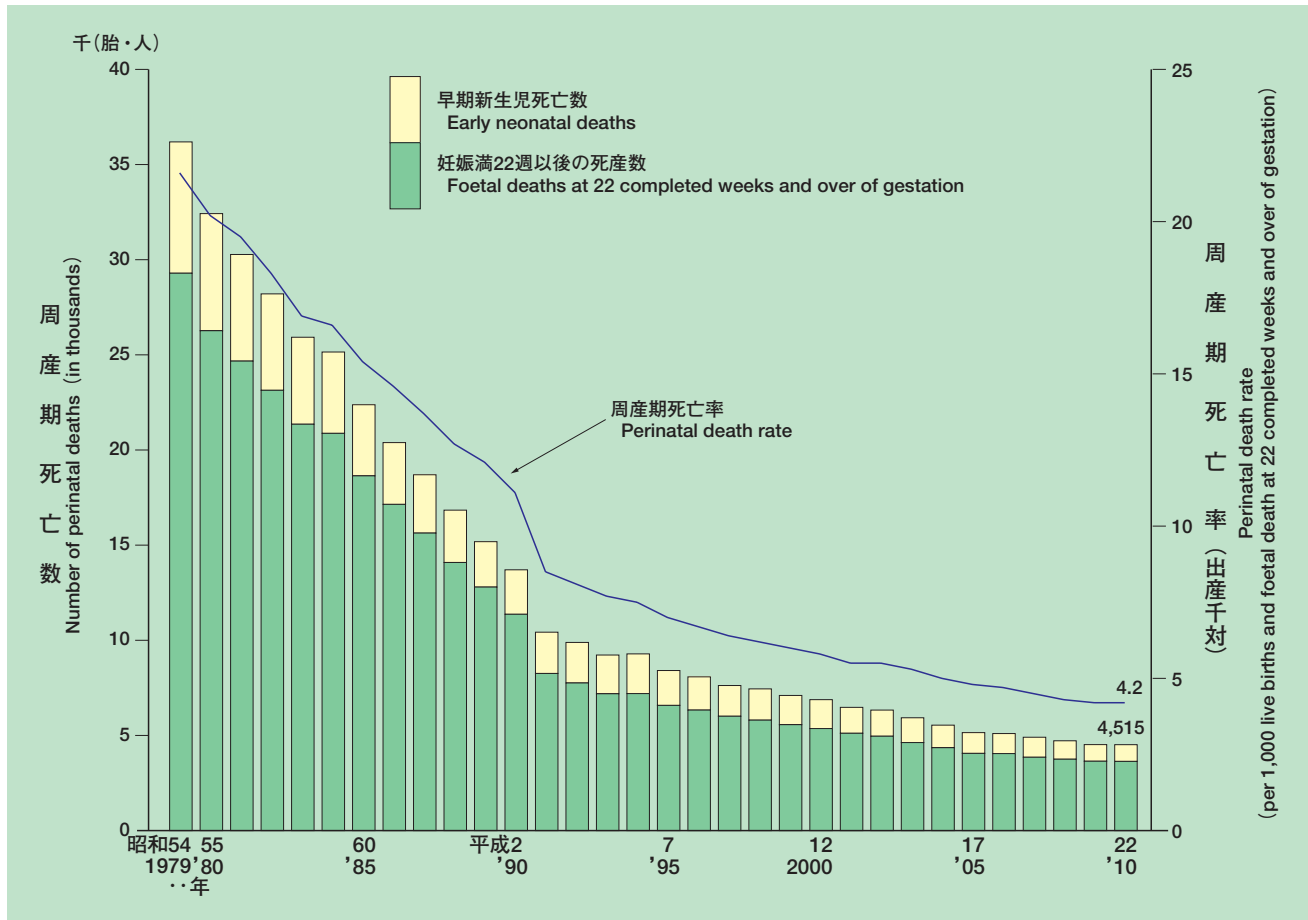
自然死産・人工死産別にみると自然死産率は昭和30年代後半から低下傾向にある。人工死産率は昭和30年代半ばから低下していたが、50年からは上昇傾向に転じ、60年には自然死産率を上回った。63年からは再び低下傾向に転じ、平成6年から14年まではおおむね横ばいとなったが、15年からは自然死産率の低下と比較すると大きく低下している。

平成22年の自然死産数を妊娠期間（4週区分）別にみると、満23週以前の各期間の死産数が多くなっている。

周産期死亡の動き Perinatal mortality

周産期死亡率は低下傾向

周産期死亡数及び周産期死亡率の年次推移—昭和54～平成22年—
Trends in perinatal deaths and perinatal death rates, 1979—2010



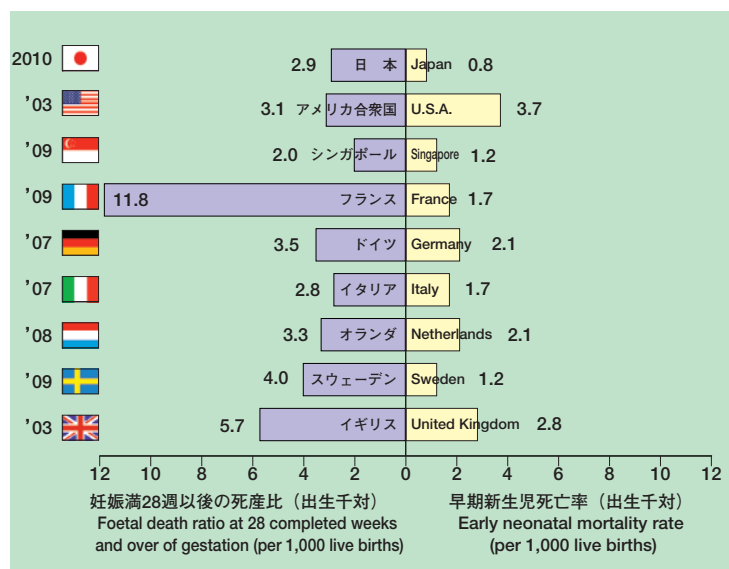
周産期死亡率の諸外国との比較
Perinatal death rates in selected countries

周産期死亡とは、妊娠満22週以後の死産に早期新生児死亡を加えたものをいい、周産期死亡率は、出産（出生数と妊娠満22週以後の死産数の合計）千対の率である。

平成22年の周産期死亡数は4515で、妊娠満22週以後の死産数が3637胎、早期新生児死亡数が878人となっており、周産期死亡率は4.2で、数、率ともに減少している。

我が国の周産期死亡率を諸外国と比較してみると、妊娠満28週以後の死産比、早期新生児死亡率ともに低くなっている。

なお、諸外国との比較では妊娠満28週以後の死産数（妊娠期間不詳の死産を含む。）の出生千対の比を用いた。



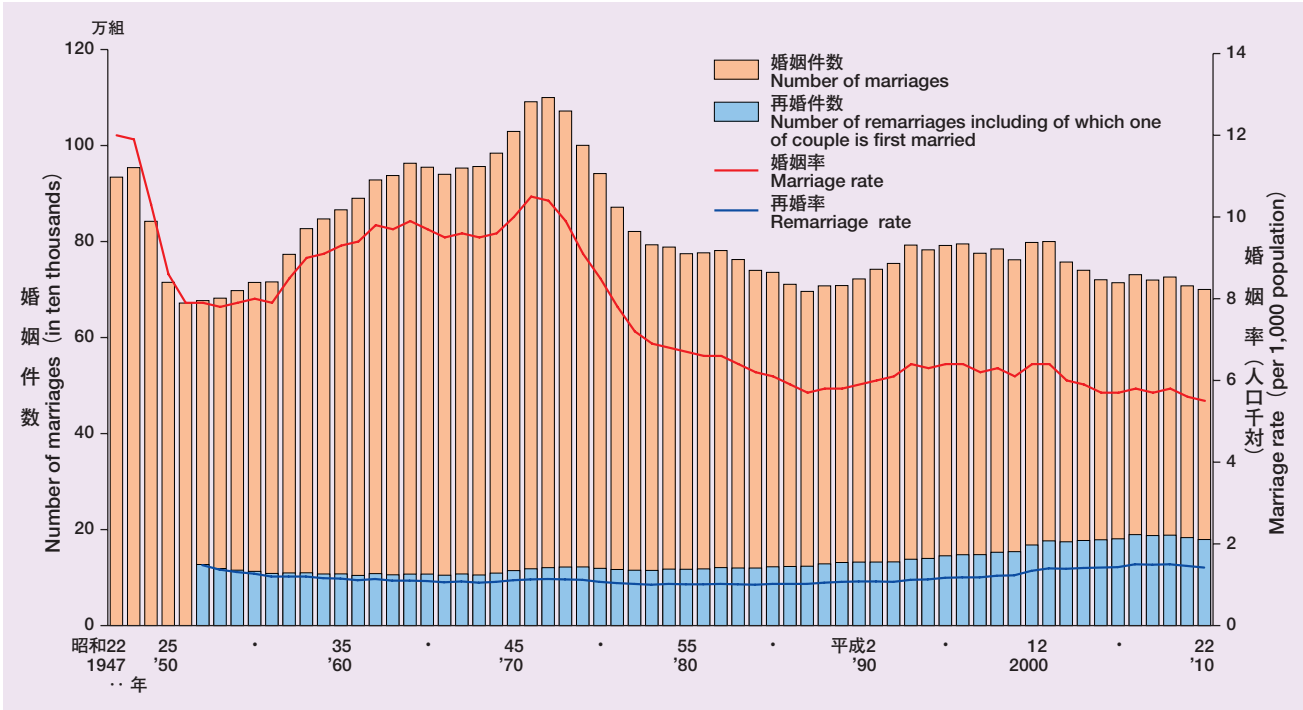
注：諸外国は、妊娠期間不詳の死産を含む。
資料：UN「Demographic Yearbook」

婚姻の動き Marriages

婚姻件数は減少

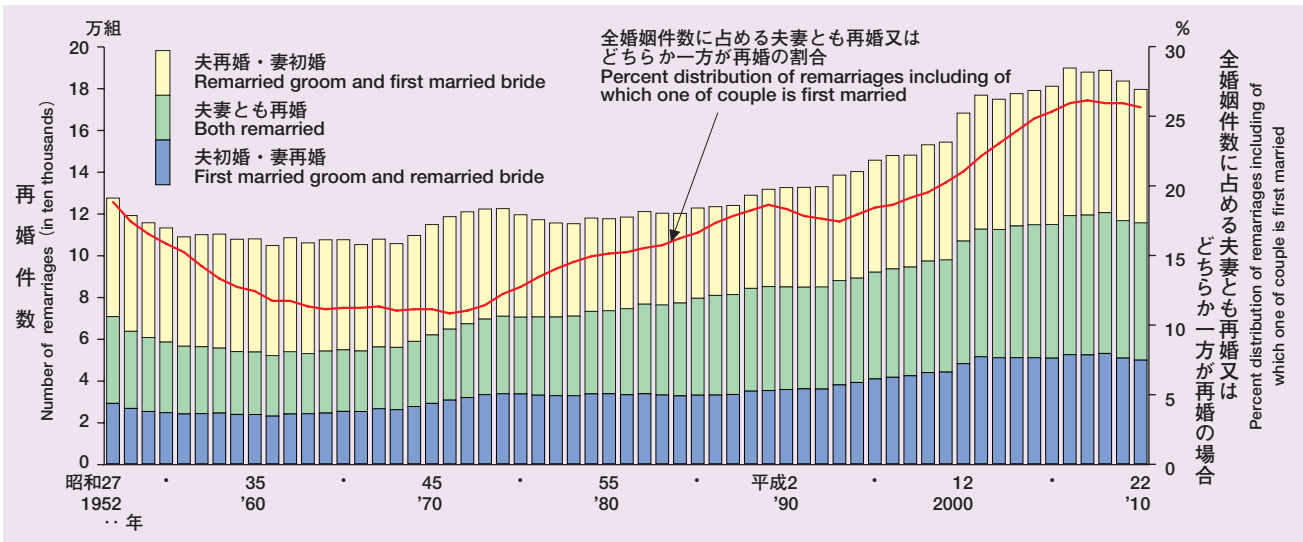
婚姻件数及び婚姻率の年次推移—昭和22～平成22年—

Trends in marriages and marriage rates, 1947—2010



夫妻とも再婚又はどちらか一方が再婚の婚姻件数の年次推移—昭和27～平成22年—

Trends in remarriages including of which one of couple is first married, 1952—2010



平成22年の婚姻件数は70万214組で、前年より7520組減少した。

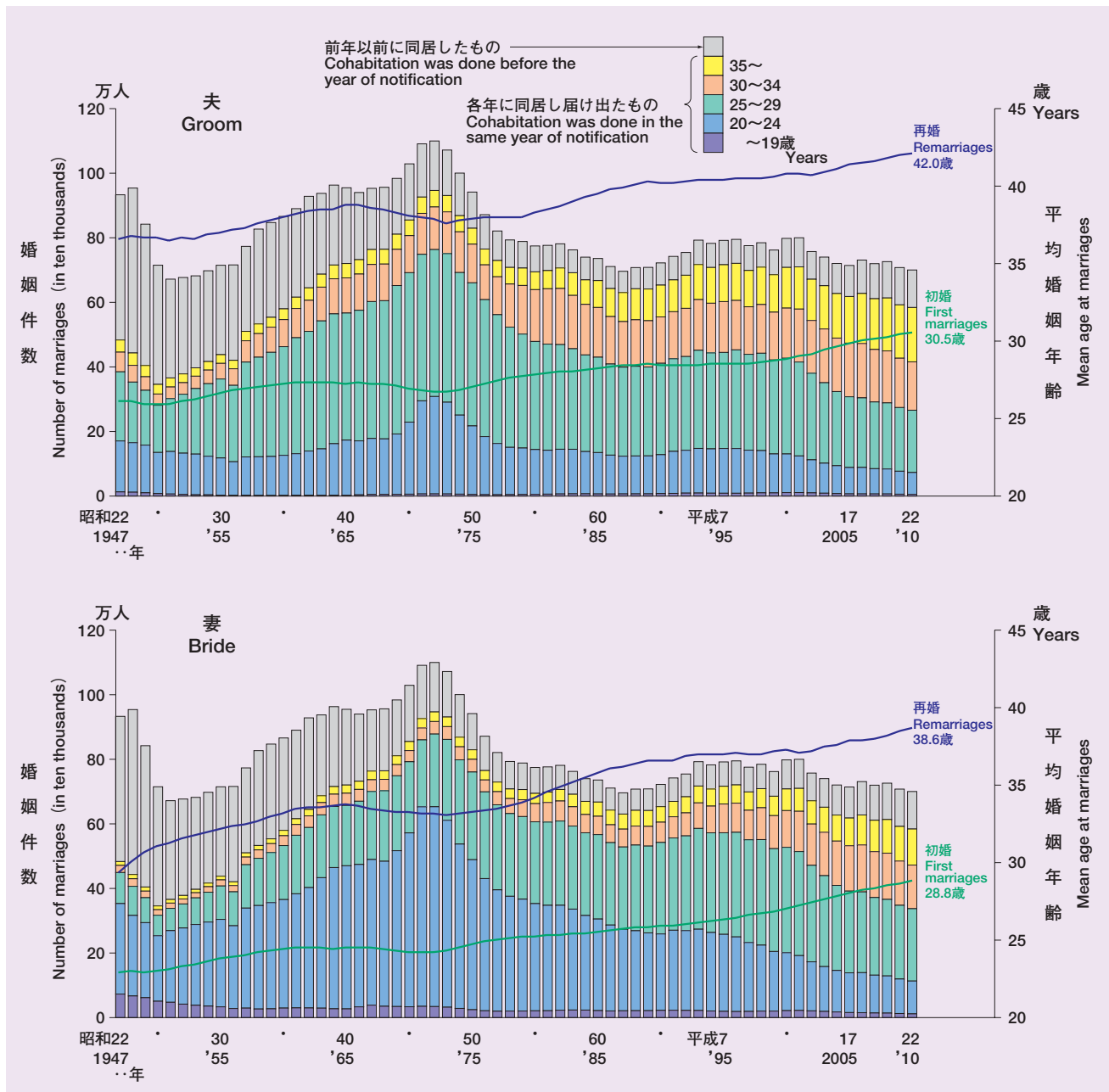
婚姻件数の年次推移をみると、終戦直後の昭和22、23年の第1次婚姻ブームの後に急激に減少したが、20年代後半以降は増加傾向となり、45年には第2次婚姻ブームを迎え、47年には110万組となった。昭和48年から減少傾向の後、63年から増加に転じた。平成6年以降は増減を繰り返す、14年からは減少し続けていたが、18年以降は再び増減を繰り返している。

また、初婚—再婚別にみると、平成22年は「夫妻とも初婚」は52万955組（全婚姻件数の74.4%）で、「夫妻とも再婚又はどちらか一方が再婚」は17万9259組（同25.6%）となっている。

「夫妻とも再婚又はどちらか一方が再婚」を組み合わせ別にみると「夫再婚—妻初婚」は6万5757組、「夫妻とも再婚」は6万3886組、「夫初婚—妻再婚」は4万9616組となっている。

夫・妻ともに進む晩婚化

夫・妻の年齢階級別にみた婚姻件数及び平均婚姻年齢の年次推移—昭和22～平成22年—
Trends in marriages by age of bride and groom at marriage, and mean age, 1947—2010



注：昭和42年までは結婚式をあげたときの年齢、43年以降は結婚式をあげたときと同居を始めたときのうち早いほうの年齢である。

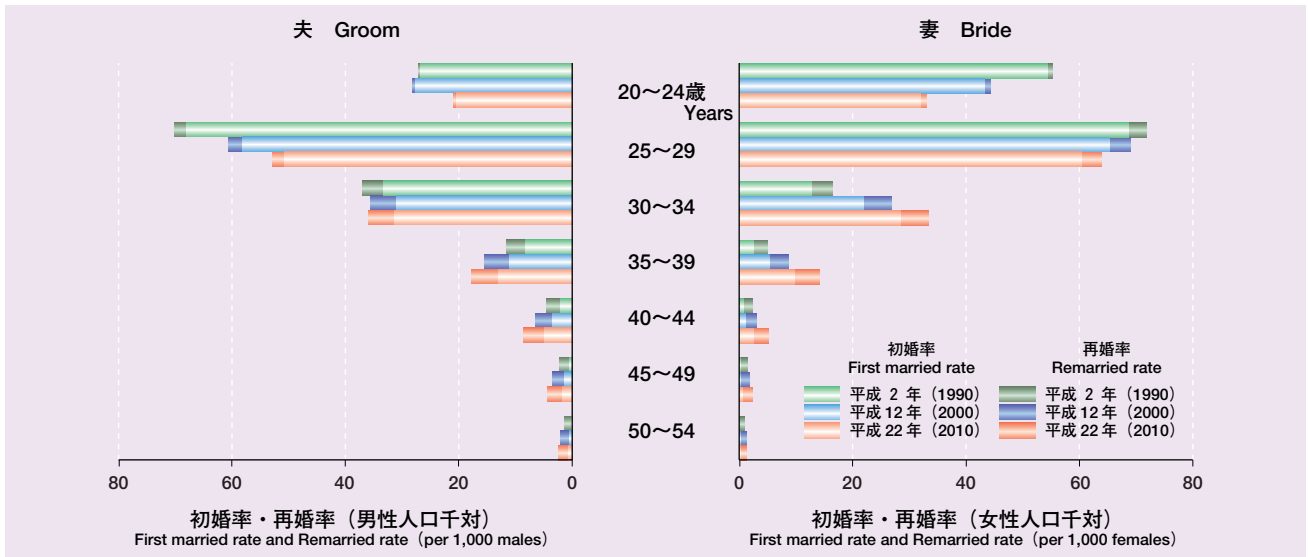
各年に同居し届け出たものについて、年齢階級別に年次推移をみると、夫・妻とも昭和20年代後半から47年までの約20年間では20歳代の増加が著しい。その後、夫の20歳代、妻の20～24歳は減少傾向に転じたが、夫・妻とも30～34歳、35歳以上は増加傾向にある。平成22年では夫・妻とも、25～29歳が19万2836人、22万4121人と最も多く、次いで夫は35歳以上の16万8382人、30～34歳の14万9798人、妻は30～34歳の13万5044人、35歳以上の11万1666人となっている。

夫・妻の平均初婚年齢の年次推移をみると、昭和22年では夫26.1歳、妻22.9歳であり、その後、20年代半ばから30年代半ばにかけて上昇した。第2次婚姻ブーム期の昭和47年前後に低下したが、その後再び上昇し続け、平成22年には夫30.5歳、妻28.8歳となった。平成22年は昭和22年に比べ夫は4.4歳、妻は5.9歳高くなっており、夫・妻とも晩婚化が進んでいる。また、平均再婚年齢をみると、昭和22年では夫36.5歳、妻29.3歳であったが、平成22年には夫42.0歳、妻38.6歳となり、年々上昇傾向にある。

*平成22年に届け出られた婚姻件数は70万214組で、そのうち、22年に同居した婚姻は58万4078組、前年以前に同居した婚姻は11万6136組である。

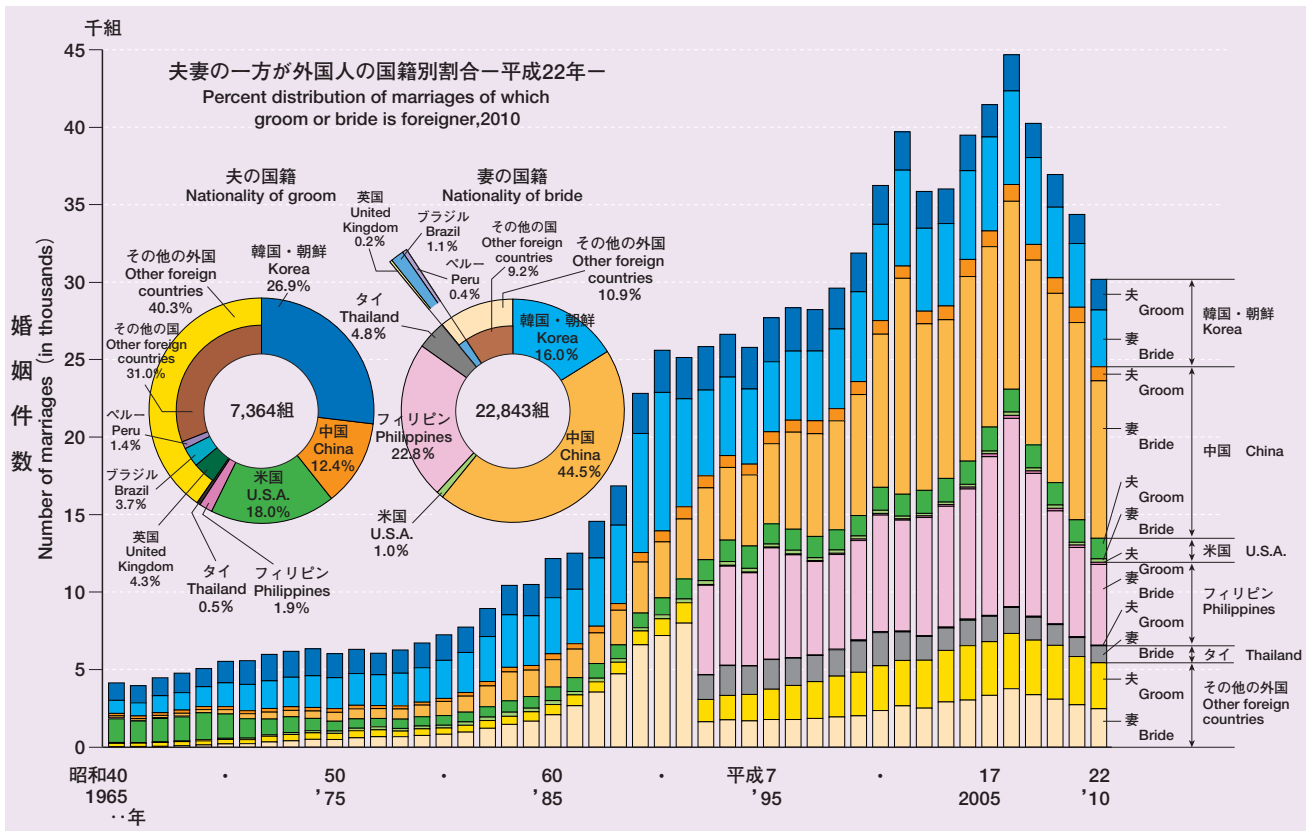
妻の20～24歳の初婚率は大きく低下する一方30歳以上は上昇

結婚生活に入ったときの年齢階級別にみた初婚率・再婚率(人口千対)の年次比較—平成2・12・22年—
Comparison of first married rates and remarried rates (per 1,000 population) by age, 1990・2000・2010



注：各年に同居し届け出たものについての集計である。

夫妻の一方が外国人の国籍別婚姻件数の年次推移—昭和40～平成22年—
Trends in marriages of which groom or bride is foreigner, 1965—2010



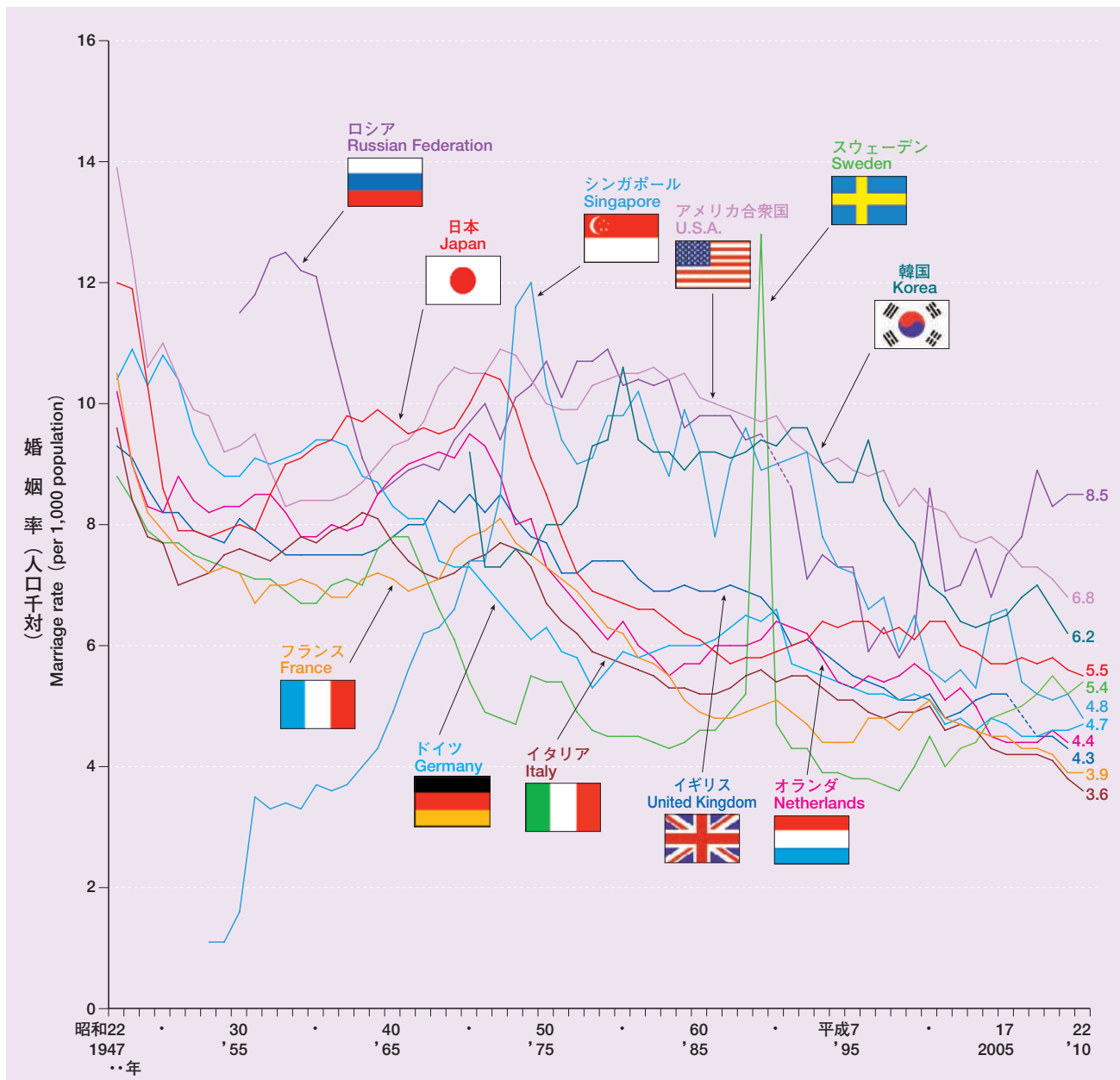
注：フィリピン、タイは、平成4年から調査しており、3年までは「その他の外国」に含まれる。

結婚生活に入ったときの年齢階級別にみた初婚率（人口千対）について、平成22年を2年、12年と比較すると、夫は25～29歳での低下が大きく、35～39歳以上の各階級ではいずれも上昇している。妻は20～24歳で大きく低下し、30歳～34歳以上の階級ではいずれも上昇している。また、再婚率（人口千対）も、夫は35～39歳以上の階級で、妻は30～34歳以上の階級でいずれも上昇している。

夫妻の一方が外国人の婚姻件数の年次推移をみると、平成22年は3万207組で、前年より4186組減少しているものの、昭和40年の4156組と比較すると約7倍になっている。また、妻が外国人の婚姻件数が約76%を占めており、これを妻の国籍別にみると昭和40年以降は韓国・朝鮮が最も多かったが、近年は中国で大きく上昇している。

我が国の婚姻率は、近年、ヨーロッパ諸国と比べて高い

婚姻率の年次推移—諸外国との比較 1947～2010年
Marriage rates in selected countries, 1947—2010



注：点線は数値なし。
イギリスの1970年まではイングランド・ウェールズの数値である。
ドイツの1990年までは旧西ドイツの数値である。
ロシアの1990年までは旧ソビエト連邦の数値である。
以下は暫定値である。
アメリカ合衆国1993～1996年
フランス2010年
ドイツ 2010年
イタリア2010年

資料：UN「Demographic Yearbook」
Council of Europe「Recent demographic developments in Europe」
U.S.Department of Health and Human Services
「National Vital Statistics Reports」
European Union「Eurostat Yearbook」
韓国統計庁資料

我が国と諸外国の婚姻率（人口千対）を比較したものである。

我が国は、1957年から上昇傾向にあったが1971年をピークに急激に低下し、近年は横ばい傾向となっている。

2010年は前年より低下したものの、ヨーロッパ諸国に比べ高くなっている。ただし、ヨーロッパ諸国では出生に占める嫡出でない子の割合が多いことから、婚姻率を比較する場合に注意が必要である（＜参考＞参照）。

* スウェーデンの1989年の大きな突出は、年金制度の改正により駆け込みの婚姻が急増したためといわれている。

＜参考＞Reference

出生に占める嫡出でない子の出生割合の国際比較

Proportion of illegitimate births in total live births in selected countries

国 Country	年次 Year	割合（%） Percentage
日本 Japan	2010	2.1
韓国 Korea	2006	1.5
フランス France	2009	53.7
ドイツ Germany	2010	33.3
イタリア Italy	2010	25.4
スウェーデン Sweden	2010	54.1
イギリス United Kingdom	2010	46.9
アメリカ U.S.A.	2010	40.8

注：アメリカは暫定値である。

資料：OECD「Society at a Glance」

Eurostat Vital Statistics

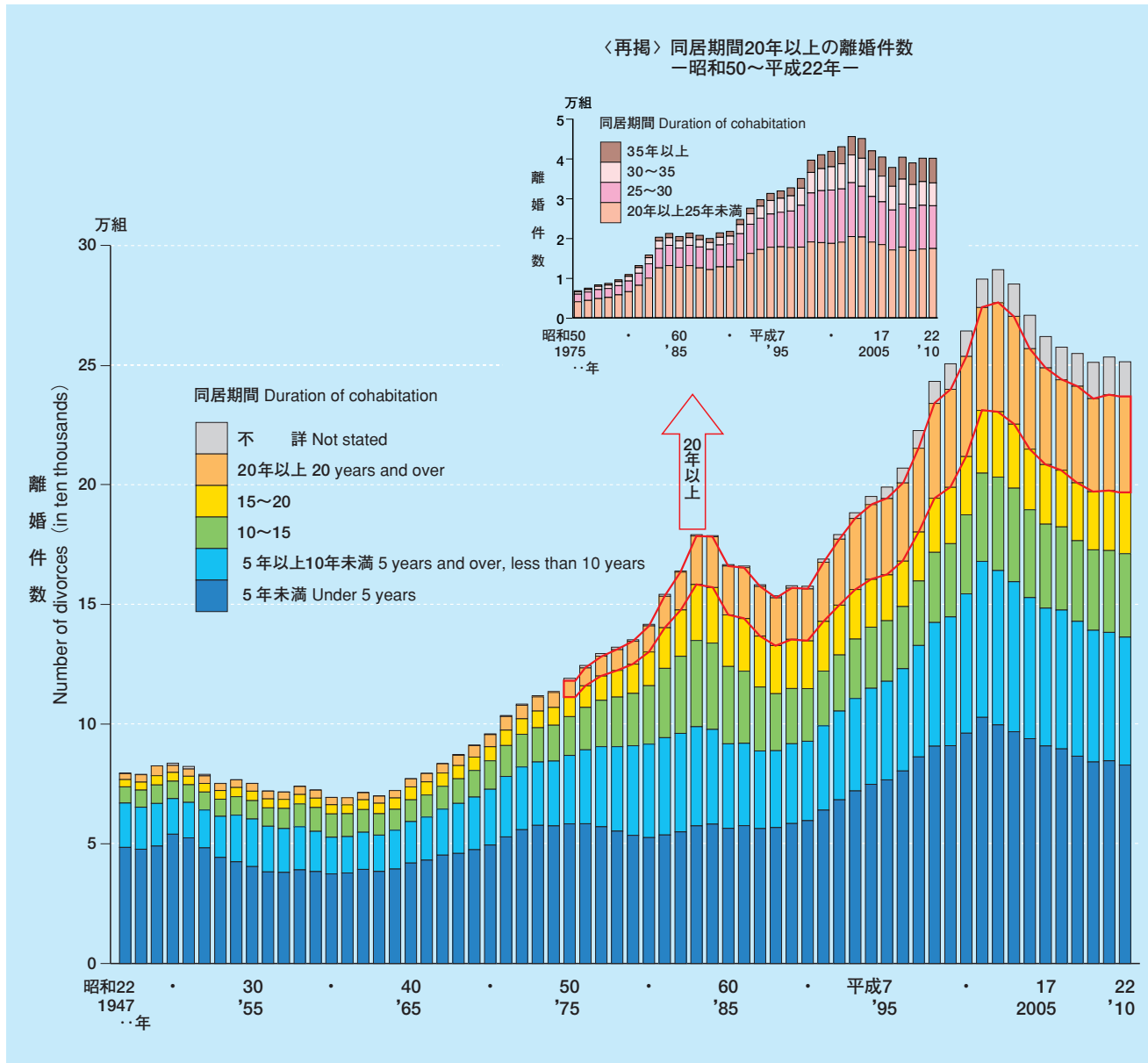
U.S. Department of Health and Human Services

「National Vital Statistics Reports」

離婚の動き Divorces

離婚件数は減少

同居期間別にみた離婚件数の年次推移—昭和22～平成22年—
Trends in divorces by duration of cohabitation, 1947—2010



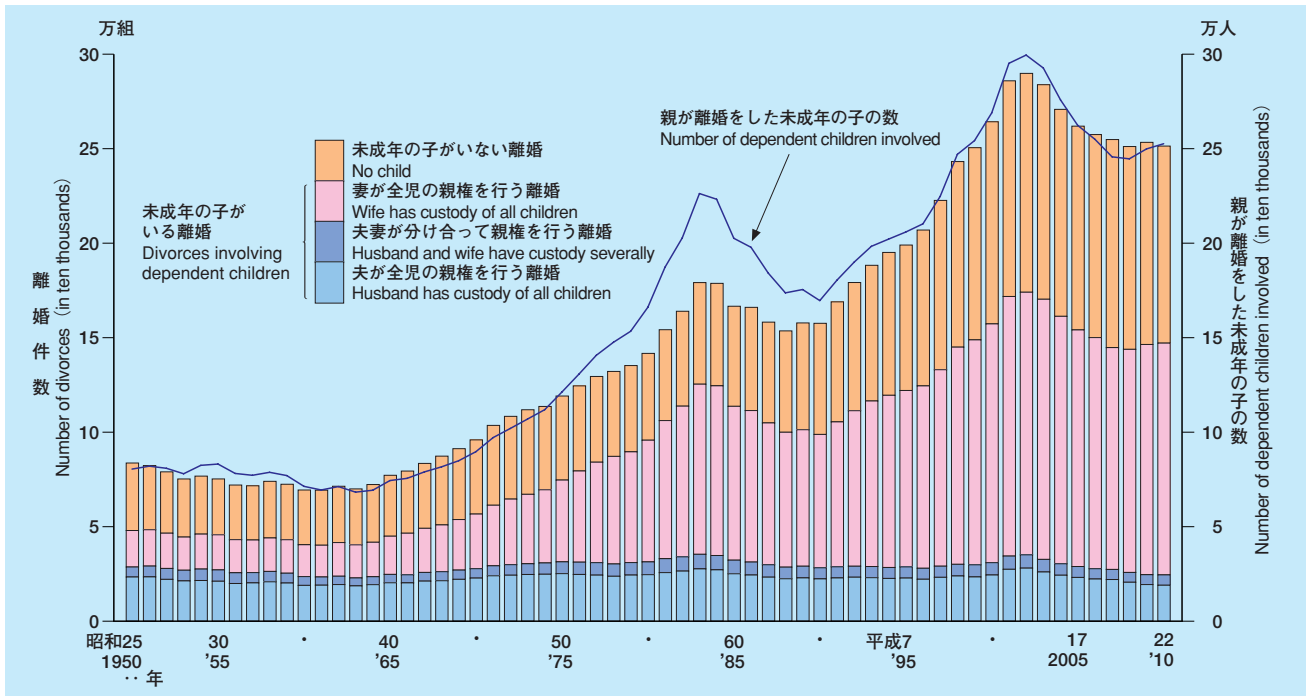
平成22年の離婚件数は25万1378組で前年より1975組減少した。

離婚件数の年次推移をみると、戦後最も少なかった昭和36年以降長期にわたって増加が続いたものの、59年に減少傾向に転じた。平成3年以降は再び増加が続き、14年には統計の得られていない昭和19年から21年を除き、現在の形式で統計をとり始めた明治32年以降最高となった。平成15年以降は減少が続き、21年は7年ぶりに増加したが、22年は再び減少となった。

同居期間別離婚件数の年次推移をみると、すべての期間で増加傾向にあったが、平成14年に5年未満と5年以上10年未満で減少に転じ、その後はすべての期間で減少傾向から横ばいとなっている。また、同居期間20年以上を5年階級別にみると、30年以上35年未満と35年以上の増加の割合が高くなっている。

未成年の子のいる離婚件数は15万組で未成年の子の数は25万人

親権を行う者別にみた離婚件数及び親が離婚をした未成年の子の数の年次推移—昭和25～平成22年—
Trends in divorces by person having custody of children, and number of dependent children involved, 1950—2010

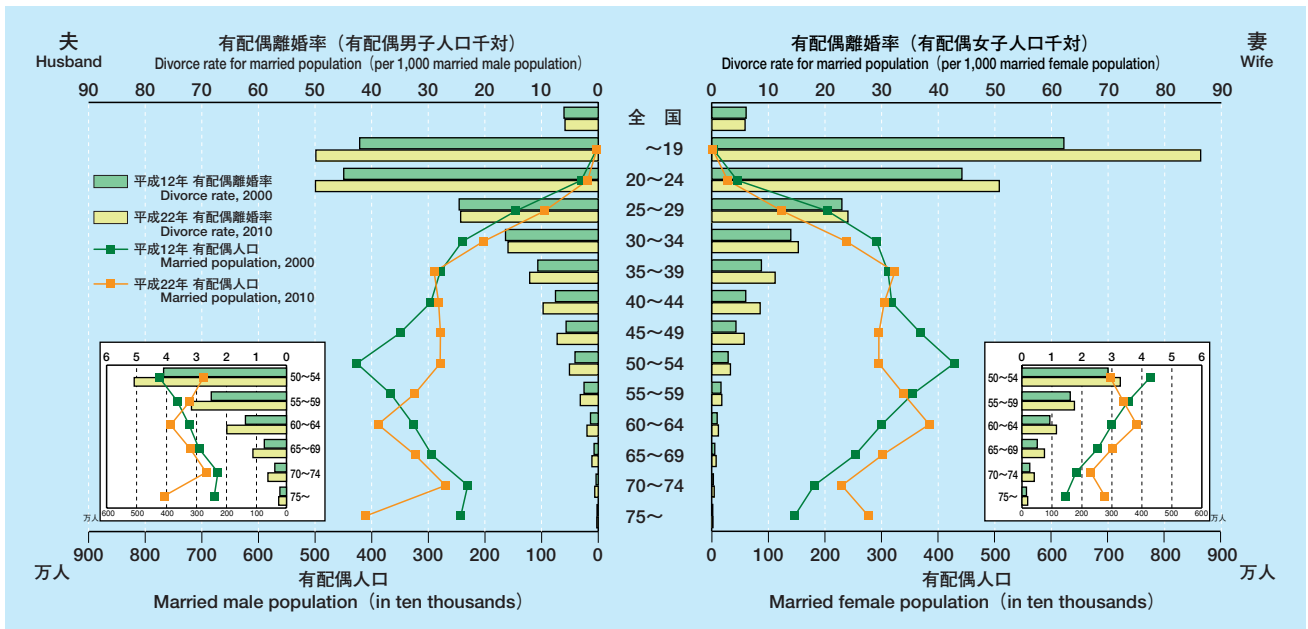


注：未成年の子とは、20歳未満の未婚の子をいう。

親権とは、未成年の子に対して有する身分上、財産上の監督、保護を内容とする権利、義務をいう。

夫・妻の年齢階級別にみた有配偶離婚率（有配偶人口千対）の年次比較—平成12・22年—

Comparison of divorce rates for married population (per 1,000 married population) by age of wife and husband, 2000・2010



注：各年に同居をやめ届け出たものについての集計である。同居をやめたときの年齢である。

資料：有配偶人口は、総務省統計局「国勢調査」による

平成22年の離婚件数25万1378組のうち、未成年の子がいる離婚は14万7120組（全体の58.5%）で、親が離婚した未成年の子の数は25万2617人、未成年の子がない離婚は10万4258組（同41.5%）となっている。

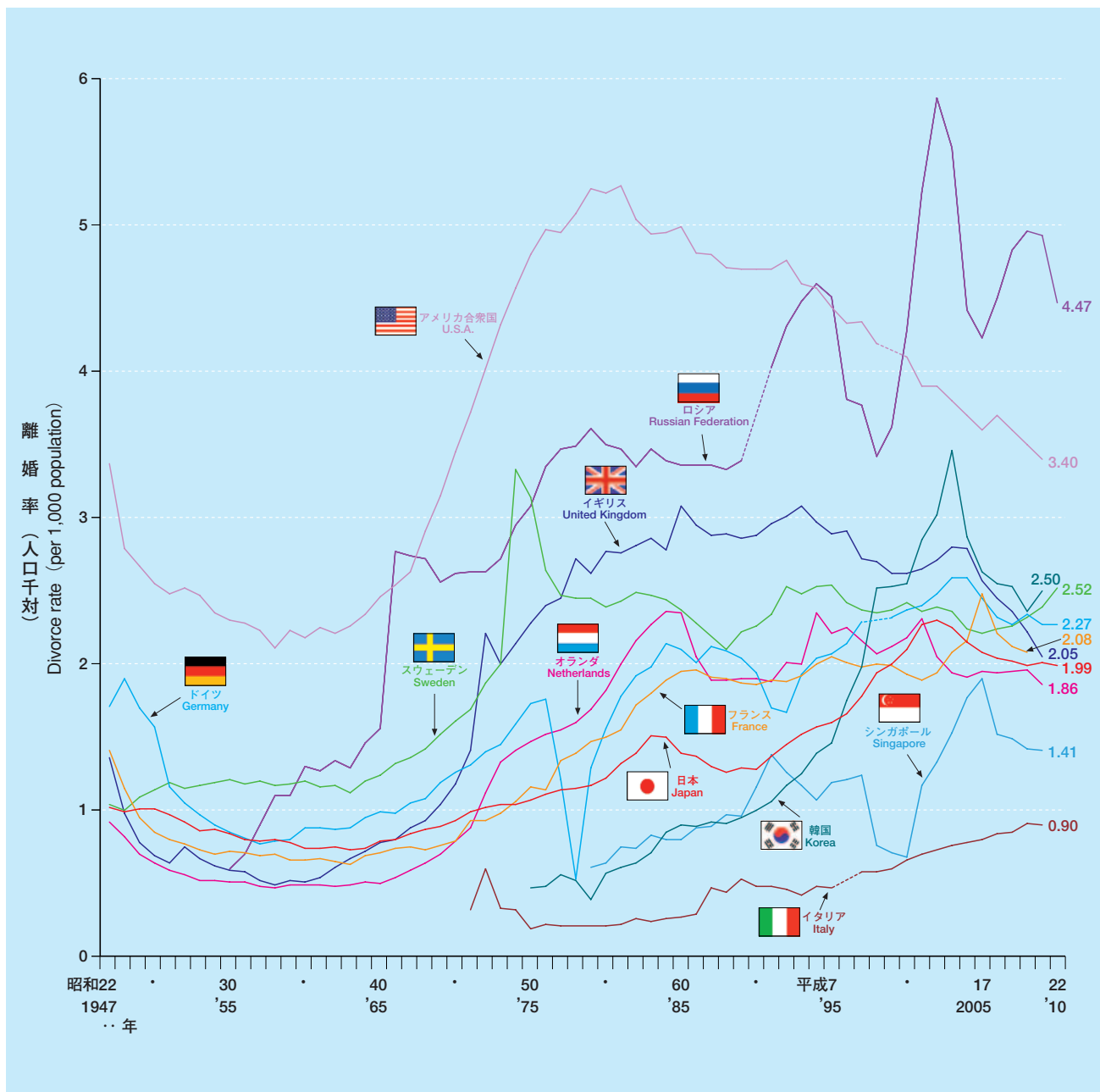
また、親権を行う者別に離婚件数の年次推移をみると、平成22年は「夫が全児の親権を行う」は1万9017組（未成年の子のいる離婚件数に占める割合は12.9%）、「夫妻が分け合って親権を行う」5484組（同3.7%）で昭和25年以降横ばいとなっている。「妻が全児の親権を行う」は12万2619組（同83.3%）で、その割合は昭和40年代以降上昇傾向にある。

各年に同居をやめ届け出たものについて、年齢階級別に有配偶離婚率（有配偶人口千対）をみると平成22年は若い年齢階級ほど離婚率が高くなっている。平成12年と比較すると、夫の25～34歳の各階級を除くすべての年齢階級で上昇している。また、60歳以上では有配偶人口と離婚率の両方が上昇していることから、離婚件数が増加していることがわかる。

我が国の離婚率は欧米諸国並み

離婚率の年次推移—諸外国との比較 1947～2010年

Divorce rates in selected countries, 1947—2010



注：点線は数値なし。
 イギリスの1970年まではイングランド・ウェールズの数値である。
 ドイツの1990年までは旧西ドイツの数値である。
 ロシアの1990年までは旧ソビエト連邦の数値である。
 以下は暫定値である。
 アメリカ合衆国2009年
 イギリス2009年

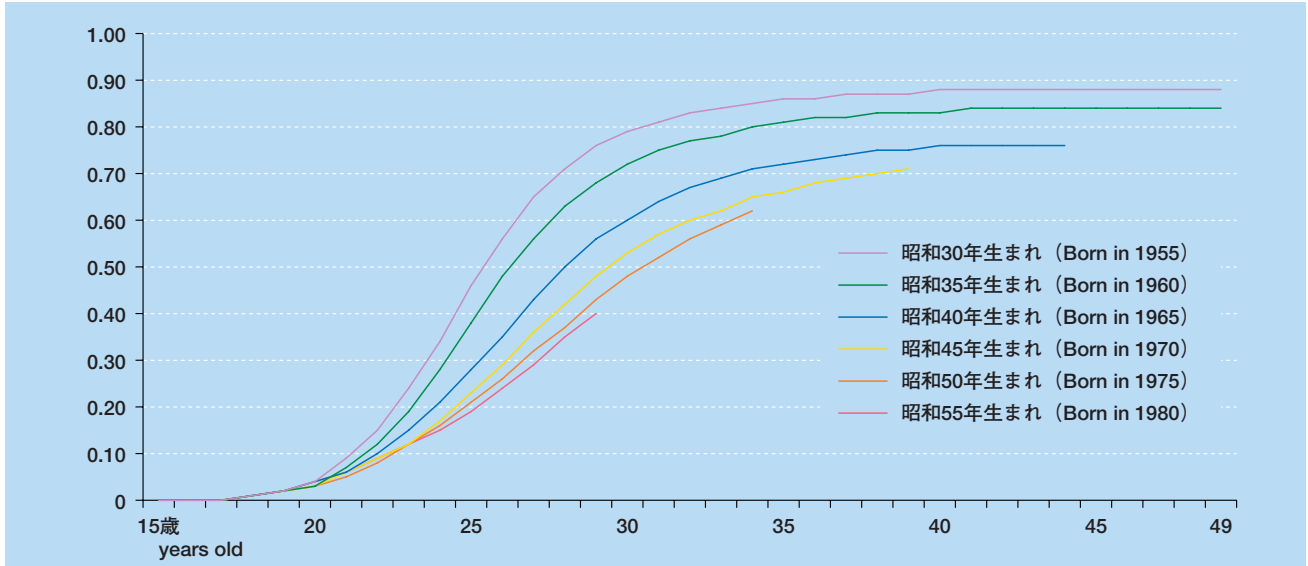
資料：UN「Demographic Yearbook」
 U.S. Department of Health and Human Services「National Vital Statistics Reports」

我が国と諸外国の離婚率（人口千対）を比較したものである。
 我が国は、1980年代までは低率であったが、1991年以降急上昇し、欧米諸国に近づいていたものの、2003年以降は緩やかな低下傾向となっている。

平成22年度「出生に関する統計(人口動態統計特殊報告)」から Live Births(Specified Report of Vital Statistics)2010

出生時年齢は上昇し、世代ごとにみた出生率は低下している

出生コホート別にみた第1子年齢別累積出生率 —昭和30・35・40・45・50・55年生まれ—
Cumulative live birth rates by age of mother at first childbirth and birth cohort,
born in 1955, 1960, 1965, 1970, 1975 and 1980

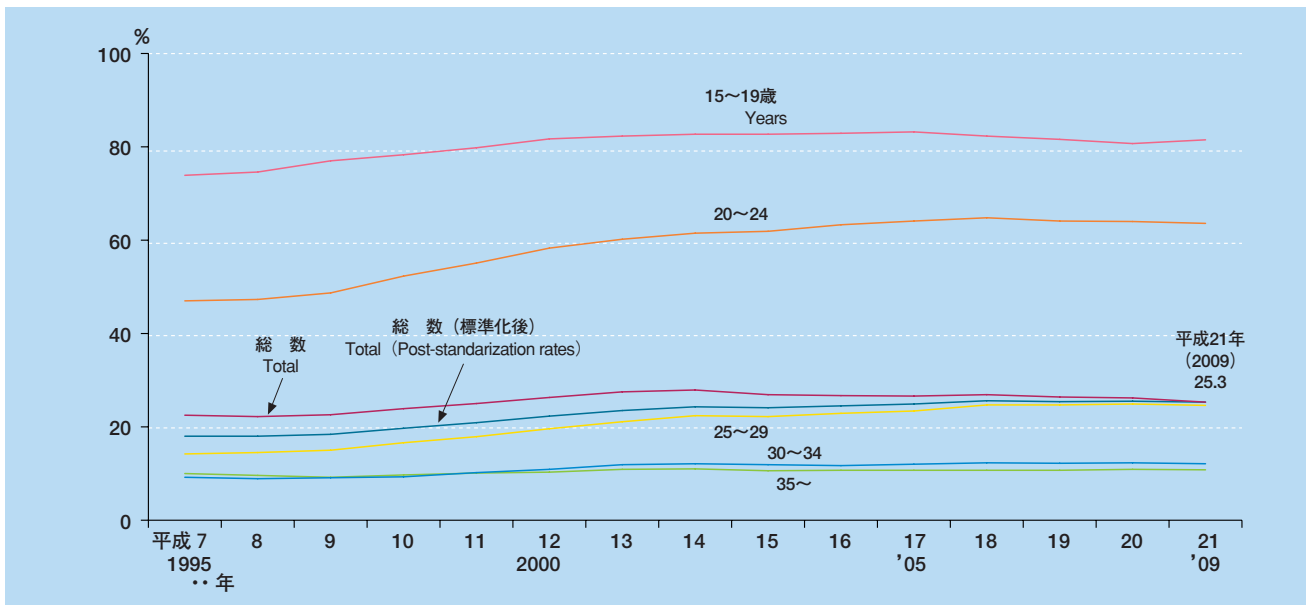


注：コホートとは、ある期間に婚姻・出生等何らかの事象が発生した人を集団としてとらえたものであり、出生によるものを「出生コホート」と呼ぶ。

結婚期間が妊娠期間より短い出生の嫡出第1子に占める標準化後の割合は、近年横ばいで推移している

母の年齢階級別にみた結婚期間が妊娠期間より短い出生の嫡出第1子出生に占める割合
—平成7～21年—

Percentage of live births when the duration from marriage is shorter than the period of gestation,
against legitimate first live births, by age group of mother, 1995—2009



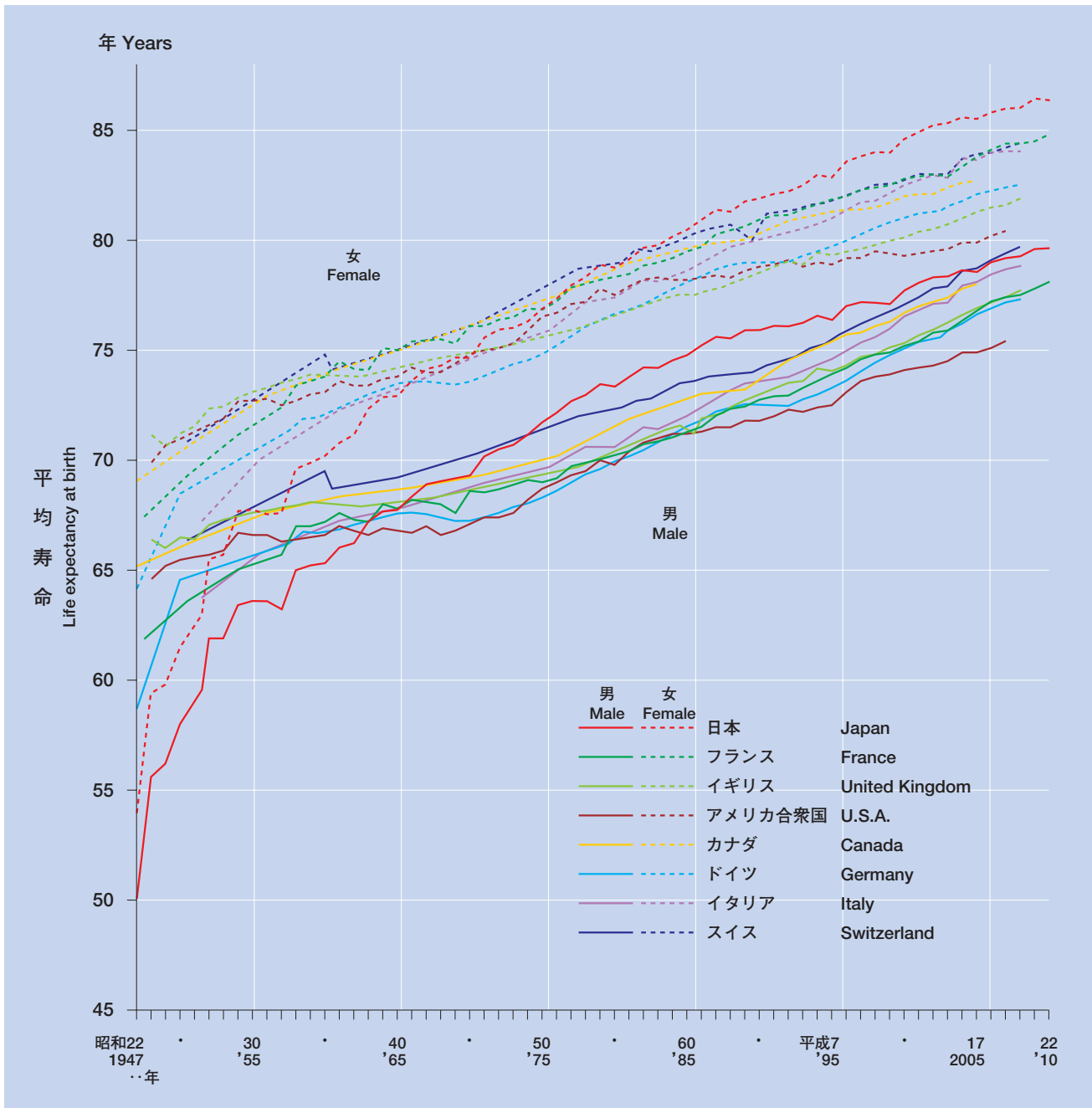
注：1) 割合は、結婚期間不詳を除いた嫡出第1子出生数に対する数値である。
2) 「総数(標準化後)」は、各年の結婚期間が妊娠期間より短い嫡出第1子を生んだ母の年齢階級の人数が、平成21年に嫡出第1子を生んだ母と同じだった場合の割合である。

寿命 Life expectancy at birth

日本人の平均寿命 平成22年は男79.64年・女86.39年

各国の平均寿命の年次推移 1947～2010年

Trends of life expectancies at birth in selected countries, 1947—2010



注：1990年以前のドイツは、旧西ドイツの数値である。
 資料：厚生労働省「完全生命表」、「簡易生命表」
 諸外国は、UN「Demographic Yearbook」等

平均余命とは、ある期間（例えば平成22年1年間）の死亡の状況が今後とも一定であると仮定したとき、各年齢の者が平均してあと何年生きられるかを表したものである。特に0歳の平均余命を「平均寿命」といい、全年齢の死亡状況を集約したものであることから、保健福祉水準の総合指標として広く活用されている。

平成22年簡易生命表によると、平均寿命は男79.64年・女86.39年であり、前年と比べて男は0.05年上回り、女は0.05年下回った。

国によって平均寿命の作成基礎となるデータの時点などが異なるため厳密な国際比較は難しいが、現在入手している資料を用いて比較すると、我が国の平均寿命は、男女ともに世界のトップクラスであるといえる。

統計表

Statistical tables

統計表の表章記号の規約 Symbols used in tables

—	計数のない場合 Magnitude zero
...	計数不明の場合 Data not available
・	統計項目のありえない場合 Category not applicable
0.0	比率が微小（0.05未満）の場合 Figure less than 0.05
△	減少数（率）の場合 Negative

第 1 表 人 口 動 態

年次 ¹⁾	人口 ²⁾	出生数	死亡数	(再 掲)		自然増減数	死 産 数 ⁴⁾			周産期死亡数			婚 件	姻 数	離 婚 件 数
				乳 児 死亡数 (1歳未満)	新生児 ³⁾ 死亡数 (生後4週未満)		総 数	自然死産	人工死産	総 数	妊 娠 満 22週以後 の死産数	早期新生 児死亡数 (生後1 週未満)			
1899	明治32	43 404 000	1 386 981	932 087	213 359	108 077	454 894	135 727	297 372	66 545	
1900	33	43 847 000	1 420 534	910 744	220 211	112 259	509 790	137 987	346 528	63 828	
01	34	44 359 000	1 501 591	925 810	225 107	115 794	575 781	155 489	378 457	63 442	
02	35	44 964 000	1 510 835	959 126	232 652	116 654	551 709	157 708	394 165	64 139	
03	36	45 546 000	1 489 816	931 008	226 982	112 909	558 808	153 920	370 961	65 392	
04	37	46 135 000	1 440 371	955 400	218 756	106 477	484 971	147 058	398 930	63 913	
05	38	46 620 000	1 452 770	1 004 661	220 450	103 382	448 109	142 092	350 898	60 061	
06	39	47 038 000	1 394 295	955 256	214 148	105 307	439 039	149 731	352 557	65 398	
07	40	47 416 000	1 614 472	1 016 798	244 300	118 617	597 674	158 814	432 949	61 058	
08	41	47 965 000	1 662 815	1 029 447	262 801	123 867	633 368	162 676	461 254	60 226	
09	42	48 554 000	1 693 850	1 091 264	283 436	129 629	602 586	161 576	437 882	58 936	
1910	43	49 184 000	1 712 857	1 064 234	276 136	126 910	648 623	157 392	441 222	59 432	
11	44	49 852 000	1 747 803	1 043 906	276 798	127 302	703 897	155 319	433 117	58 067	
12	大正元	50 577 000	1 737 674	1 037 016	268 025	123 902	700 658	147 545	430 422	59 143	
13	2	51 305 000	1 757 441	1 027 257	267 281	124 213	730 184	147 769	431 287	59 536	
14	3	52 039 000	1 808 402	1 101 815	286 678	125 745	706 587	145 692	452 932	59 992	
15	4	52 752 000	1 799 326	1 093 793	288 634	125 337	705 533	141 301	445 210	59 943	
16	5	53 496 000	1 804 822	1 187 832	307 283	132 000	616 990	139 998	433 680	60 254	
17	6	54 134 000	1 812 413	1 199 669	313 872	139 717	612 744	140 328	447 970	55 812	
18	7	54 739 000	1 791 992	1 493 162	337 919	145 710	298 830	142 507	500 580	56 474	
19	8	55 033 000	1 778 685	1 281 965	303 202	129 072	496 720	132 939	480 136	56 812	
1920	9	* 55 963 053	2 025 564	1 422 096	335 613	139 681	603 468	144 038	546 207	55 511	
21	10	56 665 900	1 990 876	1 288 570	335 143	136 342	702 306	138 301	519 217	53 402	
22	11	57 390 100	1 969 314	1 286 941	327 604	132 856	682 373	132 244	515 916	53 053	
23	12	58 119 200	2 043 297	1 332 485	333 930	135 504	710 812	133 863	512 689	51 212	
24	13	58 875 600	1 998 520	1 254 946	312 267	126 385	743 574	125 839	513 130	51 770	
25	14	* 59 736 822	2 086 091	1 210 706	297 008	121 238	875 385	124 403	521 438	51 687	
26	昭和外	60 740 900	2 104 405	1 160 734	289 275	119 642	943 671	124 038	502 847	50 119	
27	2	61 659 300	2 060 737	1 214 323	292 084	116 240	846 414	116 922	487 850	50 626	
28	3	62 595 300	2 135 852	1 236 711	293 881	115 682	899 141	120 191	499 555	49 119	
29	4	63 460 600	2 077 026	1 261 228	295 178	115 009	815 798	116 971	497 410	51 222	
1930	5	* 64 450 005	2 085 101	1 170 867	258 703	104 101	914 234	117 730	506 674	51 259	
31	6	65 457 500	2 102 784	1 240 891	276 584	108 812	861 893	116 509	496 574	50 609	
32	7	66 433 800	2 182 742	1 175 344	256 505	104 573	1 007 398	119 579	515 270	51 437	
33	8	67 431 600	2 121 253	1 193 987	257 251	102 887	927 266	114 138	486 058	49 282	
34	9	68 308 900	2 043 783	1 234 684	255 063	103 408	809 099	113 043	512 654	48 610	
35	10	* 69 254 148	2 190 704	1 161 936	233 706	97 994	1 028 768	115 593	556 730	48 528	
36	11	70 113 600	2 101 969	1 230 278	245 357	101 043	871 691	111 056	549 116	46 167	
37	12	70 630 400	2 180 734	1 207 899	230 701	95 465	972 835	111 485	674 500	46 500	
38	13	71 012 600	1 928 321	1 259 805	220 695	89 159	668 516	99 528	538 831	44 656	
39	14	71 379 700	1 901 573	1 268 760	202 018	84 204	632 813	98 349	554 321	45 970	
1940	15	71 933 000	2 115 867	1 186 595	190 509	81 869	929 272	102 034	666 575	48 556	
41	16	71 680 200	2 277 283	1 149 559	191 420	77 829	1 127 724	103 400	791 625	49 424	
42	17	72 384 500	2 233 660	1 166 630	190 897	76 177	1 067 030	95 448	679 044	46 268	
43	18	72 883 100	2 253 535	1 213 811	195 219	76 588	1 039 724	92 889	743 842	49 705	
47	22	* 78 101 473	2 678 792	1 138 238	205 360	84 204	1 540 554	123 837	934 170	79 551	
48	23	80 002 500	2 681 624	950 610	165 406	73 855	1 731 014	143 963	104 325	31 055	953 999	79 032	
49	24	81 772 600	2 696 638	945 444	168 467	72 432	1 751 194	192 677	114 161	75 585	842 170	82 575	
1950	25	* 83 199 637	2 337 507	904 876	140 515	64 142	1 432 631	216 974	106 594	110 380	35 184	715 081	83 689
51	26	84 573 000	2 137 689	838 998	122 869	58 686	1 298 691	217 231	101 237	115 994	32 644	671 905	82 331
52	27	85 852 000	2 005 162	765 068	99 114	51 015	1 240 094	203 824	94 508	109 316	28 741	676 995	79 021
53	28	87 033 000	1 868 040	772 547	91 424	47 580	1 095 493	193 274	89 751	103 523	26 737	682 077	75 255
54	29	88 293 000	1 769 580	721 491	78 944	42 726	1 048 089	187 119	87 201	99 918	24 274	697 809	76 759
55	30	* 89 275 529	1 730 692	693 523	68 801	38 646	1 037 169	183 265	85 159	98 106	22 621	714 861	75 267
56	31	90 259 000	1 665 278	724 460	67 691	38 232	940 818	179 007	86 558	92 449	22 505	715 934	72 040
57	32	91 088 000	1 566 713	752 445	62 678	33 847	814 268	176 353	86 895	89 458	19 608	773 362	71 651
58	33	92 010 000	1 653 469	684 189	57 052	32 237	969 280	185 148	92 282	92 866	19 240	826 902	74 004
59	34	92 971 000	1 626 088	689 959	54 768	30 235	936 129	181 893	92 688	89 205	18 418	847 135	72 455

注： 1) 昭和19～21年は資料不備のため省略した。昭和22～47年は沖縄県を含まない。
 2) *印は国勢調査人口。明治32～大正8年は内地人、大正9～昭和41年までは総人口、42年以降は日本人人口。
 大正10～昭和24年は百の位未満は四捨五入、昭和26年以降は千の位未満四捨五入。
 3) 昭和18年以前は1か月未満の死亡である。また、昭和18年は樺太を含む。
 4) 昭和23・24年の死産総数には自然死産・人工死産の不詳を含む。また、自然死産・人工死産の数、率は概数である。
 5) 出生数に死産数を加えたものである。
 6) 出生数に妊娠満22週以後の死産数を加えたものである。

総覧, 年次別

出生率 (人口 千対)	合計 特殊 出生率	死亡率 (人口 千対)	乳児 死亡率 (出生 千対)	新生児 死亡率 (出生 千対)	自然 増減率 (人口 千対)	死産率 ⁴⁾ (出産 ⁵⁾ 千対)			周産期 死亡率 (出産 ⁶⁾ 千対)	妊娠満 22週以後 の死産率 (出産 ⁶⁾ 千対)	早期 新生児 死亡率 (出生 千対)	婚姻率 (人口 千対)	離婚率 (人口 千対)	年齢調整 死亡率 (人口千対)		年次
						総数	自然死産	人工死産						男	女	
32.0	...	21.5	153.8	77.9	10.5	89.1	6.9	1.53	明治32
32.4	...	20.8	155.0	79.0	11.6	88.5	7.9	1.46	33
33.9	...	20.9	149.9	77.1	13.0	93.8	8.5	1.43	34
33.6	...	21.3	154.0	77.2	12.3	94.5	8.8	1.43	35
32.7	...	20.4	152.4	75.8	12.3	93.6	8.1	1.44	36
31.2	...	20.7	151.9	73.9	10.5	92.6	8.6	1.39	37
31.2	...	21.6	151.7	71.2	9.6	89.1	7.5	1.29	38
29.6	...	20.3	153.6	75.5	9.3	97.0	7.5	1.39	39
34.0	...	21.4	151.3	73.5	12.6	89.6	9.1	1.29	40
34.7	...	21.5	158.0	74.5	13.2	89.1	9.6	1.26	41
34.9	...	22.5	167.3	76.5	12.4	87.1	9.0	1.21	42
34.8	...	21.6	161.2	74.1	13.2	84.2	9.0	1.21	43
35.1	...	20.9	158.4	72.8	14.1	81.6	8.7	1.16	44
34.4	...	20.5	154.2	71.3	13.9	78.3	8.5	1.17	大正元
34.3	...	20.0	152.1	70.7	14.2	77.6	8.4	1.16	2
34.8	...	21.2	158.5	69.5	13.6	74.6	8.7	1.15	3
34.1	...	20.7	160.4	69.7	13.4	72.8	8.4	1.14	4
33.7	...	22.2	170.3	73.1	11.5	72.0	8.1	1.13	5
33.5	...	22.2	173.2	77.1	11.3	71.9	8.3	1.03	6
32.7	...	27.3	188.6	81.3	5.5	73.7	9.1	1.03	7
32.3	...	23.3	170.5	72.6	9.0	69.5	8.7	1.03	8
36.2	...	25.4	165.7	69.0	10.8	66.4	9.8	0.99	9
35.1	...	22.7	168.3	68.5	12.4	65.0	9.2	0.94	10
34.3	...	22.4	166.4	67.5	11.9	62.9	9.0	0.92	11
35.2	...	22.9	163.4	66.3	12.2	61.5	8.8	0.88	12
33.9	...	21.3	156.2	63.2	12.6	59.2	8.7	0.88	13
34.9	...	20.3	142.4	58.1	14.7	56.3	8.7	0.87	14
34.6	...	19.1	137.5	56.9	15.5	55.7	8.3	0.83	昭和元
33.4	...	19.7	141.7	56.4	13.7	53.7	7.9	0.82	2
34.1	...	19.8	137.6	54.2	14.4	53.3	8.0	0.78	3
32.7	...	19.9	142.1	55.4	12.9	53.3	7.8	0.81	4
32.4	...	18.2	124.1	49.9	14.2	53.4	7.9	0.80	5
32.1	...	19.0	131.5	51.7	13.2	52.5	7.6	0.77	6
32.9	...	17.7	117.5	47.9	15.2	51.9	7.8	0.77	7
31.5	...	17.7	121.3	48.5	13.8	51.1	7.2	0.73	8
29.9	...	18.1	124.8	50.6	11.8	52.4	7.5	0.71	9
31.6	...	16.8	106.7	44.7	14.9	50.1	8.0	0.70	10
30.0	...	17.5	116.7	48.1	12.4	50.2	7.8	0.66	11
30.9	...	17.1	105.8	43.8	13.8	48.6	9.5	0.66	12
27.2	...	17.7	114.4	46.2	9.4	49.1	7.6	0.63	13
26.6	...	17.8	106.2	44.3	8.9	49.2	7.8	0.64	14
29.4	...	16.5	90.0	38.7	12.9	46.0	9.3	0.68	15
31.8	...	16.0	84.1	34.2	15.7	43.4	11.0	0.69	16
30.9	...	16.1	85.5	34.1	14.7	41.0	9.4	0.64	17
30.9	...	16.7	86.6	33.8	14.3	39.6	10.2	0.68	18
34.3	4.54	14.6	76.7	31.4	19.7	44.2	12.0	1.02	23.6	18.3	22
33.5	4.40	11.9	61.7	27.5	21.6	50.9	36.9	10.9	11.9	0.99	19.3	15.4	23
33.0	4.32	11.6	62.5	26.9	21.4	66.7	39.1	25.9	10.3	1.01	18.9	15.0	24
28.1	3.65	10.9	60.1	27.4	17.2	84.9	41.7	43.2	15.1	8.6	1.01	18.6	14.6	25
25.3	3.26	9.9	57.5	27.5	15.4	92.2	43.0	49.3	15.3	7.9	0.97	16.9	13.4	26
23.4	2.98	8.9	49.4	25.4	14.4	92.3	42.8	49.5	14.3	7.9	0.92	15.7	12.4	27
21.5	2.69	8.9	48.9	25.5	12.6	93.8	43.5	50.2	14.3	7.8	0.86	16.4	12.6	28
20.0	2.48	8.2	44.6	24.1	11.9	95.6	44.6	51.1	13.7	7.9	0.87	15.2	11.3	29
19.4	2.37	7.8	39.8	22.3	11.6	95.8	44.5	51.3	13.1	8.0	0.84	14.8	11.0	30
18.4	2.22	8.0	40.6	23.0	10.4	97.1	46.9	50.1	13.5	7.9	0.80	15.6	11.5	31
17.2	2.04	8.3	40.0	21.6	8.9	101.2	49.9	51.3	12.5	8.5	0.79	16.3	11.8	32
18.0	2.11	7.4	34.5	19.5	10.5	100.7	50.2	50.5	11.6	9.0	0.80	14.4	10.4	33
17.5	2.04	7.4	33.7	18.6	10.1	100.6	51.3	49.3	11.3	9.1	0.78	14.4	10.2	34

第 1 表 人 口 動 態

年 次 ¹⁾	人 口 ²⁾	出 生 数	死 亡 数	(再 掲)		自然増減数	死 産 数 ⁴⁾			周産期死亡数			婚 件	姻 数	離 婚 数
				乳 児 死亡数 (1歳未満)	新生児 ³⁾ 死亡数 (生後4週未満)		総 数	自然死産	人工死産	総 数	妊 娠 満 22週以後 の死産数	早期新生 児死亡数 (生後1 週未満)			
1960	昭和35	* 93 418 501	1 606 041	706 599	49 293	27 362	899 442	179 281	93 424	85 857	17 040	866 115	69 410
61	36	94 285 000	1 589 372	695 644	45 465	26 255	893 728	179 895	96 032	83 863	16 879	890 158	69 323
62	37	95 178 000	1 618 616	710 265	42 797	24 777	908 351	177 363	97 256	80 107	16 242	928 341	71 394
63	38	96 156 000	1 659 521	670 770	38 442	22 965	988 751	175 424	97 711	77 713	15 285	937 516	69 996
64	39	97 186 000	1 716 761	673 067	34 967	21 344	1 043 694	168 046	97 357	70 689	14 676	963 130	72 306
65	40	* 98 274 961	1 823 697	700 438	33 742	21 260	1 123 259	161 617	94 476	67 141	14 949	954 852	77 195
66	41	99 056 000	1 360 974	670 342	26 217	16 296	690 632	148 248	83 253	64 995	11 765	940 120	79 432
67	42	99 637 000	1 935 647	675 006	28 928	19 248	1 260 641	149 389	90 938	58 451	14 108	953 096	83 478
68	43	100 794 000	1 871 839	686 555	28 600	18 326	1 185 284	143 259	87 381	55 878	13 693	956 312	87 327
69	44	102 022 000	1 889 815	693 787	26 874	17 116	1 196 028	139 211	85 788	53 423	12 810	984 142	91 280
1970	45	* 103 119 447	1 934 239	712 962	25 412	16 742	1 221 277	135 095	84 073	51 022	12 810	1 029 405	95 937
71	46	104 345 000	2 000 973	684 521	24 805	16 450	1 316 452	130 920	83 827	47 093	12 665	1 091 229	103 595
72	47	105 742 000	2 038 682	683 751	23 773	15 817	1 354 931	125 154	81 741	43 413	12 425	1 099 984	108 382
73	48	108 079 000	2 091 983	709 416	23 683	15 473	1 382 567	116 171	78 613	37 558	12 156	1 071 923	111 877
74	49	109 410 000	2 029 989	710 510	21 888	14 472	1 319 479	109 738	74 618	35 120	11 394	1 000 455	113 622
75	50	* 111 251 507	1 901 440	702 275	19 103	12 912	1 199 165	101 862	67 643	34 219	10 245	941 628	119 135
76	51	112 420 000	1 832 617	703 270	17 105	11 638	1 129 347	101 930	64 046	37 884	9 392	871 543	124 512
77	52	113 499 000	1 755 100	690 074	15 666	10 773	1 065 026	95 247	60 330	34 917	8 686	821 029	129 485
78	53	114 511 000	1 708 643	695 821	14 327	9 628	1 012 822	87 463	55 818	31 645	7 701	793 257	132 146
79	54	115 465 000	1 642 580	689 664	12 923	8 590	952 916	82 311	51 083	31 228	36 190	29 289	6 901	788 505	135 250
1980	55	* 116 320 358	1 576 889	722 801	11 841	7 796	854 088	77 446	47 651	29 795	32 422	26 268	6 154	774 702	141 689
81	56	117 204 000	1 529 455	720 262	10 891	7 188	809 193	79 222	46 296	32 926	30 274	24 672	5 602	776 531	154 221
82	57	118 008 000	1 515 392	711 883	9 969	6 425	803 509	78 107	44 135	33 972	28 204	23 137	5 067	781 252	163 980
83	58	118 786 000	1 508 687	740 038	9 406	5 894	768 649	71 941	40 108	31 833	25 925	21 354	4 571	762 552	179 150
84	59	119 523 000	1 489 780	740 247	8 920	5 527	749 533	72 361	37 976	34 385	25 149	20 875	4 274	739 991	178 746
85	60	* 120 265 700	1 431 577	752 283	7 899	4 910	679 294	69 009	33 114	35 895	22 379	18 642	3 737	735 850	166 640
86	61	120 946 000	1 382 946	750 620	7 251	4 296	632 326	65 678	31 050	34 628	20 389	17 143	3 246	710 962	166 054
87	62	121 535 000	1 346 658	751 172	6 711	3 933	595 486	63 834	29 956	33 878	18 699	15 634	3 065	696 173	158 227
88	63	122 026 000	1 314 006	793 014	6 265	3 592	520 992	59 636	26 804	32 832	16 839	14 090	2 749	707 716	153 600
89	平成元	122 460 000	1 246 802	788 594	5 724	3 214	458 208	55 204	24 558	30 646	15 183	12 797	2 386	708 316	157 811
1990	2	* 122 721 397	1 221 585	820 305	5 616	3 179	401 280	53 892	23 383	30 509	13 704	11 367	2 337	722 138	157 608
91	3	123 102 000	1 223 245	829 797	5 418	2 978	393 448	50 510	22 317	28 193	10 426	8 258	2 168	742 264	168 969
92	4	123 476 000	1 208 989	856 643	5 477	2 905	352 346	48 896	21 689	27 207	9 888	7 758	2 130	754 441	179 191
93	5	123 788 000	1 188 282	878 532	5 169	2 765	309 750	45 090	20 205	24 885	9 226	7 191	2 035	792 658	188 297
94	6	124 069 000	1 238 328	875 933	5 261	2 889	362 395	42 962	19 754	23 208	9 286	7 200	2 086	782 738	195 106
95	7	* 124 298 947	1 187 064	922 139	5 054	2 615	264 925	39 403	18 262	21 141	8 412	6 580	1 832	791 888	199 016
96	8	124 709 000	1 206 555	896 211	4 546	2 438	310 344	39 536	18 329	21 207	8 080	6 333	1 747	795 080	206 955
97	9	124 963 000	1 191 665	913 402	4 403	2 307	278 263	39 546	17 453	22 093	7 624	6 009	1 615	775 651	222 635
98	10	125 252 000	1 203 147	936 484	4 380	2 353	266 663	38 988	16 936	22 052	7 447	5 804	1 643	784 595	243 183
99	11	125 432 000	1 177 669	982 031	4 010	2 137	195 638	38 452	16 711	21 741	7 102	5 567	1 535	762 028	250 529
2000	12	* 125 612 633	1 190 547	961 653	3 830	2 106	228 894	38 393	16 200	22 193	6 881	5 362	1 519	798 138	264 246
01	13	125 908 000	1 170 662	970 331	3 599	1 909	200 331	37 467	15 704	21 763	6 476	5 114	1 362	799 999	285 911
02	14	126 008 000	1 153 855	982 379	3 497	1 937	171 476	36 978	15 161	21 817	6 333	4 959	1 374	757 331	289 836
03	15	126 139 000	1 123 610	1 014 951	3 364	1 879	108 659	35 330	14 644	20 686	5 929	4 626	1 303	740 191	283 854
04	16	126 176 000	1 110 721	1 028 602	3 122	1 622	82 119	34 365	14 288	20 077	5 541	4 357	1 184	720 417	270 804
05	17	* 126 204 902	1 062 530	1 083 796	2 958	1 510	△ 21 266	31 818	13 502	18 316	5 149	4 058	1 091	714 265	261 917
06	18	126 154 000	1 092 674	1 084 450	2 864	1 444	8 224	30 911	13 424	17 487	5 100	4 047	1 053	730 971	257 475
07	19	126 085 000	1 089 818	1 108 334	2 828	1 434	△ 18 516	29 313	13 107	16 206	4 906	3 854	1 052	719 822	254 832
08	20	125 947 000	1 091 156	1 142 407	2 798	1 331	△ 51 251	28 177	12 625	15 552	4 720	3 751	969	726 106	251 136
09	21	125 820 000	1 070 035	1 141 865	2 556	1 254	△ 71 830	27 005	12 214	14 791	4 519	3 645	874	707 734	253 353
2010	22	* 126 381 728	1 071 304	1 197 012	2 450	1 167	△125 708	26 560	12 245	14 315	4 515	3 637	878	700 214	251 378

総覧，年次別（つづき）

出生率 (人口 千対)	合計 特殊 出生率	死亡率 (人口 千対)	乳児 死亡率 (出生 千対)	新生児 死亡率 (出生 千対)	自然 増減率 (人口 千対)	死産率 ⁴⁾ (出産 ⁵⁾ 千対)			周産期 死亡率 (出産 ⁶⁾ 千対)	妊娠満 22週以後 の死産率 ⁶⁾ (出産 ⁶⁾ 千対)	早期 新生児 死亡率 (出生 千対)	婚姻率 (人口 千対)	離婚率 (人口 千対)	年齢調整 死亡率 (人口千対)		年次
						総数	自然死産	人工死産						男	女	
17.2	2.00	7.6	30.7	17.0	9.6	100.4	52.3	48.1	10.6	9.3	0.74	14.8	10.4	昭和35
16.9	1.96	7.4	28.6	16.5	9.5	101.7	54.3	47.4	10.6	9.4	0.74	14.3	10.0	36
17.0	1.98	7.5	26.4	15.3	9.5	98.8	54.2	44.6	10.0	9.8	0.75	14.6	10.0	37
17.3	2.00	7.0	23.2	13.8	10.3	95.6	53.3	42.4	9.2	9.7	0.73	13.4	9.3	38
17.7	2.05	6.9	20.4	12.4	10.7	89.2	51.7	37.5	8.5	9.9	0.74	13.2	9.1	39
18.6	2.14	7.1	18.5	11.7	11.4	81.4	47.6	33.8	8.2	9.7	0.79	13.7	9.3	40
13.7	1.58	6.8	19.3	12.0	7.0	98.2	55.2	43.1	8.6	9.5	0.80	12.7	8.7	41
19.4	2.23	6.8	14.9	9.9	12.7	71.6	43.6	28.0	7.3	9.6	0.84	12.6	8.5	42
18.6	2.13	6.8	15.3	9.8	11.8	71.1	43.4	27.7	7.3	9.5	0.87	12.5	8.4	43
18.5	2.13	6.8	14.2	9.1	11.7	68.6	42.3	26.3	6.8	9.6	0.89	12.4	8.2	44
18.8	2.13	6.9	13.1	8.7	11.8	65.3	40.6	24.7	6.6	10.0	0.93	12.3	8.2	45
19.2	2.16	6.6	12.4	8.2	12.6	61.4	39.3	22.1	6.3	10.5	0.99	11.5	7.6	46
19.3	2.14	6.5	11.7	7.8	12.8	57.8	37.8	20.1	6.1	10.4	1.02	11.2	7.4	47
19.4	2.14	6.6	11.3	7.4	12.8	52.6	35.6	17.0	5.8	9.9	1.04	11.2	7.4	48
18.6	2.05	6.5	10.8	7.1	12.1	51.3	34.9	16.4	5.6	9.1	1.04	10.9	7.2	49
17.1	1.91	6.3	10.0	6.8	10.8	50.8	33.8	17.1	5.4	8.5	1.07	10.4	6.9	50
16.3	1.85	6.3	9.3	6.4	10.0	52.7	33.1	19.6	5.1	7.8	1.11	10.1	6.6	51
15.5	1.80	6.1	8.9	6.1	9.4	51.5	32.6	18.9	4.9	7.2	1.14	9.6	6.2	52
14.9	1.79	6.1	8.4	5.6	8.8	48.7	31.1	17.6	4.5	6.9	1.15	9.4	6.0	53
14.2	1.77	6.0	7.9	5.2	8.3	47.7	29.6	18.1	21.6	17.5	4.2	6.8	1.17	9.0	5.7	54
13.6	1.75	6.2	7.5	4.9	7.3	46.8	28.8	18.0	20.2	16.4	3.9	6.7	1.22	9.2	5.8	55
13.0	1.74	6.1	7.1	4.7	6.9	49.2	28.8	20.5	19.5	15.9	3.7	6.6	1.32	8.9	5.6	56
12.8	1.77	6.0	6.6	4.2	6.8	49.0	27.7	21.3	18.3	15.0	3.3	6.6	1.39	8.5	5.2	57
12.7	1.80	6.2	6.2	3.9	6.5	45.5	25.4	20.1	16.9	14.0	3.0	6.4	1.51	8.6	5.2	58
12.5	1.81	6.2	6.0	3.7	6.3	46.3	24.3	22.0	16.6	13.8	2.9	6.2	1.50	8.3	5.0	59
11.9	1.76	6.3	5.5	3.4	5.6	46.0	22.1	23.9	15.4	12.9	2.6	6.1	1.39	8.1	4.8	60
11.4	1.72	6.2	5.2	3.1	5.2	45.3	21.4	23.9	14.6	12.2	2.3	5.9	1.37	7.8	4.6	61
11.1	1.69	6.2	5.0	2.9	4.9	45.3	21.2	24.0	13.7	11.5	2.3	5.7	1.30	7.6	4.4	62
10.8	1.66	6.5	4.8	2.7	4.3	43.4	19.5	23.9	12.7	10.6	2.1	5.8	1.26	7.7	4.5	63
10.2	1.57	6.4	4.6	2.6	3.7	42.4	18.9	23.5	12.1	10.2	1.9	5.8	1.29	7.4	4.2	平成元
10.0	1.54	6.7	4.6	2.6	3.3	42.3	18.3	23.9	11.1	9.2	1.9	5.9	1.28	7.5	4.2	2
9.9	1.53	6.7	4.4	2.4	3.2	39.7	17.5	22.1	8.5	6.7	1.8	6.0	1.37	7.4	4.1	3
9.8	1.50	6.9	4.5	2.4	2.9	38.9	17.2	21.6	8.1	6.4	1.8	6.1	1.45	7.4	4.0	4
9.6	1.46	7.1	4.3	2.3	2.5	36.6	16.4	20.2	7.7	6.0	1.7	6.4	1.52	7.3	4.0	5
10.0	1.50	7.1	4.2	2.3	2.9	33.5	15.4	18.1	7.5	5.8	1.7	6.3	1.57	7.1	3.8	6
9.6	1.42	7.4	4.3	2.2	2.1	32.1	14.9	17.2	7.0	5.5	1.5	6.4	1.60	7.2	3.8	7
9.7	1.43	7.2	3.8	2.0	2.5	31.7	14.7	17.0	6.7	5.2	1.4	6.4	1.66	6.8	3.6	8
9.5	1.39	7.3	3.7	1.9	2.2	32.1	14.2	17.9	6.4	5.0	1.4	6.2	1.78	6.7	3.5	9
9.6	1.38	7.5	3.6	2.0	2.1	31.4	13.6	17.8	6.2	4.8	1.4	6.3	1.94	6.6	3.4	10
9.4	1.34	7.8	3.4	1.8	1.6	31.6	13.7	17.9	6.0	4.7	1.3	6.1	2.00	6.7	3.4	11
9.5	1.36	7.7	3.2	1.8	1.8	31.2	13.2	18.1	5.8	4.5	1.3	6.4	2.10	6.3	3.2	12
9.3	1.33	7.7	3.1	1.6	1.6	31.0	13.0	18.0	5.5	4.3	1.2	6.4	2.27	6.2	3.1	13
9.2	1.32	7.8	3.0	1.7	1.4	31.1	12.7	18.3	5.5	4.3	1.2	6.0	2.30	6.0	3.0	14
8.9	1.29	8.0	3.0	1.7	0.9	30.5	12.6	17.8	5.3	4.1	1.2	5.9	2.25	6.0	3.0	15
8.8	1.29	8.2	2.8	1.5	0.7	30.0	12.5	17.5	5.0	3.9	1.1	5.7	2.15	5.9	3.0	16
8.4	1.26	8.6	2.8	1.4	△ 0.2	29.1	12.3	16.7	4.8	3.8	1.0	5.7	2.08	5.9	3.0	17
8.7	1.32	8.6	2.6	1.3	0.1	27.5	11.9	15.6	4.7	3.7	1.0	5.8	2.04	5.7	2.9	18
8.6	1.34	8.8	2.6	1.3	△ 0.1	26.2	11.7	14.5	4.5	3.5	1.0	5.7	2.02	5.6	2.8	19
8.7	1.37	9.1	2.6	1.2	△ 0.4	25.2	11.3	13.9	4.3	3.4	0.9	5.8	1.99	5.6	2.8	20
8.5	1.37	9.1	2.4	1.2	△ 0.6	24.6	11.1	13.5	4.2	3.4	0.8	5.6	2.01	5.4	2.7	21
8.5	1.39	9.5	2.3	1.1	△ 1.0	24.2	11.2	13.0	4.2	3.4	0.8	5.5	1.99	5.4	2.7	22

第 2 表 人 口 動 態 総 覧,

都道府県 ¹⁾	人 口	出生数	死亡数	(再 掲)		自然増減数	死 産 数			周産期死亡数			婚 姻 数	離 婚 数
				乳 児 死亡数 (1歳未満)	新生児 死亡数 (生後4週未満)		総 数	自然死産	人工死産	総 数	妊 娠 満 22週以後の死産数	早期新生児 死亡数 (生後1週未満)		
全 国	126 381 728	1 071 304	1 197 012	2 450	1 167	△125 708	26 560	12 245	14 315	4 515	3 637	878	700 214	251 378
01北海道	5 488 092	40 158	55 404	84	41	△ 15 246	1 260	512	748	171	138	33	28 389	12 596
02青 森	1 369 629	9 711	16 030	21	12	△ 6 319	283	142	141	39	30	9	5 924	2 679
03岩 手	1 324 924	9 745	15 756	26	16	△ 6 011	291	133	158	59	53	6	5 724	2 327
04宮 城	2 335 682	19 126	21 932	47	18	△ 2 806	495	210	285	72	61	11	11 972	4 667
05秋 田	1 082 603	6 688	14 288	15	6	△ 7 600	181	102	79	44	39	5	4 281	1 795
06山 形	1 162 744	8 651	14 084	25	12	△ 5 433	231	116	115	35	27	8	5 159	1 887
07福 島	2 019 618	16 126	22 747	49	19	△ 6 621	487	217	270	75	62	13	9 582	3 965
08茨 城	2 929 085	23 989	28 615	60	37	△ 4 626	600	261	339	112	84	28	15 044	5 693
09栃 木	1 980 746	16 473	19 712	34	15	△ 3 239	398	169	229	63	54	9	10 616	3 898
10群 馬	1 972 287	16 023	20 385	35	18	△ 4 362	399	193	206	71	56	15	9 679	3 865
11埼 玉	7 104 590	59 437	55 487	133	62	3 950	1 375	690	685	252	205	47	39 160	14 325
12千 葉	6 135 236	51 633	50 014	117	58	1 619	1 238	630	608	213	169	44	34 785	12 391
13東 京	12 833 956	108 135	104 238	212	95	3 897	2 587	1 143	1 444	424	352	72	91 196	26 335
14神奈川	8 921 252	78 077	67 760	203	104	10 317	1 666	871	795	379	298	81	54 203	17 830
15新 潟	2 362 420	18 083	26 618	31	13	△ 8 535	474	232	242	85	75	10	11 018	3 438
16富 山	1 082 108	8 188	11 875	25	11	△ 3 687	188	106	82	33	26	7	4 928	1 569
17石 川	1 159 897	9 602	11 607	30	17	△ 2 005	213	122	91	54	41	13	5 829	1 817
18福 井	795 496	6 874	8 417	15	8	△ 1 543	159	72	87	20	14	6	3 705	1 233
19山 梨	850 546	6 651	9 268	7	2	△ 2 617	161	68	93	28	28	-	4 221	1 693
20長 野	2 122 509	17 233	23 133	25	14	△ 5 900	395	181	214	62	48	14	10 318	3 636
21岐 阜	2 043 467	16 887	20 220	41	21	△ 3 333	382	171	211	65	48	17	10 087	3 395
22静 岡	3 702 776	31 896	36 420	68	34	△ 4 524	716	379	337	134	107	27	20 323	7 241
23愛 知	7 247 125	69 872	58 477	153	79	11 395	1 402	665	737	281	224	57	45 039	14 253
24三 重	1 821 502	15 262	18 691	37	14	△ 3 429	335	182	153	67	57	10	9 396	3 461
25滋 賀	1 388 741	13 363	11 602	39	22	1 761	286	162	124	77	60	17	7 691	2 466
26京 都	2 593 340	21 234	23 714	52	28	△ 2 480	482	208	274	97	72	25	13 664	4 964
27大 阪	8 697 550	75 080	76 556	161	77	△ 1 476	1 907	824	1 083	303	245	58	51 242	20 752
28兵 庫	5 507 961	47 834	51 568	105	39	△ 3 734	1 070	512	558	175	147	28	29 752	10 738
29奈 良	1 391 395	10 694	13 036	24	8	△ 2 342	275	138	137	42	35	7	6 595	2 602
30和歌山	997 305	7 587	12 049	16	10	△ 4 462	176	78	98	34	26	8	4 771	2 077
31鳥 取	585 005	4 790	6 947	24	12	△ 2 157	138	67	71	29	19	10	2 834	1 141
32鳥 根	712 516	5 756	9 109	13	7	△ 3 353	143	67	76	23	17	6	3 283	1 110
33岡 山	1 926 378	16 759	20 248	29	14	△ 3 489	418	163	255	59	48	11	9 894	3 626
34広 島	2 827 820	25 546	27 561	64	28	△ 2 015	555	254	301	100	78	22	15 402	5 472
35山 口	1 439 011	11 551	17 646	31	17	△ 6 095	265	127	138	46	32	14	6 966	2 531
36徳 島	781 300	5 904	9 307	16	7	△ 3 403	152	73	79	26	22	4	3 573	1 445
37香 川	988 786	8 397	11 064	22	10	△ 2 667	206	125	81	37	29	8	4 975	1 928
38愛 媛	1 423 425	11 427	16 344	19	9	△ 4 917	341	112	229	39	33	6	6 922	2 811
39高 知	761 239	5 518	9 769	15	6	△ 4 251	166	65	101	19	14	5	3 328	1 463
40福 岡	5 030 961	46 818	46 996	105	55	△ 178	1 366	582	784	200	160	40	29 247	10 952
41佐 賀	846 146	7 640	9 212	18	8	△ 1 572	233	103	130	35	28	7	4 210	1 536
42長 崎	1 420 166	12 004	16 303	38	17	△ 4 299	362	173	189	53	41	12	6 647	2 515
43熊 本	1 809 626	16 246	19 217	42	19	△ 2 971	430	172	258	56	41	15	9 098	3 623
44大 分	1 187 599	10 072	12 988	27	13	△ 2 916	312	128	184	52	42	10	6 076	2 314
45宮 崎	1 131 381	10 217	12 334	14	4	△ 2 117	317	103	214	31	29	2	5 892	2 415
46鹿児島	1 700 683	15 124	20 294	34	15	△ 5 170	467	181	286	67	54	13	8 682	3 328
47沖 縄	1 385 104	17 098	10 156	46	13	6 942	560	255	305	70	65	5	8 892	3 580
外 国	・	125	176	1	1	△ 51	12	3	9	2	1	1	・	・
不 詳	・	・	1 638	2	2	・	5	3	2	5	3	2	・	・

注：1) 都道府県の表章は、出生は子の住所、死亡は死亡者の住所、死産は母の住所、婚姻は夫の住所、離婚は別居する前の住所による。

2) 出生数に死産数を加えたものである。

3) 出生数に妊娠満22週以後の死産数を加えたものである。

資料：人口推計「平成22年国勢調査による基準人口」(総務省統計局)

都道府県別

平成22年

出生率 (人口 千対)	合計特殊 出生率	死亡率 (人口 千対)	乳児 死亡率 (出生 千対)	新生児 死亡率 (出生 千対)	自然 増減率 (人口 千対)	死産率 (出産 ²) 千対)			周産期 死亡率 (出産 ³) 千対)	妊娠満 22週以後 の死産率 (出産 ³) 千対)	早期 新生児 死亡率 (出生 千対)	婚姻率 (人口 千対)	離婚率 (人口 千対)	都道府県
						総数	自然死産	人工死産						
8.5	1.39	9.5	2.3	1.1	△ 1.0	24.2	11.2	13.0	4.2	3.4	0.8	5.5	1.99	全 国
7.3	1.26	10.1	2.1	1.0	△ 2.8	30.4	12.4	18.1	4.2	3.4	0.8	5.2	2.30	北海道
7.1	1.38	11.7	2.2	1.2	△ 4.6	28.3	14.2	14.1	4.0	3.1	0.9	4.3	1.96	青森
7.4	1.46	11.9	2.7	1.6	△ 4.5	29.0	13.3	15.7	6.0	5.4	0.6	4.3	1.76	岩手
8.2	1.30	9.4	2.5	0.9	△ 1.2	25.2	10.7	14.5	3.8	3.2	0.6	5.1	2.00	宮城
6.2	1.31	13.2	2.2	0.9	△ 7.0	26.4	14.8	11.5	6.5	5.8	0.7	4.0	1.66	秋 田
7.4	1.48	12.1	2.9	1.4	△ 4.7	26.0	13.1	12.9	4.0	3.1	0.9	4.4	1.62	山 形
8.0	1.52	11.3	3.0	1.2	△ 3.3	29.3	13.1	16.3	4.6	3.8	0.8	4.7	1.96	福 島
8.2	1.44	9.8	2.5	1.5	△ 1.6	24.4	10.6	13.8	4.7	3.5	1.2	5.1	1.94	茨 城
8.3	1.44	10.0	2.1	0.9	△ 1.6	23.6	10.0	13.6	3.8	3.3	0.5	5.4	1.97	栃 木
8.1	1.46	10.3	2.2	1.1	△ 2.2	24.3	11.8	12.5	4.4	3.5	0.9	4.9	1.96	群 馬
8.4	1.32	7.8	2.2	1.0	0.6	22.6	11.3	11.3	4.2	3.4	0.8	5.5	2.02	埼 玉
8.4	1.34	8.2	2.3	1.1	0.3	23.4	11.9	11.5	4.1	3.3	0.9	5.7	2.02	千 葉
8.4	1.12	8.1	2.0	0.9	0.3	23.4	10.3	13.0	3.9	3.2	0.7	7.1	2.05	東 京
8.8	1.31	7.6	2.6	1.3	1.2	20.9	10.9	10.0	4.8	3.8	1.0	6.1	2.00	神奈川
7.7	1.43	11.3	1.7	0.7	△ 3.6	25.5	12.5	13.0	4.7	4.1	0.6	4.7	1.46	新 潟
7.6	1.42	11.0	3.1	1.3	△ 3.4	22.4	12.7	9.8	4.0	3.2	0.9	4.6	1.45	富 山
8.3	1.44	10.0	3.1	1.8	△ 1.7	21.7	12.4	9.3	5.6	4.3	1.4	5.0	1.57	石 川
8.6	1.61	10.6	2.2	1.2	△ 1.9	22.6	10.2	12.4	2.9	2.0	0.9	4.7	1.55	福 井
7.8	1.46	10.9	1.1	0.3	△ 3.1	23.6	10.0	13.7	4.2	4.2	-	5.0	1.99	山 梨
8.1	1.53	10.9	1.5	0.8	△ 2.8	22.4	10.3	12.1	3.6	2.8	0.8	4.9	1.71	長 野
8.3	1.48	9.9	2.4	1.2	△ 1.6	22.1	9.9	12.2	3.8	2.8	1.0	4.9	1.66	岐 阜
8.6	1.54	9.8	2.1	1.1	△ 1.2	22.0	11.6	10.3	4.2	3.3	0.8	5.5	1.96	静 岡
9.6	1.52	8.1	2.2	1.1	1.6	19.7	9.3	10.3	4.0	3.2	0.8	6.2	1.97	愛 知
8.4	1.51	10.3	2.4	0.9	△ 1.9	21.5	11.7	9.8	4.4	3.7	0.7	5.2	1.90	三 重
9.6	1.54	8.4	2.9	1.6	1.3	21.0	11.9	9.1	5.7	4.5	1.3	5.5	1.78	滋 賀
8.2	1.28	9.1	2.4	1.3	△ 1.0	22.2	9.6	12.6	4.6	3.4	1.2	5.3	1.91	京 都
8.6	1.33	8.8	2.1	1.0	△ 0.2	24.8	10.7	14.1	4.0	3.3	0.8	5.9	2.39	大 阪
8.7	1.41	9.4	2.2	0.8	△ 0.7	21.9	10.5	11.4	3.6	3.1	0.6	5.4	1.95	兵 庫
7.7	1.29	9.4	2.2	0.7	△ 1.7	25.1	12.6	12.5	3.9	3.3	0.7	4.7	1.87	奈 良
7.6	1.47	12.1	2.1	1.3	△ 4.5	22.7	10.0	12.6	4.5	3.4	1.1	4.8	2.08	和歌山
8.2	1.54	11.9	5.0	2.5	△ 3.7	28.0	13.6	14.4	6.0	4.0	2.1	4.8	1.95	鳥 取
8.1	1.68	12.8	2.3	1.2	△ 4.7	24.2	11.4	12.9	4.0	2.9	1.0	4.6	1.56	島 根
8.7	1.50	10.5	1.7	0.8	△ 1.8	24.3	9.5	14.8	3.5	2.9	0.7	5.1	1.88	岡 山
9.0	1.55	9.7	2.5	1.1	△ 0.7	21.3	9.7	11.5	3.9	3.0	0.9	5.4	1.94	広 島
8.0	1.56	12.3	2.7	1.5	△ 4.2	22.4	10.7	11.7	4.0	2.8	1.2	4.8	1.76	山 口
7.6	1.42	11.9	2.7	1.2	△ 4.4	25.1	12.1	13.0	4.4	3.7	0.7	4.6	1.85	徳 島
8.5	1.57	11.2	2.6	1.2	△ 2.7	23.9	14.5	9.4	4.4	3.4	1.0	5.0	1.95	香 川
8.0	1.50	11.5	1.7	0.8	△ 3.5	29.0	9.5	19.5	3.4	2.9	0.5	4.9	1.97	愛 媛
7.2	1.42	12.8	2.7	1.1	△ 5.6	29.2	11.4	17.8	3.4	2.5	0.9	4.4	1.92	高 知
9.3	1.44	9.3	2.2	1.2	△ 0.0	28.3	12.1	16.3	4.3	3.4	0.9	5.8	2.18	福 岡
9.0	1.61	10.9	2.4	1.0	△ 1.9	29.6	13.1	16.5	4.6	3.7	0.9	5.0	1.82	佐 賀
8.5	1.61	11.5	3.2	1.4	△ 3.0	29.3	14.0	15.3	4.4	3.4	1.0	4.7	1.77	長 崎
9.0	1.62	10.6	2.6	1.2	△ 1.6	25.8	10.3	15.5	3.4	2.5	0.9	5.0	2.00	熊 本
8.5	1.56	10.9	2.7	1.3	△ 2.5	30.0	12.3	17.7	5.1	4.2	1.0	5.1	1.95	大 分
9.0	1.68	10.9	1.4	0.4	△ 1.9	30.1	9.8	20.3	3.0	2.8	0.2	5.2	2.13	宮 崎
8.9	1.62	11.9	2.2	1.0	△ 3.0	30.0	11.6	18.3	4.4	3.6	0.9	5.1	1.96	鹿 児 島
12.3	1.87	7.3	2.7	0.8	5.0	31.7	14.4	17.3	4.1	3.8	0.3	6.4	2.58	沖 縄

第 3 表 主な死因¹⁾の死亡数・死亡率

都道府県	全 死 因		01200 結 核		02100 悪性新生物		04100 糖 尿 病		09100 高血圧性疾患		09200 心 疾 患 (高血圧性を除く)	
	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率
全 国 ²⁾	1 197 012	947.1	2 129	1.7	353 499	279.7	14 422	11.4	6 760	5.3	189 360	149.8
北 海 道	55 404	1 009.5	72	1.3	17 828	324.8	755	13.8	235	4.3	8 925	162.6
青 森	16 030	1 170.4	14	1.0	4 784	349.3	227	16.6	79	5.8	2 634	192.3
岩 手	15 756	1 189.2	20	1.5	4 322	326.2	229	17.3	88	6.6	2 683	202.5
宮 城	21 932	939.0	31	1.3	6 371	272.8	283	12.1	117	5.0	3 303	141.4
秋 田	14 288	1 319.8	16	1.5	4 085	377.3	142	13.1	47	4.3	2 285	211.1
山 形	14 084	1 211.3	15	1.3	3 906	335.9	135	11.6	67	5.8	2 215	190.5
福 島	22 747	1 126.3	23	1.1	6 173	305.7	300	14.9	129	6.4	3 994	197.8
茨 城	28 615	976.9	46	1.6	8 061	275.2	423	14.4	142	4.8	4 397	150.1
栃 木	19 712	995.2	16	0.8	5 444	274.8	247	12.5	103	5.2	3 332	168.2
群 馬	20 385	1 033.6	36	1.8	5 670	287.5	253	12.8	175	8.9	3 089	156.6
埼 玉	55 487	781.0	81	1.1	17 058	240.1	669	9.4	236	3.3	9 543	134.3
千 葉	50 014	815.2	89	1.5	15 031	245.0	634	10.3	331	5.4	8 761	142.8
東 京	104 238	812.2	251	2.0	32 095	250.1	1 276	9.9	592	4.6	16 282	126.9
神 奈 川	67 760	759.5	152	1.7	21 246	238.2	697	7.8	240	2.7	9 976	111.8
新 潟	26 618	1 126.7	25	1.1	7 741	327.7	310	13.1	196	8.3	4 022	170.2
富 山	11 875	1 097.4	16	1.5	3 401	314.3	163	15.1	67	6.2	1 657	153.1
石 川	11 607	1 000.7	19	1.6	3 349	288.7	127	10.9	45	3.9	1 818	156.7
福 井	8 417	1 058.1	11	1.4	2 362	296.9	106	13.3	43	5.4	1 430	179.8
山 梨	9 268	1 089.7	17	2.0	2 450	288.1	127	14.9	63	7.4	1 478	173.8
長 野	23 133	1 089.9	26	1.2	6 071	286.0	286	13.5	147	6.9	3 453	162.7
岐 阜	20 220	989.5	43	2.1	5 622	275.1	208	10.2	73	3.6	3 327	162.8
静 岡	36 420	983.6	52	1.4	10 262	277.1	506	13.7	229	6.2	5 464	147.6
愛 知	58 477	806.9	153	2.1	17 814	245.8	623	8.6	235	3.2	8 642	119.2
三 重	18 691	1 026.1	24	1.3	5 058	277.7	227	12.5	112	6.1	2 890	158.7
滋 賀	11 602	835.4	19	1.4	3 448	248.3	110	7.9	64	4.6	1 885	135.7
京 都	23 714	914.4	37	1.4	7 311	281.9	254	9.8	93	3.6	4 100	158.1
大 阪	76 556	880.2	178	2.0	24 563	282.4	986	11.3	777	8.9	12 315	141.6
兵 庫	51 568	936.2	110	2.0	15 855	287.9	627	11.4	300	5.4	7 969	144.7
奈 良	13 036	936.9	17	1.2	4 046	290.8	106	7.6	72	5.2	2 432	174.8
和 歌 山	12 049	1 208.2	29	2.9	3 440	344.9	128	12.8	49	4.9	2 019	202.4
鳥 取	6 947	1 187.5	7	1.2	2 013	344.1	99	16.9	36	6.2	1 101	188.2
鳥 根	9 109	1 278.4	7	1.0	2 488	349.2	95	13.3	46	6.5	1 525	214.0
岡 山	20 248	1 051.1	25	1.3	5 518	286.4	230	11.9	86	4.5	3 121	162.0
広 島	27 561	974.6	64	2.3	8 036	284.2	286	10.1	113	4.0	4 682	165.6
山 口	17 646	1 226.3	37	2.6	4 845	336.7	201	14.0	85	5.9	2 925	203.3
徳 島	9 307	1 191.2	8	1.0	2 538	324.8	141	18.0	56	7.2	1 421	181.9
香 川	11 064	1 118.9	10	1.0	3 109	314.4	161	16.3	51	5.2	1 903	192.5
愛 媛	16 344	1 148.2	21	1.5	4 510	316.8	185	13.0	82	5.8	3 172	222.8
高 知	9 769	1 283.3	14	1.8	2 590	340.2	96	12.6	39	5.1	1 681	220.8
福 岡	46 996	934.1	87	1.7	14 769	293.6	581	11.5	402	8.0	5 791	115.1
佐 賀	9 212	1 088.7	25	3.0	2 714	320.7	104	12.3	74	8.7	1 371	162.0
長 崎	16 303	1 148.0	40	2.8	4 706	331.4	171	12.0	110	7.7	2 571	181.0
熊 本	19 217	1 061.9	33	1.8	5 324	294.2	199	11.0	120	6.6	2 960	163.6
大 分	12 988	1 093.6	19	1.6	3 639	306.4	139	11.7	83	7.0	1 955	164.6
宮 崎	12 334	1 090.2	12	1.1	3 427	302.9	151	13.3	69	6.1	2 071	183.1
鹿 児 島	20 294	1 193.3	36	2.1	5 436	319.6	253	14.9	92	5.4	3 123	183.6
沖 縄	10 156	733.2	23	1.7	2 745	198.2	139	10.0	61	4.4	1 459	105.3

注：1) 主な死因名等は死因簡単分類による。
2) 全国には住所地外国、不詳を含む。

(人口10万対), 都道府県別

平成22年

09300 脳血管疾患		10200 肺 炎		11300 肝 疾 患		14200 腎 不 全		18100 老 衰		20100 不慮の事故		20200 自 殺	
死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率
123 461	97.7	118 888	94.1	16 216	12.8	23 725	18.8	45 342	35.9	40 732	32.2	29 554	23.4
5 284	96.3	5 280	96.2	617	11.2	1 453	26.5	1 274	23.2	1 663	30.3	1 393	25.4
1 883	137.5	1 631	119.1	207	15.1	375	27.4	608	44.4	552	40.3	403	29.4
2 126	160.5	1 562	117.9	166	12.5	329	24.8	600	45.3	563	42.5	426	32.2
2 830	121.2	1 940	83.1	263	11.3	426	18.2	1 071	45.9	749	32.1	533	22.8
1 723	159.2	1 549	143.1	143	13.2	313	28.9	470	43.4	572	52.8	358	33.1
1 749	150.4	1 522	130.9	123	10.6	295	25.4	710	61.1	492	42.3	307	26.4
2 766	137.0	2 182	108.0	223	11.0	430	21.3	968	47.9	834	41.3	508	25.2
3 341	114.1	2 980	101.7	357	12.2	552	18.8	1 274	43.5	1 047	35.7	701	23.9
2 392	120.8	2 036	102.8	262	13.2	350	17.7	832	42.0	660	33.3	495	25.0
2 257	114.4	2 359	119.6	255	12.9	357	18.1	723	36.7	713	36.2	508	25.8
5 711	80.4	5 514	77.6	842	11.9	1 066	15.0	1 572	22.1	1 635	23.0	1 642	23.1
4 994	81.4	5 012	81.7	640	10.4	878	14.3	1 843	30.0	1 575	25.7	1 329	21.7
10 395	81.0	9 603	74.8	1 839	14.3	1 785	13.9	3 745	29.2	2 877	22.4	2 827	22.0
6 758	75.8	6 225	69.8	1 255	14.1	1 010	11.3	2 670	29.9	2 405	27.0	1 890	21.2
3 449	146.0	2 495	105.6	253	10.7	448	19.0	1 240	52.5	1 045	44.2	675	28.6
1 386	128.1	1 253	115.8	145	13.4	232	21.4	438	40.5	498	46.0	249	23.0
1 245	107.3	1 262	108.8	124	10.7	200	17.2	465	40.1	491	42.3	261	22.5
841	105.7	968	121.7	82	10.3	181	22.8	339	42.6	363	45.6	160	20.1
987	116.0	862	101.3	139	16.3	200	23.5	510	60.0	330	38.8	233	27.4
3 231	152.2	1 971	92.9	255	12.0	389	18.3	1 373	64.7	853	40.2	501	23.6
2 091	102.3	1 922	94.1	251	12.3	419	20.5	1 081	52.9	809	39.6	426	20.8
4 145	111.9	3 176	85.8	365	9.9	754	20.4	2 220	60.0	1 229	33.2	854	23.1
5 677	78.3	5 190	71.6	736	10.2	1 070	14.8	2 383	32.9	2 094	28.9	1 434	19.8
1 902	104.4	1 803	99.0	205	11.3	369	20.3	1 136	62.4	779	42.8	351	19.3
1 111	80.0	1 092	78.6	143	10.3	290	20.9	403	29.0	418	30.1	308	22.2
2 158	83.2	2 283	88.0	260	10.0	550	21.2	783	30.2	622	24.0	584	22.5
6 250	71.9	8 354	96.1	1 432	16.5	1 649	19.0	1 688	19.4	2 242	25.8	2 096	24.1
4 699	85.3	4 919	89.3	772	14.0	1 059	19.2	1 912	34.7	1 912	34.7	1 256	22.8
1 145	82.3	1 386	99.6	149	10.7	221	15.9	440	31.6	388	27.9	267	19.2
1 060	106.3	1 274	127.7	138	13.8	259	26.0	638	64.0	391	39.2	249	25.0
798	136.4	579	99.0	72	12.3	126	21.5	378	64.6	237	40.5	145	24.8
967	135.7	828	116.2	89	12.5	174	24.4	505	70.9	277	38.9	184	25.8
2 142	111.2	2 281	118.4	282	14.6	414	21.5	768	39.9	844	43.8	402	20.9
2 539	89.8	2 806	99.2	347	12.3	615	21.7	1 127	39.9	1 043	36.9	607	21.5
1 892	131.5	2 075	144.2	211	14.7	399	27.7	666	46.3	525	36.5	349	24.3
906	116.0	997	127.6	157	20.1	239	30.6	463	59.3	347	44.4	152	19.5
986	99.7	943	95.4	148	15.0	247	25.0	466	47.1	407	41.2	215	21.7
1 547	108.7	1 599	112.3	195	13.7	347	24.4	740	52.0	615	43.2	299	21.0
1 138	149.5	1 116	146.6	99	13.0	216	28.4	286	37.6	374	49.1	197	25.9
4 316	85.8	5 076	100.9	627	12.5	932	18.5	1 116	22.2	1 724	34.3	1 173	23.3
902	106.6	1 125	133.0	118	13.9	141	16.7	273	32.3	328	38.8	220	26.0
1 566	110.3	1 800	126.7	213	15.0	337	23.7	578	40.7	534	37.6	368	25.9
1 920	106.1	2 036	112.5	220	12.2	406	22.4	770	42.6	596	32.9	451	24.9
1 384	116.5	1 371	115.4	134	11.3	314	26.4	465	39.2	496	41.8	266	22.4
1 380	122.0	1 290	114.0	156	13.8	249	22.0	403	35.6	424	37.5	307	27.1
2 426	142.6	2 347	138.0	248	14.6	469	27.6	658	38.7	736	43.3	414	24.3
918	66.3	905	65.3	217	15.7	178	12.9	266	19.2	295	21.3	353	25.5

第 4 表 主な死因¹⁾の死亡数・死亡率

年 齢 階 級	全 死 因		01200 結 核		02100 悪性新生物		04100 糖 尿 病		09100 高血圧性疾患		09200 心 疾 患 (高血圧性を除く)	
	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率
総 数 ²⁾	1 197 012	947.1	2 129	1.7	353 499	279.7	14 422	11.4	6 760	5.3	189 360	149.8
0～4歳	3 382	64.4	-	-	100	1.9	-	-	-	-	125	2.4
5～9	480	8.6	-	-	107	1.9	-	-	-	-	26	0.5
10～14	553	9.4	-	-	116	2.0	4	0.1	-	-	42	0.7
15～19	1 422	23.6	-	-	150	2.5	3	0.0	1	0.0	62	1.0
20～24	2 753	43.7	1	0.0	217	3.4	4	0.1	1	0.0	115	1.8
25～29	3 437	48.0	1	0.0	372	5.2	14	0.2	2	0.0	196	2.7
30～34	4 837	58.9	4	0.0	760	9.3	26	0.3	2	0.0	383	4.7
35～39	7 555	78.0	9	0.1	1 598	16.5	63	0.7	8	0.1	756	7.8
40～44	10 162	117.5	7	0.1	2 779	32.1	110	1.3	23	0.3	1 106	12.8
45～49	14 532	182.4	14	0.2	4 731	59.4	161	2.0	29	0.4	1 735	21.8
50～54	22 014	289.3	23	0.3	8 690	114.2	263	3.5	52	0.7	2 636	34.6
55～59	39 326	454.3	53	0.6	17 815	205.8	554	6.4	115	1.3	4 674	54.0
60～64	66 096	657.4	77	0.8	31 925	317.5	999	9.9	202	2.0	8 069	80.3
65～69	83 807	1 009.5	104	1.3	39 677	482.1	1 209	14.7	254	3.1	10 232	124.3
70～74	110 248	1 577.8	158	2.3	48 049	687.7	1 732	24.8	324	4.6	14 244	203.9
75～79	163 088	2 730.8	272	4.6	60 681	1 016.1	2 298	38.5	595	10.0	23 432	392.3
80～84	211 257	4 841.7	483	11.1	61 822	1 416.9	2 693	61.7	1 045	23.9	33 939	777.8
85～89	207 287	8 473.8	518	21.2	44 223	1 807.8	2 284	93.4	1 429	58.4	37 908	1 549.7
90～94	151 959	14 806.4	287	28.0	21 811	2 125.2	1 414	137.8	1 466	142.8	30 749	2 996.1
95～99	75 386	25 328.5	102	34.3	6 996	2 350.5	528	177.4	960	322.5	15 541	5 221.5
100～	17 513	39 892.0	13	29.6	856	1 949.8	61	138.9	250	569.5	3 353	7 637.6
男	633 700	1 029.2	1 338	2.2	211 435	343.4	7 620	12.4	2 517	4.1	88 803	144.2
0～4歳	1 873	69.6	-	-	55	2.0	-	-	-	-	72	2.7
5～9	261	9.2	-	-	55	1.9	-	-	-	-	14	0.5
10～14	350	11.6	-	-	63	2.1	4	0.1	-	-	28	0.9
15～19	941	30.4	-	-	93	3.0	2	0.1	-	-	41	1.3
20～24	1 962	60.8	1	0.0	134	4.2	1	0.0	1	0.0	83	2.6
25～29	2 412	66.2	1	0.0	197	5.4	10	0.3	1	0.0	162	4.4
30～34	3 177	76.0	4	0.1	321	7.7	19	0.5	-	-	298	7.1
35～39	4 867	98.8	8	0.2	624	12.7	46	0.9	7	0.1	584	11.9
40～44	6 629	151.3	5	0.1	1 185	27.0	86	2.0	17	0.4	866	19.8
45～49	9 566	238.2	11	0.3	2 257	56.2	124	3.1	25	0.6	1 391	34.6
50～54	14 638	384.5	18	0.5	4 678	122.9	206	5.4	39	1.0	2 075	54.5
55～59	27 134	631.5	48	1.1	10 735	249.9	434	10.1	101	2.4	3 722	86.6
60～64	46 155	934.9	67	1.4	20 891	423.2	750	15.2	167	3.4	6 283	127.3
65～69	57 468	1 460.9	74	1.9	26 942	684.9	860	21.9	187	4.8	7 473	190.0
70～74	73 470	2 270.9	112	3.5	32 435	1 002.5	1 125	34.8	208	6.4	9 418	291.1
75～79	102 673	3 959.4	179	6.9	39 917	1 539.3	1 364	52.6	342	13.2	13 566	523.1
80～84	119 801	7 046.3	306	18.0	37 844	2 225.9	1 329	78.2	445	26.2	16 897	993.8
85～89	89 905	12 030.9	291	38.9	21 993	2 943.0	763	102.1	470	62.9	13 797	1 846.3
90～94	49 199	20 252.2	150	61.7	8 564	3 525.3	384	158.1	322	132.5	8 410	3 461.9
95～99	17 849	31 876.6	53	94.7	2 212	3 950.4	100	178.6	159	284.0	3 106	5 547.0
100～	2 860	48 813.8	7	119.5	219	3 737.8	11	187.7	24	409.6	491	8 380.3
女	563 312	869.2	791	1.2	142 064	219.2	6 802	10.5	4 243	6.5	100 557	155.2
0～4歳	1 509	58.8	-	-	45	1.8	-	-	-	-	53	2.1
5～9	219	8.1	-	-	52	1.9	-	-	-	-	12	0.4
10～14	203	7.1	-	-	53	1.8	-	-	-	-	14	0.5
15～19	481	16.4	-	-	57	1.9	1	0.0	1	0.0	21	0.7
20～24	791	25.7	-	-	83	2.7	3	0.1	-	-	32	1.0
25～29	1 025	29.2	-	-	175	5.0	4	0.1	1	0.0	34	1.0
30～34	1 660	41.2	-	-	439	10.9	7	0.2	2	0.0	85	2.1
35～39	2 688	56.5	1	0.0	974	20.5	17	0.4	1	0.0	172	3.6
40～44	3 533	82.8	2	0.0	1 594	37.3	24	0.6	6	0.1	240	5.6
45～49	4 966	125.7	3	0.1	2 474	62.6	37	0.9	4	0.1	344	8.7
50～54	7 376	194.1	5	0.1	4 012	105.6	57	1.5	13	0.3	561	14.8
55～59	12 192	279.7	5	0.1	7 080	162.4	120	2.8	14	0.3	952	21.8
60～64	19 941	389.6	10	0.2	11 034	215.6	249	4.9	35	0.7	1 786	34.9
65～69	25 619	596.3	30	0.7	12 735	296.4	349	8.1	67	1.6	2 759	64.2
70～74	36 778	980.2	46	1.2	15 614	416.1	607	16.2	116	3.1	4 826	128.6
75～79	60 415	1 787.9	93	2.8	20 764	614.5	934	27.6	253	7.5	9 866	292.0
80～84	91 456	3 434.2	177	6.6	23 978	900.4	1 364	51.2	600	22.5	17 042	639.9
85～89	117 382	6 909.3	227	13.4	22 230	1 308.5	1 521	89.5	959	56.4	24 111	1 419.2
90～94	102 760	13 117.6	137	17.5	13 247	1 691.0	1 030	131.5	1 144	146.0	22 339	2 851.6
95～99	57 537	23 811.1	49	20.3	4 784	1 979.8	428	177.1	801	331.5	12 435	5 146.1
100～	14 653	38 518.0	6	15.8	637	1 674.5	50	131.4	226	594.1	2 862	7 523.3

注：1) 主な死因名等は死因単分類による。
2) 総数には年齢不詳を含む。

(人口10万対), 性・年齢階級別

平成22年

09300 脳血管疾患		10200 肺 炎		11300 肝 疾 患		14200 腎 不 全		18100 老 衰		20100 不慮の事故		20200 自 殺	
死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率
123 461	97.7	118 888	94.1	16 216	12.8	23 725	18.8	45 342	35.9	40 732	32.2	29 554	23.4
13	0.2	113	2.2	14	0.3	9	0.2	-	-	264	5.0	-	-
8	0.1	22	0.4	3	0.1	-	-	-	-	125	2.3	-	-
15	0.3	14	0.2	2	0.0	2	0.0	-	-	121	2.1	63	1.1
19	0.3	18	0.3	2	0.0	2	0.0	-	-	424	7.0	451	7.5
39	0.6	31	0.5	6	0.1	8	0.1	-	-	553	8.8	1 372	21.8
92	1.3	43	0.6	18	0.3	7	0.1	-	-	514	7.2	1 630	22.8
193	2.3	70	0.9	72	0.9	12	0.1	-	-	570	6.9	1 920	23.4
466	4.8	102	1.1	199	2.1	24	0.2	-	-	670	6.9	2 345	24.2
841	9.7	162	1.9	408	4.7	35	0.4	-	-	765	8.8	2 325	26.9
1 294	16.2	198	2.5	715	9.0	72	0.9	-	-	866	10.9	2 465	30.9
1 946	25.6	403	5.3	1 027	13.5	127	1.7	-	-	1 079	14.2	2 615	34.4
3 185	36.8	893	10.3	1 470	17.0	287	3.3	-	-	1 654	19.1	2 940	34.0
5 180	51.5	1 921	19.1	1 963	19.5	606	6.0	8	0.1	2 437	24.2	3 124	31.1
6 615	80.4	3 265	39.7	2 039	24.8	972	11.8	69	0.8	2 982	36.2	2 432	29.5
9 741	139.4	6 537	93.6	2 123	30.4	1 627	23.3	276	3.9	3 827	54.8	1 847	26.4
16 421	275.0	13 464	225.4	2 156	36.1	2 952	49.4	1 021	17.1	5 513	92.3	1 606	26.9
23 735	544.0	24 028	550.7	1 906	43.7	4 741	108.7	3 842	88.1	6 782	155.4	1 143	26.2
24 831	1 015.1	28 884	1 180.8	1 316	53.8	5 599	228.9	8 984	367.3	5 985	244.7	712	29.1
18 672	1 819.3	23 568	2 296.4	561	54.7	4 264	415.5	14 125	1 376.3	3 682	358.8	323	31.5
8 541	2 869.6	12 318	4 138.7	185	62.2	2 001	672.3	12 165	4 087.2	1 557	523.1	83	27.9
1 590	3 621.8	2 824	6 432.7	25	56.9	376	856.5	4 852	11 052.1	305	694.7	5	11.4
60 186	97.7	63 569	103.2	10 619	17.2	11 035	17.9	10 787	17.5	23 975	38.9	21 028	34.2
4	0.1	64	2.4	8	0.3	3	0.1	-	-	168	6.2	-	-
4	0.1	9	0.3	1	0.0	-	-	-	-	87	3.1	-	-
6	0.2	7	0.2	1	0.0	2	0.1	-	-	93	3.1	42	1.4
14	0.5	10	0.3	-	-	-	-	-	-	312	10.1	301	9.7
21	0.7	14	0.4	5	0.2	4	0.1	-	-	425	13.2	1 014	31.4
66	1.8	28	0.8	11	0.3	6	0.2	-	-	395	10.8	1 201	33.0
138	3.3	48	1.1	44	1.1	9	0.2	-	-	436	10.4	1 342	32.1
317	6.4	68	1.4	151	3.1	17	0.3	-	-	496	10.1	1 719	34.9
611	13.9	117	2.7	308	7.0	29	0.7	-	-	572	13.1	1 755	40.1
873	21.7	139	3.5	579	14.4	48	1.2	-	-	688	17.1	1 862	46.4
1 296	34.0	298	7.8	858	22.5	93	2.4	-	-	839	22.0	2 011	52.8
2 337	54.4	673	15.7	1 197	27.9	197	4.6	-	-	1 285	29.9	2 306	53.7
3 634	73.6	1 461	29.6	1 608	32.6	431	8.7	7	0.1	1 784	36.1	2 327	47.1
4 537	115.3	2 470	62.8	1 574	40.0	661	16.8	43	1.1	2 069	52.6	1 639	41.7
6 458	199.6	4 775	147.6	1 414	43.7	989	30.6	173	5.3	2 470	76.3	1 192	36.8
10 074	388.5	9 459	364.8	1 275	49.2	1 758	67.8	515	19.9	3 300	127.3	987	38.1
12 722	748.3	15 411	906.4	902	53.1	2 502	147.2	1 565	92.0	3 836	225.6	640	37.6
9 814	1 313.3	14 738	1 972.2	451	60.4	2 251	301.2	2 567	343.5	2 796	374.2	354	47.4
5 311	2 186.2	9 399	3 869.0	179	73.7	1 441	593.2	3 187	1 311.9	1 377	566.8	159	65.5
1 698	3 032.5	3 771	6 734.7	44	78.6	523	934.0	2 125	3 795.0	439	784.0	46	82.2
232	3 959.7	600	10 240.7	3	51.2	69	1 177.7	605	10 326.0	67	1 143.5	1	17.1
63 275	97.6	55 319	85.4	5 597	8.6	12 690	19.6	34 555	53.3	16 757	25.9	8 526	13.2
9	0.4	49	1.9	6	0.2	6	0.2	-	-	96	3.7	-	-
4	0.1	13	0.5	2	0.1	-	-	-	-	38	1.4	-	-
9	0.3	7	0.2	1	0.0	-	-	-	-	28	1.0	21	0.7
5	0.2	8	0.3	2	0.1	2	0.1	-	-	112	3.8	150	5.1
18	0.6	17	0.6	1	0.0	4	0.1	-	-	128	4.2	358	11.6
26	0.7	15	0.4	7	0.2	1	0.0	-	-	119	3.4	429	12.2
55	1.4	22	0.5	28	0.7	3	0.1	-	-	134	3.3	578	14.3
149	3.1	34	0.7	48	1.0	7	0.1	-	-	174	3.7	626	13.1
230	5.4	45	1.1	100	2.3	6	0.1	-	-	193	4.5	570	13.4
421	10.7	59	1.5	136	3.4	24	0.6	-	-	178	4.5	603	15.3
650	17.1	105	2.8	169	4.4	34	0.9	-	-	240	6.3	604	15.9
848	19.5	220	5.0	273	6.3	90	2.1	-	-	369	8.5	634	14.5
1 546	30.2	460	9.0	355	6.9	175	3.4	1	0.0	653	12.8	797	15.6
2 078	48.4	795	18.5	465	10.8	311	7.2	26	0.6	913	21.3	793	18.5
3 283	87.5	1 762	47.0	709	18.9	638	17.0	103	2.7	1 357	36.2	655	17.5
6 347	187.8	4 005	118.5	881	26.1	1 194	35.3	506	15.0	2 213	65.5	619	18.3
11 013	413.5	8 617	323.6	1 004	37.7	2 239	84.1	2 277	85.5	2 946	110.6	503	18.9
15 017	883.9	14 146	832.7	865	50.9	3 348	197.1	6 417	377.7	3 189	187.7	358	21.1
13 361	1 705.6	14 169	1 808.7	382	48.8	2 823	360.4	10 938	1 396.3	2 305	294.2	164	20.9
6 843	2 831.9	8 547	3 537.1	141	58.4	1 478	611.7	10 040	4 155.0	1 118	462.7	37	15.3
1 358	3 569.7	2 224	5 846.2	22	57.8	307	807.0	4 247	11 164.0	238	625.6	4	10.5

第 5 表 性 ・ 年 齡 階 級 別 に

割合(%)

総 数

平成22年

年 齢 階 級	第 1 位		第 2 位		第 3 位		第 4 位		第 5 位	
	死 因	割合 ²⁾	死 因	割合	死 因	割合	死 因	割合	死 因	割合
総 数	悪 性 新 生 物	29.5	心 疾 患	15.8	脳 血 管 疾 患	10.3	肺 炎	9.9	老 衰	3.8
0 歳	先天奇形, 変形 及び染色体異常	37.4	周産期に特異的 な呼吸障害等	13.9	乳幼児突然死 症候群	5.7	不慮の事故	4.6	胎児及び新生児 の出血性障害等	3.5
1～4	先天奇形, 変形 及び染色体異常	17.4	不慮の事故	16.2	悪 性 新 生 物	9.2	肺 炎	7.6	心 疾 患	6.1
5～9	不慮の事故	26.0	悪 性 新 生 物	22.3	心 疾 患 先天奇形, 変形 及び染色体異常	5.4			その他の新生物	5.0
10～14	不慮の事故	21.9	悪 性 新 生 物	21.0	自 殺	11.4	心 疾 患	7.6	先天奇形, 変形 及び染色体異常	4.2
15～19	自 殺	31.7	不慮の事故	29.8	悪 性 新 生 物	10.5	心 疾 患	4.4	先天奇形, 変形 及び染色体異常	2.1
20～24	自 殺	49.8	不慮の事故	20.1	悪 性 新 生 物	7.9	心 疾 患	4.2	脳 血 管 疾 患	1.4
25～29	自 殺	47.4	不慮の事故	15.0	悪 性 新 生 物	10.8	心 疾 患	5.7	脳 血 管 疾 患	2.7
30～34	自 殺	39.7	悪 性 新 生 物	15.7	不慮の事故	11.8	心 疾 患	7.9	脳 血 管 疾 患	4.0
35～39	自 殺	31.0	悪 性 新 生 物	21.2	心 疾 患	10.0	不慮の事故	8.9	脳 血 管 疾 患	6.2
40～44	悪 性 新 生 物	27.3	自 殺	22.9	心 疾 患	10.9	脳 血 管 疾 患	8.3	不慮の事故	7.5
45～49	悪 性 新 生 物	32.6	自 殺	17.0	心 疾 患	11.9	脳 血 管 疾 患	8.9	不慮の事故	6.0
50～54	悪 性 新 生 物	39.5	心 疾 患	12.0	自 殺	11.9	脳 血 管 疾 患	8.8	不慮の事故	4.9
55～59	悪 性 新 生 物	45.3	心 疾 患	11.9	脳 血 管 疾 患	8.1	自 殺	7.5	不慮の事故	4.2
60～64	悪 性 新 生 物	48.3	心 疾 患	12.2	脳 血 管 疾 患	7.8	自 殺	4.7	不慮の事故	3.7
65～69	悪 性 新 生 物	47.8	心 疾 患	12.3	脳 血 管 疾 患	8.0	肺 炎	3.9	不慮の事故	3.6
70～74	悪 性 新 生 物	43.6	心 疾 患	12.9	脳 血 管 疾 患	8.8	肺 炎	5.9	不慮の事故	3.5
75～79	悪 性 新 生 物	37.2	心 疾 患	14.4	脳 血 管 疾 患	10.1	肺 炎	8.3	不慮の事故	3.4
80～84	悪 性 新 生 物	29.3	心 疾 患	16.1	肺 炎	11.4	脳 血 管 疾 患	11.2	不慮の事故	3.2
85～89	悪 性 新 生 物	21.3	心 疾 患	18.3	肺 炎	13.9	脳 血 管 疾 患	12.0	老 衰	4.3
90～94	心 疾 患	20.2	肺 炎	15.5	悪 性 新 生 物	14.4	脳 血 管 疾 患	12.3	老 衰	9.3
95～99	心 疾 患	20.6	肺 炎	16.3	老 衰	16.1	脳 血 管 疾 患	11.3	悪 性 新 生 物	9.3
100～	老 衰	27.7	心 疾 患	19.1	肺 炎	16.1	脳 血 管 疾 患	9.1	悪 性 新 生 物	4.9
(再掲)										
65～	悪 性 新 生 物	27.9	心 疾 患	16.6	肺 炎	11.3	脳 血 管 疾 患	10.8	老 衰	4.4
80～	悪 性 新 生 物	20.5	心 疾 患	18.3	肺 炎	13.8	脳 血 管 疾 患	11.7	老 衰	6.6

注：1) [1]乳児(0歳)の死因については乳児死因順位に用いる分類項目による。

[2]死因名は次のように省略した。

心疾患←心疾患(高血圧性を除く)、周産期に特異的な呼吸障害等←周産期に特異的な呼吸障害及び心血管障害、
胎児及び新生児の出血性障害等←胎児及び新生児の出血性障害及び血液障害

2) 割合(%)はそれぞれの年齢階級別死亡数を100としたものである。

3) 死因順位は死亡数の多いものから定めた。死亡数が同数の場合は、同一順位に死因名を列記し、次位を空欄とした。

みた死因順位¹⁾

割合(%)

男

平成22年

年齢階級	第1位		第2位		第3位		第4位		第5位	
	死因	割合 ²⁾	死因	割合	死因	割合	死因	割合	死因	割合
総数	悪性新生物	33.4	心疾患	14.0	肺炎	10.0	脳血管疾患	9.5	不慮の事故	3.8
0歳	先天奇形, 変形及び染色体異常	36.1	周産期に特異的な呼吸障害等	14.2	乳幼児突然死症候群	6.1	不慮の事故	4.9	不慮の事故 妊娠期間等に 胎児及び新生児の 出血性障害等	3.2
1~4	不慮の事故	19.5	先天奇形, 変形及び染色体異常	15.4	悪性新生物	9.5	肺炎	7.3	心疾患	6.0
5~9	不慮の事故	33.3	悪性新生物	21.1	心疾患	5.4	先天奇形, 変形及び染色体異常	5.0	その他の新生物	4.2
10~14	不慮の事故	26.6	悪性新生物	18.0	自殺	12.0	心疾患	8.0	その他の新生物 先天奇形, 変形 及び染色体異常	3.7
15~19	不慮の事故	33.2	自殺	32.0	悪性新生物	9.9	心疾患	4.4	先天奇形, 変形 及び染色体異常	2.0
20~24	自殺	51.7	不慮の事故	21.7	悪性新生物	6.8	心疾患	4.2	先天奇形, 変形 及び染色体異常	1.2
25~29	自殺	49.8	不慮の事故	16.4	悪性新生物	8.2	心疾患	6.7	脳血管疾患	2.7
30~34	自殺	42.2	不慮の事故	13.7	悪性新生物	10.1	心疾患	9.4	脳血管疾患	4.3
35~39	自殺	35.3	悪性新生物	12.8	心疾患	12.0	不慮の事故	10.2	脳血管疾患	6.5
40~44	自殺	26.5	悪性新生物	17.9	心疾患	13.1	脳血管疾患	9.2	不慮の事故	8.6
45~49	悪性新生物	23.6	自殺	19.5	心疾患	14.5	脳血管疾患	9.1	不慮の事故	7.2
50~54	悪性新生物	32.0	心疾患	14.2	自殺	13.7	脳血管疾患	8.9	肝疾患	5.9
55~59	悪性新生物	39.6	心疾患	13.7	脳血管疾患	8.6	自殺	8.5	不慮の事故	4.7
60~64	悪性新生物	45.3	心疾患	13.6	脳血管疾患	7.9	自殺	5.0	不慮の事故	3.9
65~69	悪性新生物	46.9	心疾患	13.0	脳血管疾患	7.9	肺炎	4.3	不慮の事故	3.6
70~74	悪性新生物	44.1	心疾患	12.8	脳血管疾患	8.8	肺炎	6.5	不慮の事故	3.4
75~79	悪性新生物	38.9	心疾患	13.2	脳血管疾患	9.8	肺炎	9.2	不慮の事故	3.2
80~84	悪性新生物	31.6	心疾患	14.1	肺炎	12.9	脳血管疾患	10.6	不慮の事故	3.2
85~89	悪性新生物	24.5	肺炎	16.4	心疾患	15.3	脳血管疾患	10.9	慢性閉塞性 肺疾患	3.3
90~94	肺炎	19.1	悪性新生物	17.4	心疾患	17.1	脳血管疾患	10.8	老衰	6.5
95~99	肺炎	21.1	心疾患	17.4	悪性新生物	12.4	老衰	11.9	脳血管疾患	9.5
100~	老衰	21.2	肺炎	21.0	心疾患	17.2	脳血管疾患	8.1	悪性新生物	7.7
(再掲) 65~	悪性新生物	33.1	心疾患	14.3	肺炎	11.8	脳血管疾患	9.9	不慮の事故	3.2
80~	悪性新生物	25.3	肺炎	15.7	心疾患	15.3	脳血管疾患	10.6	老衰	3.6

第 5 表 性・年齢階級別にみた死因順位¹⁾ (つづき)

割合(%)		女										平成22年
年 齢 階 級	第 1 位		第 2 位		第 3 位		第 4 位		第 5 位		割合	
	死 因	割合 ²⁾	死 因	割合	死 因	割合	死 因	割合	死 因	割合		
総 数	悪性新生物	25.2	心 疾 患	17.9	脳 血 管 疾 患	11.2	肺 炎	9.8	老 衰	6.1		
0 歳	先天奇形, 変形 及び染色体異常	39.0	周産期に特異的 な呼吸障害等	13.5	乳幼児突然死 症候群	5.3	不慮の事故	4.2	胎児及び新生児 の出血性障害等	3.8		
1~4	先天奇形, 変形 及び染色体異常	19.8	不慮の事故	12.1	悪性新生物 その他の新生物 肺炎	8.9	肺 炎	8.0	心 疾 患	6.3		
5~9	悪性新生物	23.7	不慮の事故	17.4	先天奇形, 変形 及び染色体異常 自 殺	5.9						
10~14	悪性新生物	26.1	不慮の事故	13.8	自 殺	10.3	心 疾 患	6.9	先天奇形, 変形 及び染色体異常	4.9		
15~19	自 殺	31.2	不慮の事故	23.3	悪性新生物	11.9	心 疾 患	4.4	先天奇形, 変形 及び染色体異常	2.3		
20~24	自 殺	45.3	不慮の事故	16.2	悪性新生物	10.5	心 疾 患	4.0	脳 血 管 疾 患	2.3		
25~29	自 殺	41.9	悪性新生物	17.1	不慮の事故	11.6	心 疾 患	3.3	脳 血 管 疾 患	2.5		
30~34	自 殺	34.8	悪性新生物	26.4	不慮の事故	8.1	心 疾 患	5.1	脳 血 管 疾 患	3.3		
35~39	悪性新生物	36.2	自 殺	23.3	不慮の事故	6.5	心 疾 患	6.4	脳 血 管 疾 患	5.5		
40~44	悪性新生物	45.1	自 殺	16.1	心 疾 患	6.8	脳 血 管 疾 患	6.5	不慮の事故	5.5		
45~49	悪性新生物	49.8	自 殺	12.1	脳 血 管 疾 患	8.5	心 疾 患	6.9	不慮の事故	3.6		
50~54	悪性新生物	54.4	脳 血 管 疾 患	8.8	自 殺	8.2	心 疾 患	7.6	不慮の事故	3.3		
55~59	悪性新生物	58.1	心 疾 患	7.8	脳 血 管 疾 患	7.0	自 殺	5.2	不慮の事故	3.0		
60~64	悪性新生物	55.3	心 疾 患	9.0	脳 血 管 疾 患	7.8	自 殺	4.0	不慮の事故	3.3		
65~69	悪性新生物	49.7	心 疾 患	10.8	脳 血 管 疾 患	8.1	不慮の事故	3.6	肺 炎	3.1		
70~74	悪性新生物	42.5	心 疾 患	13.1	脳 血 管 疾 患	8.9	肺 炎	4.8	不慮の事故	3.7		
75~79	悪性新生物	34.4	心 疾 患	16.3	脳 血 管 疾 患	10.5	肺 炎	6.6	不慮の事故	3.7		
80~84	悪性新生物	26.2	心 疾 患	18.6	脳 血 管 疾 患	12.0	肺 炎	9.4	不慮の事故	3.2		
85~89	心 疾 患	20.5	悪性新生物	18.9	脳 血 管 疾 患	12.8	肺 炎	12.1	老 衰	5.5		
90~94	心 疾 患	21.7	肺 炎	13.8	脳 血 管 疾 患	13.0	悪性新生物	12.9	老 衰	10.6		
95~99	心 疾 患	21.6	老 衰	17.4	肺 炎	14.9	脳 血 管 疾 患	11.9	悪性新生物	8.3		
100~	老 衰	29.0	心 疾 患	19.5	肺 炎	15.2	脳 血 管 疾 患	9.3	悪性新生物	4.3		
(再掲)												
65~	悪性新生物	22.5	心 疾 患	19.0	脳 血 管 疾 患	11.7	肺 炎	10.7	老 衰	6.8		
80~	心 疾 患	20.5	悪性新生物	16.9	肺 炎	12.4	脳 血 管 疾 患	12.4	老 衰	8.8		

第 6 表 都道府県別にみた死因順位

割合(%)

平成22年

都道府県	第 1 位		第 2 位		第 3 位		第 4 位		第 5 位	
	死 因	割合 ²⁾	死 因	割合	死 因	割合	死 因	割合	死 因	割合
全国 ¹⁾	悪性新生物	29.5	心 疾 患	15.8	脳血管疾患	10.3	肺 炎	9.9	老 衰	3.8
北海道	悪性新生物	32.2	心 疾 患	16.1	脳血管疾患	9.5	肺 炎	9.5	不慮の事故	3.0
青森	悪性新生物	29.8	心 疾 患	16.4	脳血管疾患	11.7	肺 炎	10.2	老 衰	3.8
岩手	悪性新生物	27.4	心 疾 患	17.0	脳血管疾患	13.5	肺 炎	9.9	老 衰	3.8
宮城	悪性新生物	29.0	心 疾 患	15.1	脳血管疾患	12.9	肺 炎	8.8	老 衰	4.9
秋田	悪性新生物	28.6	心 疾 患	16.0	脳血管疾患	12.1	肺 炎	10.8	不慮の事故	4.0
山形	悪性新生物	27.7	心 疾 患	15.7	脳血管疾患	12.4	肺 炎	10.8	老 衰	5.0
福島	悪性新生物	27.1	心 疾 患	17.6	脳血管疾患	12.2	肺 炎	9.6	老 衰	4.3
茨城	悪性新生物	28.2	心 疾 患	15.4	脳血管疾患	11.7	肺 炎	10.4	老 衰	4.5
栃木	悪性新生物	27.6	心 疾 患	16.9	脳血管疾患	12.1	肺 炎	10.3	老 衰	4.2
群馬	悪性新生物	27.8	心 疾 患	15.2	肺 炎	11.6	脳血管疾患	11.1	老 衰	3.5
埼玉	悪性新生物	30.7	心 疾 患	17.2	脳血管疾患	10.3	肺 炎	9.9	自 殺	3.0
千葉	悪性新生物	30.1	心 疾 患	17.5	肺 炎	10.0	脳血管疾患	10.0	老 衰	3.7
東京	悪性新生物	30.8	心 疾 患	15.6	脳血管疾患	10.0	肺 炎	9.2	老 衰	3.6
神奈川	悪性新生物	31.4	心 疾 患	14.7	脳血管疾患	10.0	肺 炎	9.2	老 衰	3.9
新潟	悪性新生物	29.1	心 疾 患	15.1	脳血管疾患	13.0	肺 炎	9.4	老 衰	4.7
富山	悪性新生物	28.6	心 疾 患	14.0	脳血管疾患	11.7	肺 炎	10.6	不慮の事故	4.2
石川	悪性新生物	28.9	心 疾 患	15.7	肺 炎	10.9	脳血管疾患	10.7	不慮の事故	4.2
福井	悪性新生物	28.1	心 疾 患	17.0	肺 炎	11.5	脳血管疾患	10.0	不慮の事故	4.3
山梨	悪性新生物	26.4	心 疾 患	15.9	脳血管疾患	10.6	肺 炎	9.3	老 衰	5.5
長野	悪性新生物	26.2	心 疾 患	14.9	脳血管疾患	14.0	肺 炎	8.5	老 衰	5.9
岐阜	悪性新生物	27.8	心 疾 患	16.5	脳血管疾患	10.3	肺 炎	9.5	老 衰	5.3
静岡	悪性新生物	28.2	心 疾 患	15.0	脳血管疾患	11.4	肺 炎	8.7	老 衰	6.1
愛知	悪性新生物	30.5	心 疾 患	14.8	脳血管疾患	9.7	肺 炎	8.9	老 衰	4.1
三重	悪性新生物	27.1	心 疾 患	15.5	脳血管疾患	10.2	肺 炎	9.6	老 衰	6.1
滋賀	悪性新生物	29.7	心 疾 患	16.2	脳血管疾患	9.6	肺 炎	9.4	不慮の事故	3.6
京都	悪性新生物	30.8	心 疾 患	17.3	肺 炎	9.6	脳血管疾患	9.1	老 衰	3.3
大阪	悪性新生物	32.1	心 疾 患	16.1	肺 炎	10.9	脳血管疾患	8.2	不慮の事故	2.9
兵庫	悪性新生物	30.7	心 疾 患	15.5	肺 炎	9.5	脳血管疾患	9.1	老 衰	3.7
奈良	悪性新生物	31.0	心 疾 患	18.7	肺 炎	10.6	脳血管疾患	8.8	老 衰	3.4
和歌山	悪性新生物	28.6	心 疾 患	16.8	肺 炎	10.6	脳血管疾患	8.8	老 衰	5.3
鳥取	悪性新生物	29.0	心 疾 患	15.8	脳血管疾患	11.5	肺 炎	8.3	老 衰	5.4
島根	悪性新生物	27.3	心 疾 患	16.7	脳血管疾患	10.6	肺 炎	9.1	老 衰	5.5
岡山	悪性新生物	27.3	心 疾 患	15.4	肺 炎	11.3	脳血管疾患	10.6	不慮の事故	4.2
広島	悪性新生物	29.2	心 疾 患	17.0	肺 炎	10.2	脳血管疾患	9.2	老 衰	4.1
山口	悪性新生物	27.5	心 疾 患	16.6	肺 炎	11.8	脳血管疾患	10.7	老 衰	3.8
徳島	悪性新生物	27.3	心 疾 患	15.3	肺 炎	10.7	脳血管疾患	9.7	老 衰	5.0
香川	悪性新生物	28.1	心 疾 患	17.2	脳血管疾患	8.9	肺 炎	8.5	老 衰	4.2
愛媛	悪性新生物	27.6	心 疾 患	19.4	肺 炎	9.8	脳血管疾患	9.5	老 衰	4.5
高知	悪性新生物	26.5	心 疾 患	17.2	脳血管疾患	11.6	肺 炎	11.4	不慮の事故	3.8
福岡	悪性新生物	31.4	心 疾 患	12.3	肺 炎	10.8	脳血管疾患	9.2	不慮の事故	3.7
佐賀	悪性新生物	29.5	心 疾 患	14.9	肺 炎	12.2	脳血管疾患	9.8	不慮の事故	3.6
長崎	悪性新生物	28.9	心 疾 患	15.8	肺 炎	11.0	脳血管疾患	9.6	老 衰	3.5
熊本	悪性新生物	27.7	心 疾 患	15.4	肺 炎	10.6	脳血管疾患	10.0	老 衰	4.0
大分	悪性新生物	28.0	心 疾 患	15.1	脳血管疾患	10.7	肺 炎	10.6	不慮の事故	3.8
宮崎	悪性新生物	27.8	心 疾 患	16.8	脳血管疾患	11.2	肺 炎	10.5	不慮の事故	3.4
鹿児島	悪性新生物	26.8	心 疾 患	15.4	脳血管疾患	12.0	肺 炎	11.6	不慮の事故	3.6
沖縄	悪性新生物	27.0	心 疾 患	14.4	脳血管疾患	9.0	肺 炎	8.9	自 殺	3.5

注：1) 全国には住所地外国、不詳を含む。
2) 割合(%)はそれぞれの都道府県別死亡数を100としたものである。

諸率の算出に用いた人口

都道府県・男女別人口（日本人人口）

年齢階級・男女別人口（日本人人口）

都道府県	総数	男	女
全 国	126 381 728	61 571 727	64 810 001
北 海 道	5 488 092	2 596 047	2 892 045
青 森	1 369 629	644 839	724 790
岩 手	1 324 924	633 657	691 267
宮 城	2 335 682	1 134 707	1 200 975
秋 田	1 082 603	509 065	573 538
山 形	1 162 744	559 360	603 384
福 島	2 019 618	981 711	1 037 907
茨 城	2 929 085	1 460 874	1 468 211
栃 木	1 980 746	984 884	995 862
群 馬	1 972 287	971 506	1 000 781
埼 玉	7 104 590	3 569 078	3 535 512
千 葉	6 135 236	3 063 676	3 071 560
東 京	12 833 956	6 360 369	6 473 587
神 奈 川	8 921 252	4 485 848	4 435 404
新 潟	2 362 420	1 143 907	1 218 513
富 山	1 082 108	522 080	560 028
石 川	1 159 897	560 422	599 475
福 井	795 496	385 299	410 197
山 梨	850 546	417 174	433 372
長 野	2 122 509	1 033 742	1 088 767
岐 阜	2 043 467	990 446	1 053 021
静 岡	3 702 776	1 824 427	1 878 349
愛 知	7 247 125	3 627 629	3 619 496
三 重	1 821 502	887 300	934 202
滋 賀	1 388 741	685 758	702 983
京 都	2 593 340	1 245 416	1 347 924
大 阪	8 697 550	4 207 727	4 489 823
兵 庫	5 507 961	2 636 121	2 871 840
奈 良	1 391 395	659 171	732 224
和 歌 山	997 305	469 544	527 761
鳥 取	585 005	279 543	305 462
島 根	712 516	341 302	371 214
岡 山	1 926 378	925 031	1 001 347
広 島	2 827 820	1 365 236	1 462 584
山 口	1 439 011	678 688	760 323
徳 島	781 300	371 484	409 816
香 川	988 786	476 657	512 129
愛 媛	1 423 425	669 771	753 654
高 知	761 239	357 567	403 672
福 岡	5 030 961	2 374 674	2 656 287
佐 賀	846 146	398 787	447 359
長 崎	1 420 166	663 130	757 036
熊 本	1 809 626	850 748	958 878
大 分	1 187 599	561 248	626 351
宮 崎	1 131 381	531 473	599 908
鹿 児 島	1 700 683	795 367	905 316
沖 縄	1 385 104	679 237	705 867

年 齢	総数	男	女
総 数	126 381 728	61 571 727	64 810 001
0 歳	1 037 633	531 090	506 543
1	1 036 647	530 331	506 316
2	1 065 299	545 162	520 137
3	1 061 005	543 062	517 943
4	1 053 877	539 517	514 360
0 ~ 4	5 254 461	2 689 162	2 565 299
5 ~ 9	5 550 007	2 841 813	2 708 194
10 ~ 14	5 884 275	3 013 782	2 870 493
15 ~ 19	6 028 600	3 096 387	2 932 213
20 ~ 24	6 304 880	3 228 469	3 076 411
25 ~ 29	7 154 666	3 642 952	3 511 714
30 ~ 34	8 213 960	4 180 032	4 033 928
35 ~ 39	9 688 045	4 926 663	4 761 382
40 ~ 44	8 650 602	4 381 848	4 268 754
45 ~ 49	7 966 133	4 015 388	3 950 745
50 ~ 54	7 608 317	3 807 362	3 800 955
55 ~ 59	8 656 055	4 296 539	4 359 516
60 ~ 64	10 054 575	4 936 772	5 117 803
65 ~ 69	8 230 222	3 933 785	4 296 437
70 ~ 74	6 987 391	3 235 341	3 752 050
75 ~ 79	5 972 225	2 593 169	3 379 056
80 ~ 84	4 363 274	1 700 191	2 663 083
85 ~ 89	2 446 197	747 287	1 698 910
90 ~ 94	1 026 309	242 932	783 377
95 ~ 99	297 633	55 994	241 639
100歳以上	43 901	5 859	38 042

資料：人口推計「平成22年国勢調査による基準人口」（総務省統計局）

資料：人口推計「平成22年国勢調査による基準人口」（総務省統計局）

死因分類の変更とその影響

我が国の死因統計は、死亡診断書等に記載された情報をもとに、世界保健機関（WHO）が勧告する国際疾病、傷害及び死因統計分類（ICD）に沿って作成されている。

このICDは、医学・医療の進歩や疾病構造の変化等に対応するため、おおむね10年毎に修正されており、平成2年（1990年）に第10回改訂国際疾病、傷害及び死因統計分類（ICD-10）が勧告された。我が国では、ICD-10を平成7年（1995年）から適用し、併せて死亡診断書の様式の改正も行った。

その結果、平成7年以降の死因統計上に以下のような影響がみられる。

1 ICD-10の適用による影響

死亡診断書に、複数の病名や原因が記載されている場合には、その中の一つを原死因として選び、統計を作成する必要がある。ICDでは、その方法が選択ルールとして標準化されているが、その解釈・適用に当たっては、各国事情により、ある程度の弾力的運用が可能となるようになっていた。しかしながら、ICD-10では、国際比較を同一基準でより厳密に行うため、国際基準としての選択ルールの統一的な解釈がより明確化された。

このため、日本における死因統計も従来のものに比べ、以下の変化がみられた。

- 肺炎の減少と脳血管疾患の増加
- 糖尿病の増加
- 肝硬変の減少と肝がんの増加
- がんの転移部位リストの新設によるがんの部位別死亡数の変化

2 死亡診断書の様式の改正による影響

死亡診断書に「疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください」という注意書きを加えたことにより、心不全の記入が減少し、心疾患全体としても減少した。

その後、平成18年からICD-10の一部改正の累積であるICD-10（2003年版）準拠の適用に伴い、分類の追加、削除、変更及び原死因選択ルールの変更が行われている。

年齢調整死亡率について

死亡率は年齢によって異なるので、国際比較や年次推移の観察には、人口の年齢構成の差異を取り除いて観察するために、年齢調整死亡率を使用することが有用である。

年齢調整死亡率の基準人口については、平成元年までは昭和10年の性別総人口（都道府県は昭和35年総人口）を使用してきたが、現実の人口構成からかけ離れてきたため、平成2年からは昭和60年モデル人口（昭和60年国勢調査日本人人口をもとに、ベビーブーム等の極端な増減を補正し、1,000人単位で作成したもの）を使用している。なお、計算式（5頁）中の「観察集団の各年齢階級の死亡率」は、1,000倍（死因別の場合は100,000倍）されたものである。

基準人口—昭和60年モデル人口—

年齢	基準人口	年齢	基準人口
0～4歳	8 180 000	50～54	7 616 000
5～9	8 338 000	55～59	6 581 000
10～14	8 497 000	60～64	5 546 000
15～19	8 655 000	65～69	4 511 000
20～24	8 814 000	70～74	3 476 000
25～29	8 972 000	75～79	2 441 000
30～34	9 130 000	80～84	1 406 000
35～39	9 289 000	85歳以上	784 000
40～44	9 400 000	総数	120 287 000
45～49	8 651 000		

